本文

第2649号 本文

官報

昭和十年十月三十日
第二千六百四十九號 水曜日

明治二十五年三月三十一日 第三種郵便物認可

目次抄錄

◎勅令 税務署官制中改正 頁 七六九
◎廳令 漁業組合規則 七六九
樺太酒造税規則中改正 七七一
◎達 陸軍給與令細則中改正其他 七七一
◎告示 無線局及託送發受所名等中削除其他 七七三
◎彙報 八月中ノ裁判所及檢事局取扱件數 七七六
八月中ノ郵便年金事業概況 七八〇
◎在外公館報告 上海爲替竝經濟情況 七八二
紐育ニ於ケル本邦產絹織物市況 七八三
「アルゼンティン」國貿易 七八三

勅令

朕税務署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年十月二十九日
内閣總理大臣 岡田 啓介
大藏大臣 高橋 是清

勅令第二百九十九號

税務署官制中左ノ通改正ス

別表廣島税務監督局ノ部中德山税務署ノ項「熊毛郡」ヲ「德山市 熊毛郡」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

廳令

◎樺太廳令第二十五號

漁業組合規則左ノ通定ム

昭和十年十月一日 樺太廳長官 今村 武志

漁業組合規則

第一條 本令ニ於テ組合令ト稱スルハ漁業組合令、組合ト稱スルハ漁業組合、聯合會ト稱スルハ漁業組合聯合會、支廳長ト稱スルハ所轄樺太廳支廳長ヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル漁業組合ノ施設ハ漁業法第四十三條ノ二第二項ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ之ヲ利用セシムルコトヲ得

一 船揚場、漁礁、乾場、共同倉庫、共同製造場其ノ他ノ設備
二 漁獲物及其ノ製品ノ保藏、運搬又ハ販賣ニ關スル設備
三 給水設備、電氣設備又ハ浴場

第三條 漁業法第四十三條ノ二第一項ニ組合員タルコトヲ得ザル者ト稱スルハ法令若ハ規約ノ定ムル所ニ依リ又ハ出資ノ能力ナキ爲漁業組合ニ加入スルコトヲ得ザル者ヲ謂フ

第四條 第二條ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムル場合ニ於テハ規約ニ其ノ旨ヲ定ムベシ

第五條 第二條ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシメントスルトキハ設立ノ許可申請書又ハ規約變更、合併若ハ分割ノ認可申請書ニ組合令第十五條第二項又ハ第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ施設ヲ利用セシムル理由
二 施設ノ規模
三 組合員ノ施設利用ノ程度
四 事業施行ノ方法
五 設備費
六 一事業年度ノ收支概算
七 組合員數及組合員タルコトヲ得ザル者ニシテ施設ヲ利用スルモノノ見込數

第六條 組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムル場合ニ於テ徵收スル利用料ハ實費ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條 漁業協同組合自ラ漁業ヲ營ムコトノ許可ヲ受ケントスルトキハ漁業ノ名稱每ニ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シ樺太廳長官ニ之ヲ提出スベシ

一 漁業ノ名稱
二 漁業ノ場所
三 漁業ノ時期
四 漁獲物ノ種類

第八條 前條ノ申請書ニハ組合員總會ノ決議錄ノ謄本、財產目錄、貸借對照表、經費收支決算書及自ラ營マントスル漁業ニ付漁業權又ハ入漁權ヲ有スルコトヲ證スル書面竝ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 自ラ漁業ヲ營マントスル理由
二 事業計畫、收支豫算及經營ノ方法
三 經營ニ要スル資金ヲ借入ルル場合ニ於テハ其ノ金額、利率、借入先及償還方法
四 操業ニ參加セシメントスル者ノ員數（漁業者タル組合員及其ノ家族、漁業者ニ非ザル組合員及其ノ家族竝ニ組合員ニ非ザル者ニ區別シテ記載スベシ）
五 最近三年ニ於ケル當該漁業ノ狀況
六 現ニ當該漁業ニ從事スル者ノ員數（組合員及其ノ家族竝ニ組合員ニ非ザル者ニ區別シテ記載スベシ）

自ラ營マントスル漁業ガ共有ノ漁業權ニ屬スル場合又ハ自ラ營マントスル漁業ニ付入漁ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外他ノ共有者又ハ入漁ヲ爲ス者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ、同意ナキトキハ其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

前二項ノ書類ノ外樺太廳長官ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第九條 第七條第二號乃至第四號ニ掲ゲタル事項ヲ變更セントスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ前條第一項第二號乃至第四號ニ掲ゲタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦同ジ

第十條 自ラ漁業ヲ營ムコトノ許可ヲ受ケタル漁業協同組合ハ每事業年度終了後二月以內ニ當該漁業ニ關スル事業報告書及經費收支決算書ヲ支廳長ニ提出スベシ

第十一條 左ニ掲グル事項ハ之ヲ支廳長ニ委任ス

一 組合令第二十條第一項第二號ノ決議ノ認可ニ關スル件
二 組合令第二十五條第五項ノ規定ニ係ル屆出ニ關スル件
三 組合令第三十二條第三項ノ規定ニ依ル理事又ハ監事ノ選任認可ニ關スル件
四 組合令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル報告ニ關スル件
五 組合令第三十八條第三項ノ規定ニ依ル假理事ノ選任ニ關スル件
六 組合令第四十一條ノ規定ニ依ル屆出ニ關スル件
七 組合令第四十三條ノ規定ニ依ル報告ニ關スル件

第2649号 本文

第十二條　本令中支廳長トアルハ地區ガ支廳ノ區域ヲ超ユル組合ニ在リテハ之ヲ樺太廳長官トス

第十三條　發起人組合令第十一條ノ規定ニ依リ創立總會招集ノ通知ヲ發スルトキハ同時ニ其ノ通知事項ヲ支廳長ニ報告スベシ

第十四條　組合又ハ聯合會ノ規約ニ左ニ揭グル事項ニ該當スル規定ヲ設ケタルトキハ設立許可申請書又ハ規約變更、合併若ハ分割ノ認可申請書ニ其ノ理由書ヲ添附スベシ

一　組合ノ地區町村又ハ町村內ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依ラザルトキ
二　理事ノ任期三年ヲ、監事ノ任期一年ヲ超ユルトキ
三　事業年度曆年ニ依ラザルトキ
四　拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率年八分ヲ超ユルトキ
五　出資一口ノ金額漁業協同組合ニ在リテハ三十圓ヲ、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルトキ
六　組合員ノ有スベキ出資口數三十口ヲ、所屬組合又ハ聯合會ノ有スベキ出資口數百口ヲ超ユルトキ

第十五條　組合令第二十條第一項第一號及第二號ノ決議ハ遲クトモ事業年度開始一月前ニ之ヲ爲スベシ

第十六條　組合ノ共同施設及其ノ施行ニ關スル事項ハ支廳長ノ認可ヲ受クベシ

第十七條　理事組合令第二十三條ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項及事由ヲ支廳長ニ報告スベシ

第十八條　組合令第二十五條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ求ムベキ通常總會ハ遲クトモ事業年度終了後三月以內ニ之ヲ開クベシ

第十九條　理事ハ總會招集ノ通知ヲ發スルトキハ同時ニ其ノ通知事項ヲ支廳長ニ報告スベシ

會議ヲ中止シ、延期シ又ハ流會シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ屆出ヅベシ

總會終了シタルトキハ決議錄ノ謄本ヲ添ヘ遲滯ナク之ヲ支廳長ニ報告スベシ

前三項ノ規定ハ監事ガ組合令第三十六條第三項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　總會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席組合員二人以上之ニ署名捺印スベシ

一　開會ノ日時及場所
二　組合員ノ總數
三　出席組合員ノ數
四　委任組合員ノ數
五　缺席組合員ノ數
六　議事ノ要領
七　議決シタル事項及贊否ノ數
八　閉會ノ日時

決議錄ハ通常ト臨時トヲ通ジテ會議ノ回數ヲ付スベシ

第二十一條　組合總代ヲ選任シタルトキハ其ノ住所、氏名及選任年月日ヲ、解任シタルトキハ其ノ氏名、解任年月日及解任ノ事由ヲ支廳長ニ屆出ヅベシ

第二十二條　總會ニ關スル規定ハ總代會ニ之ヲ準用ス

第二十三條　組合ハ其ノ取得シタル定置漁業權ヲ貸付セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ支廳長ノ認可ヲ受クベシ

一　漁業權ノ免許番號
二　貸付契約ノ要領
三　貸付ヲ受クベキ者ノ選定ノ方法竝ニ其ノ選定セラレタル者ノ住所、氏名、職業及信用程度
四　前各號ノ外參考トナルベキ事項

前項ノ規定ハ貸付契約ヲ變更シ又ハ解除スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　漁業法第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ行フ組合ノ理事ハ特別ノ事情ナキ限リ少クトモ毎月一回定期理事會ヲ開催シ組合ノ業務執行ニ付協議ヲ爲スベシ

前項ノ組合ノ監事ハ特別ノ事情ナキ限リ少クトモ毎年度二回組合ノ財產及理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査シ其ノ顚末ヲ監査簿ニ記載シ且之ニ署名捺印スルノ外監査記錄ヲ作成シ監査終了後二週間以內ニ之ヲ支廳長ニ提出スベシ

第二十五條　組合ハ別ニ定ムル帳簿ヲ備ヘ事務ヲ整理スベシ

第二十六條　組合ニ於テ處務規程、議事規則、業務施行細則其ノ他ノ諸規程ヲ設ケ又ハ改正シタルトキハ其ノ謄本ヲ支廳長ニ提出スベシ

第二十七條　理事又ハ理事ノ職務ヲ行フ者退職シタルトキハ引繼書ヲ作成シ其ノ末尾ニ引繼年月日ヲ記載シ後任者ト共ニ署名捺印スベシ

前項引繼ノ日時ハ豫メ支廳長ニ屆出ヅベシ

第二十八條　組合ノ財產目錄、貸借對照表、經費收支豫算書、經費收支決算書、事業報告書及剩餘金處分書ノ方式竝ニ記載事項ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ルベシ

第二十九條　組合ハ事務員ヲ雇入レタルトキハ其ノ住所、氏名及雇入年月日ヲ、解雇シタルトキハ其ノ氏名、解雇年月日及解雇ノ事由ヲ支廳長ニ屆出ヅベシ

事務員雇入レノ屆書ニハ其ノ事務員ノ履歷書ヲ添附スルヲ要ス

第三十條　漁業協同組合ノ剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テザルモノハ拂込ミタル出資額ガ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タザル場合ニ限リ配當スベキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年八分ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ年一割二分迄之ヲ增加スルコトヲ得

第三十一條　漁業協同組合ニ非ズシテ漁業法第四十三條ノ五ノ組織ヲ有スル組合ノ剩餘金ハ之ヲ配當スルコトヲ得ズ

第三十二條　理事及監事ハ規約ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ズ

第三十三條　漁業協同組合ガ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ、新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收シ又ハ組合員ヨリ過怠金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脫退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戾ヲ爲サザル場合ニ於テ其ノ拂戾ヲ爲サザル金額ニ付亦同ジ

漁業協同組合ニ非ザル組合ニ於テ徵收シタル加入金又ハ過怠金ハ之ヲ基金ニ組入ルベシ

第三十四條　組合ハ積立金ヲ支出セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ支廳長ノ認可ヲ受クベシ但シ遭難救恤資金ヲ其ノ目的ニ支出スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　積立金ノ種類及其ノ支出金額
二　積立金ノ現在額

三　支出ノ目的及其ノ理由
四　支出ノ方法
五　支出ノ目的ガ貸付ナルトキハ組合員一人ニ對スル貸付金額ノ最高限度、回收方法及回收期
六　前各號ノ外參考トナルベキ事項

第三十五條　組合ノ起債認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ決議錄ノ外組合ノ財產目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

一　起債金額
二　起債ノ目的及其ノ理由
三　借入先
四　償還ノ方法
五　償還年月日
六　利率
七　擔保ヲ必要トスルトキハ其ノ方法
八　起債ノ目的ガ貸付ナルトキハ組合員一人ニ對スル貸付金額ノ最高限度、回收方法及回收期
九　前各號ノ外參考トナルベキ事項

起債ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク契約書ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第三十六條　組合ハ負債ヲ償還シタルトキハ遲滯ナク其ノ償還金額、支拂利息金額、償還ノ方法及償還年月日ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第三十七條　組合經費ノ收支豫算ニ定メタル金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ但シ總會ノ決議ヲ經タルトキハ同一款內ニ屬スル各項間ニ限リ之ヲ流用スルコトヲ得

第三十八條　現金ハ總テ郵便局又ハ銀行ニ預入スベシ但シ百圓未滿ハ組合ニ於テ直接之ヲ保管スルコトヲ得

第三十九條　保證責任ノ漁業協同組合ノ組合員又ハ聯合會ノ所屬組合若ハ所屬聯合會ノ保證金額ハ其ノ出資額ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ズ

漁業協同組合ニ非ザル保證責任ノ組合ノ組合員ノ保證金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第四十條　出資一口ノ金額ハ漁業協同組合ニ在リテハ三十圓ヲ、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條　出資ノ第一回ノ拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第四十二條　第二條乃至第六條、第十一條及第十二條、第十五條乃至第二十一條、第二十四條乃至第三十條、第三十二條乃至第三十八條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス

第四十三條　組合又ハ聯合會ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ理事、監事又ハ假理事ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本令ニ依ル準備金又ハ基金ノ組入ヲ爲サザルコト
二　積立金ヲ不當ニ支出シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

漁業組合令施行規則ハ之ヲ廢止ス

◎樺太廳令第二十六號

樺太酒造稅規則中左ノ通改正ス

昭和十年十月六日　樺太廳長官　今村　武志

第一條ノ六第二項中「甘藷、」ノ下ニ「菊芋、」ヲ加フ

第一條ノ八中「甘藷、」ノ下ニ「菊芋、」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

達

◎陸達第三十四號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日　陸軍大臣　川島　義之

第七條　削除

第十六條中「官職」ヲ「官」ニ改ム

第二十條ノ三　前六條ノ諸加俸ノ支給ニ付テハ俸給又ハ給料ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十四條ノ二第一項ヲ左ノ如ク改ム

豫備役、後備役下士官ニシテ再ヒ現役ト爲リ營內ニ居住スル者ノ退營賜金額ハ前後ニ於ケル在營年數ヲ通算シ之ニ相當スル金額ヨリ前ニ支給シタル額ヲ控除シタル額トス

第五十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本令第三十條ニ於テ中隊ニ準スルモノトハ機關銃隊、步兵砲隊、野砲兵聯隊高射砲隊、下士官候補者隊、固定無線隊、整備隊、步兵學校通信隊、同戰車隊、騎兵學校無線電信敎習隊、同裝甲自動車隊、野戰砲兵學校情報隊、重砲兵學校練習生隊、濱松陸軍飛行學校練習隊及自動車學校練習隊ヲ謂フ

第五十三條第一項第一號中「第六第七號該當者」ヲ「第五號及第六號該當者」ニ、同項第二號中「一期入營部隊（第四號ニ該當スルモノヲ除ク）ノ步兵兵」ヲ「步兵兵（第三號ニ該當スルモノヲ除ク）」ニ、同項第五號中「步兵兵」ヲ「步兵兵、看護兵及磨工兵」ニ、「青年訓練未修了者、同檢定不合格者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得セサル者、陸軍大臣ノ定ムル檢定不合格者」ニ改メ同項第十一號中「入營當日」ノ下ニ「（入營後轉屬アリタルトキハ轉屬當日）」ヲ加ヘ、同項第三號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ以下順次繰上ク

第五十三條ノ二　軍隊ニシテ編制改正、海外派遣等ノ爲定員ニ不足シ又ハ超過シタル間ニ於ケル被服費定額ハ左ノ區分ニ依ル

一　海外派遣等ノ爲定員ニ不足ヲ生シタルトキハ其ノ人員及派遣月數（出發ノ翌月ヨリ歸著ノ當月迄）ニ應シ下士官兵被服、特種被服及備附被服（寢具）ノ各年額ノ月割額ヲ減ス
二　編制改正其ノ他ニ依リ一時定員ニ超過シタルトキハ其ノ人員及在營月數（過員トナリタル翌月ヨリ定員ニ編入又ハ轉出ノ當月迄）ニ應シ下士官兵被服、特種被服及備附被服ノ各年額ノ月割額ヲ交付ス

第五十七條ノ二中「第十二號」ヲ「第十一號」ニ、「及第五十四條」ヲ「、第五十三條ノ二及第五十四條」ニ改ム

第六十六條第三項中「前二項」ヲ「第一項及第二項」ニ改メ同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項勤務月數ノ算定ニ付テハ第五十二條第四項ノ規定ヲ準用ス

第七十五條ノ二乙號中「野砲兵隊」ノ下ニ「、山砲兵隊（十五榴大隊ニ限ル）」ヲ加フ

第八十九條第一號ヲ左ノ如ク改メ同條第四號中「青年訓練未修了者、同檢定不合格者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得セサル者、陸軍大臣ノ定ムル檢定不合格者」ニ改ム

一　步兵兵及看護兵ニ在リテハ消耗品料及陣營具永續料ハ其ノ定員ノ四分ノ三ニ應シ年額ヲ、煖室用薪炭料ハ其ノ定員ノ二分ノ一ニ應シ年額ヲ、同定員ノ二分ノ一ニ應シ入營當月以降ノ給與月數（端月ハ切上ク以下同シ）ニ應スル年額ノ月割額（當該給與期間ニ相當スル月數ニテ年額ヲ除シタル額以下同シ）ヲ交付ス但シ近衞師團各部隊ノ煖室用薪炭料ハ定員ニ應シ年額ヲ交付ス

第九十二條中「入營當日」ノ下ニ「（入營後轉屬アリタルトキハ轉屬當日）」ヲ加フ

第2649号　本文

第十一表消耗品料高射砲隊ノ行中

「

高射砲隊	四〇八			三九六〇	

」ヲ

「

高射砲隊					
第一	四〇八			三九六〇	
第二	二八八				

」ニ改ム

第十二表煖室用薪炭料及給與期間高射砲隊ノ行中第三區ノ欄「

」ヲ「

五四〇	一九二〇

」ニ改メ同表備考第一號中「歩兵第九聯隊二百四十八圓」ヲ削ル

附　則

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第五十三條第一項第三號及第八十九條第一號ノ改正規定ハ昭和十年十二月一日、第二表生徒被服、第四表備附被服（其ノ一）、第四表備附被服（其ノ二）、第四表備附被服（其ノ三）、第四表備附被服（其ノ四）、第十一表消耗品料、第十二表煖室用薪炭料及給與期間及第十四表陣營具永續料ノ改正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ編制改正著手ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸達第三十五號

臺灣駐箚陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日　陸軍大臣　川島　義之

第四條　營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ依リ營內ニ居住セシムル場合ニ在リテモ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第二十三條　削除

第二十七條及第二十八條中「傭役者」ヲ「傭人」ニ改ム

第一表在勤加俸中「一、二等兵　同級兵」ヲ「一、二等兵　同級兵　幹部候補生」ニ改ム

第十表備附被服（其ノ一）飛行聯隊ノ行中「二九九」ヲ「三六九」ニ改ム

第十表備附被服（其ノ二）飛行聯隊ノ行中「五〇」ヲ「五五」ニ、「一四」ヲ「一七」ニ、「四」ヲ「七」ニ、「一六」ヲ「二一」ニ改ム

第十五表消耗品料備考第四號中「當該長官」ヲ「軍司令官」ニ改ム

第十七表陣營具永續料備考ニ左ノ一號ヲ加フ

四　經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ軍司令官ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊數及人馬數トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ增減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附　則

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第十表備附被服（其ノ一）及第十表備附被服（其ノ二）ノ改正規定ハ當該部隊ノ編制改正著手ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸達第三十六號

朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日　陸軍大臣　川島　義之

第十條　營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ依リ營內ニ居住セシムル場合ニ在リテモ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第一表在勤加俸中「一、二等兵　同級兵」ヲ「一、二等兵　同級兵　幹部候補生」ニ改ム

第五表備附被服（其ノ一）中

「

	歩兵聯隊	騎兵聯隊	野砲兵聯隊	工兵大隊	飛行聯隊
定員ニ對スル員數但シ定員ナキモノハ現人員ニ依ル	一四八三	五一七	八三一	五二〇	四一四
	六六			二四	二三

」ヲ

「

	歩兵聯隊	騎兵聯隊	野砲兵聯隊	山砲兵聯隊	工兵大隊	飛行聯隊 第六	飛行聯隊 第九
定員ニ對スル員數但シ定員ナキモノハ現人員ニ依ル	一四八三	五一七	八三一	一二四三	五二〇	四一四	五一五
	六六				二四	二三	三〇

」ニ、衛戍病院羅南ノ行中「一八」ヲ「二二」ニ、「一八〇」ヲ「二一六」ニ、「一九八」ヲ「二三八」ニ、「二五」ヲ「三一」ニ、「二三」ヲ「二七」ニ、「二七」ヲ「三二」ニ、「七」ヲ「九」ニ改ム

第五表備附被服（其ノ二）中

「

飛行聯隊
六九
一八
二〇
四八七
八七
三

」ヲ

「

飛行聯隊 第六	飛行聯隊 第九
六九	六〇
一八	一八
二〇	一八
四八七	六六〇
八七	六〇
三	三〇

」ニ改ム

第九表消耗品料中

「

野砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
六二四	三七二	四〇八	
五〇四〇		四五六〇	
五六四	三一二	三四八	六一八
四四四〇		三九六〇	四四四〇

」ヲ

「

野砲兵隊	山砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
	八〇四	三七二	四〇八	二、一五二
	五〇四〇		四五六〇	五〇四〇
五六四		三一二	三四八	六一八
四四四〇		四四四〇	三九六〇	四四四〇

」ニ、

同表備考中「龍山」ヲ「京城」ニ改ム

第九表ノ二煖室用薪炭料及給與期間中

「

	歩兵隊	騎兵隊	野砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
圓	三、二八三	二、二四七	三、六四四	一、九二五	二、一六三	
圓	八六八〇					
圓	二、六六〇	一、八二〇	三、〇二五	一、五五四	一、七五七	
圓	七〇〇〇					
圓	二、九二六					三、一四三
圓	七九一〇		七九一〇			七九一〇

」ヲ

「

	歩兵隊	騎兵隊	野砲兵隊	山砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
圓	三、二八三	二、二四七		三、七四七	一、九二五	二、一六三	四、七八八
圓	八六八〇			八六八〇			
圓	二、六六〇	一、八二〇	三、〇二五		一、五五四	一、七五七	
圓	七〇〇〇				七〇〇〇		
圓	二、九二六						三、一四三
圓	七九一〇		七九一〇				七九一〇

」ニ、「龍山」ヲ「京城」ニ改ム

附　則

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第五表備附被服（其ノ一）、第五表備附被服（其ノ二）、第九表消耗品料、第九表ノ二煖室用薪炭料及給與期間及第九表ノ五陣營具永續料ノ改正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ編制改正著手ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸達第三十七號

支那駐箚陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日　陸軍大臣　川島　義之

第一條中「在外國公使館附武官」ヲ「在外國大使館附及公使館附陸軍武官」ニ改ム

第二條　傷痍疾病ノ爲支那ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ス軍人軍屬ノ俸給給料ハ時日ノ長短病症ノ等差ニ拘ラス之ヲ減スルコトナシ但シ傭人ニシテ特ニ規定（雇員傭人給料支給規則ヲ除ク）又ハ契約アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ者ニシテ入院、轉地療養等ノ爲本邦ニ還送セラレ又ハ歸還スルトキハ本邦內ノ陸軍病院ニ入院スル者ニ在リテハ入院ノ日、其ノ他ノ者ニ在リテハ本邦港灣上陸ノ日ヨリ一般給與ノ規定ニ依ル

第十五條　准士官以上營外居住ノ下士官以下及軍屬ハ俸給給料及在勤加俸ノ全部又ハ一部ヲ本人ノ指定スル者ニ於テ受領スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル受領金ノ請求及支給手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十七條中「傭役者」ヲ「傭人」ニ改メ同條第二項中「竝ニ從卒及馬卒」ヲ「及馬丁」ニ改ム

第五表被服料及第六表陸軍傭人被服中「從卒馬卒」ヲ「馬丁」ニ改ム

告　示

◎遞信省告示第二千八百二十號

昭和十年十月二十九日限リ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號無線局及託送發受所名等中「千壽丸託送」ノ項ヲ削除ス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百二十一號

本日ヨリ左記電信取扱所ヲ設置シ無線電報ニ限リ之ヲ取扱フ

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

名稱	位置
千壽丸無線電信取扱所（析木商事株式會社所屬汽船千壽丸）	定繫港　神戸

◎遞信省告示第二千八百二十二號

本日ヨリ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號無線局及託送發受所名等中「郵船秩父丸」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

局名	呼出符號
千壽丸	JXBB

◎遞信省告示第二千八百二十三號

門司ニ於ケル報時信號ハ休止中（昭和十年十月遞信省告示第二千六百三十九號參照）ノ處昭和十年十月二十六日ヨリ之ヲ開始セリ

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百二十四號

大正八年五月遞信省告示第六百四十號鐵道列車內及船舶內ニ於ケル郵便現業事務ノ所掌郵便局線路區域及管轄遞信局ノ件別表仙臺遞信局ノ下仙臺鐵道船舶郵便局ノ線路區域中「米澤羽前津川線」ヲ「米澤小國線」ニ改メ本日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百二十五號

昭和十年四月遞信省告示第千百三十三號滿洲國ニ於ケル外國價格表記書狀及箱物ノ取扱郵便局名表間島（Chientao）ノ項中龍井村（Lungchingtsun）ノ次ニ「明月溝（Mingyüehkow）」ヲ加ヘ「甕聲搯子（Wengshenglatze）」ヲ削ル

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百二十六號

昭和十年四月遞信省告示第千百三十五號滿洲國ニ於ケル外國代金引換通常郵便物ノ取扱郵便局名表間島（Chientao）ノ項中龍井村（Lungchingtsun）ノ次ニ「明月溝（Mingyüehkow）」ヲ加ヘ「甕聲搯子（Wengshenglatze）」ヲ削ル

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百二十七號

昭和十年十一月一日ヨリ左記郵便局ニ電信及電話通話事務ヲ開始ス但シ電報配達及呼出事務ヲ取扱ハス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

名稱	位置
鹿兒島竪馬場郵便局	鹿兒島市和泉屋町
鹿兒島廣馬場郵便局	同堀江町
鹿兒島藥町郵便局	同易居町
鹿兒島大門口郵便局	同松原町
鹿兒島新屋敷郵便局	同新屋敷町
鹿兒島上荒田郵便局	同上荒田町
鹿兒島武郵便局	同武町
鹿兒島高見馬場郵便局	同西千石町
鹿兒島千石馬場郵便局	同東千石町
鹿兒島藥師町郵便局	同藥師町
鹿兒島高麗町郵便局	同高麗町
宮崎高松通郵便局	宮崎市高松通
宮崎花ケ島郵便局	同神宮東町
都城兵營前郵便局	都城市鷹尾町兵營通
都城驛前郵便局	同北原町四丁目
西都城驛前郵便局	同旭町四丁目

◎遞信省告示第二千八百二十八號

昭和十年十一月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス但シ電報配達事務ヲ取扱ハス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

名稱	位置
鹿兒島銀座郵便局	鹿兒島市南林寺町

◎遞信省告示第二千八百二十九號

昭和十年十一月一日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス但シ呼出事務ヲ取扱ハス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

名稱	位置
鹿兒島下荒田郵便局	鹿兒島市下荒田町
鹿兒島西田郵便局	同西田町
鹿兒島草牟田郵便局	同草牟田町
宮崎橘通郵便局	宮崎市橘通
都城中町郵便局	都城市中町

◎遞信省告示第二千八百三十號

昭和十年十月二十八日限リ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號無線局及託送發受所名等中「第拾貳播州丸託送」ノ項ヲ削除ス

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

◎遞信省告示第二千八百三十一號

無線電信法第二條ニ依リ左記私設無線電信無線電話施設ヲ許可セリ

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

一、施設者名　大島村漁業組合
二、施設ノ目的　無線電信法第二條第一號、第三號及第六號ニ依リ航行ノ安全、電報送受及漁獲ニ關スル通信ニ使用
三、機器裝置場所　帆船大新丸（タイシンマル）（定繫港宮城縣大島）
四、呼出符號　JWYJ（無線電話呼出名稱大新丸）
五、空中線電力　第一裝置　無線電信　一五〇「ワット」
無線電話　七五「ワット」
第二裝置　無線電信　六〇「ワット」
六、使用電波ノ型式及周波數　第一裝置　A1及A2　三七五
五〇〇及一三六四
kc　A3　一六五〇kc
第二裝置　A1　四一四〇　六
二一〇　八二八〇
及一二四二〇kc
七、通信執務時間　不定

◎遞信省告示第二千八百三十二號

左記私設無線電信ノ施設者名義ヲ下記ノ通變更ヲ許可セリ

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

關係告示	舊施設者名	機器裝置場所	新施設者名
大正十五年三月遞信省告示第六百八十六號	日魯漁業株式會社	汽船大成丸	嶋谷汽船株式會社

◎遞信省告示第二千八百三十三號

昭和十年十月二十二日ヨリ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號無線局及託送發受所名等中「日魯大成丸託送」ノ項ヲ左ノ通改ム

昭和十年十月三十日　遞信大臣　望月　圭介

發受所名	呼出符號	對手電信官署	發受電報ノ種別
嶋谷大成丸託送（シマタニタイセイマルタクソウ）（嶋谷汽船株式會社大成丸）	JEHB	各海岸局及各船舶局	和文電報

正誤

本月十日內務省令第五十七號丸龜都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件第四條十四行「同時」ハ「同等」ノ誤同十九行及二十行ハ一字上ルヘキノ誤（以上誤植）

敍任及辭令

◎昭和十年十月二十三日
陸軍步兵大尉從六位勳五等　淸田　圓
任陸軍步兵少佐
◎昭和十年十月二十九日
從三位勳二等　佐野　善作
（各通）同　小川　政修
同　田中　昌太郎
敍正三位
從四位勳三等　長岡　熊雄
（各通）
從四位勳四等　外山　重義
敍正四位
正五位勳四等　泉　哲
（各通）
正五位勳五等　甲斐莊　正顯
敍從四位
海軍大尉從六位勳五等　永山　俊三
任海軍少佐
鐵道局技師從六位　小西　桂太郎
任鐵道技師
敍高等官五等
鐵道技師陸軍工兵軍曹正六位　山本　利三郎
任鐵道局技師
敍高等官四等
朝鮮總督府全羅南道警部勳八等　高橋　敬一
任朝鮮總督府道警視
敍高等官七等

正七位　川口　一二
任都市計畫地方委員會技師兼地方技師
敍高等官五等

國幣小社高瀨神社宮司從六位　安在　政義
官幣中社住吉神社宮司被仰付
別格官幣社靈山神社宮司正七位　松浦　敬一
國幣小社古四王神社宮司被仰付
別格官幣社結城神社禰宜正八位　鵜飼　龍一
別格官幣社靈山神社宮司被仰付
國幣小社高瀨神社禰宜正八位　尾崎　定業
國幣小社高瀨神社宮司被仰付
國幣小社古四王神社宮司　龜井　寬造
依願國幣小社古四王神社宮司被免（以上十月二十九日內閣）
樂師　多　忠行
陞シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル（十月二十九日宮內省）
從三位勳二等　佐野　善作
同　小川　政修
退職檢事從三位勳二等　田中　昌太郎
（各通）退職檢事從四位勳三等　長岡　熊雄
退職檢事從四位勳四等　外山　重義
正五位勳四等　泉　哲
正五位勳五等　甲斐莊　正顯
特旨ヲ以テ位一級被進
御歌所長子爵　入江　爲守
昭和十一年歌會始選者點者被仰付
御歌所參候伯爵　大原　重明
（各通）御歌所參候　栗山　直扶
昭和十一年歌會始奉行被仰付（以上十月二十九日同）
地方技師　川口　一二
大阪府勤務ヲ命ス
都市計畫地方委員會技師　川口　一二
六級俸下賜
都市計畫大阪地方委員會勤務ヲ命ス（以上十月二十九日內務省）
大湊海軍航空隊整備長兼分隊長橫須賀海軍軍需部部員大湊要港部部員海軍機關少佐　小川　又雄
免兼大湊海軍航空隊分隊長

館山海軍航空隊附海軍機關中尉　中村　善一
補大湊海軍航空隊分隊長
海軍機關中尉　高田　收藏
補館山海軍航空隊附
佐世保海軍航空隊附海軍機關中尉　小中　茂雄
補龍驤乘組
海軍機關中尉　中川　高德
補大村海軍航空隊附
同　齋藤　利之
補吳海軍航空隊附
同　古川　尙志
補橫須賀海軍航空隊附兼敎官
同　川口　榮一
補佐世保海軍航空隊附
同　伊藤　祐可
補舞鶴海軍航空隊附
霞ヶ浦海軍航空隊附兼敎官海軍機關中尉　豐田　祝三
補加賀乘組
神威乘組海軍機關中尉　高野　二郎
補大湊海軍航空隊附
鳳翔乘組海軍機關中尉　遊橋　辰雄
補佐世保海軍航空隊附
佐世保海軍航空隊附海軍機關中尉　志岐　六郎
補鳳翔乘組
吳海軍航空隊附海軍機關中尉　新谷　里美
補神威乘組
館山海軍航空隊附海軍機關少尉　坂本　善輝
（各通）
大湊海軍航空隊附海軍機關少尉　岩波　彊
補霞ヶ浦海軍航空隊附兼敎官（以上十月二十九日海軍省）
朝顏乘組海軍特務少尉　大西　賴一
（各通）刈萱乘組海軍特務少尉　玉井　林治郎
吳鎭守府附被仰付（十月二十九日吳鎭守府）
大阪地方裁判所判事　寺島　祐一
豫審掛ヲ命ス
豐岡區裁判所判事兼神戶地方裁判所豐岡支部判事　前田　了吉
補神戶地方裁判所判事兼神戶區裁判所判事

函館地方裁判所判事兼函館區裁判所判事　前川　透
補豐岡區裁判所判事兼神戶地方裁判所豐岡支部判事
豫審掛ヲ命ス
鳥取地方裁判所判事兼鳥取區裁判所判事　尾坂　貞治
補函館地方裁判所判事兼函館區裁判所判事
神戶地方裁判所判事兼神戶區裁判所判事　石井　末一
補大阪地方裁判所判事兼大阪區裁判所判事
（以上十月二十九日司法省）
新潟醫科大學助敎授　小池上　春芳
本俸十級俸下賜
職務俸金參百圓下賜
公立中學校敎諭　室橋　春爾
新潟縣立糸魚川中學校敎諭ニ補ス
公立實業學校敎諭　三澤　長次
岩手縣立盛岡商業學校敎諭ニ補ス（以上十月二十九日文部省）
北海道帝國大學助敎授　中村　幸彥
（各通）同　黑岩　保
同　安保　壽
在外研究中俸給百分ノ四十ヲ支給ス
公立實業學校敎諭　權田　一郎
長野縣南安曇農學校敎諭ニ補ス（以上十月二十九日同）
鐵道局技師　津田　滿壽次
大阪鐵道局勤務ヲ命ス
同　山本　利三郎
五級俸下賜
大阪鐵道局福知山運輸事務所長ヲ命ス
鐵道技師　小西　桂太郎
六級俸下賜
運輸局運轉課勤務ヲ命ス
鐵道局副參事　吉澤　彌平
名古屋鐵道局勤務ヲ命ス（以上十月二十九日鐵道省）
臺灣總督府師範學校敎諭　本田　乙之進
臺南師範學校長事務取扱ヲ命ス
同　藤谷　芳太郎
臺北第二師範學校長事務取扱ヲ命ス（以上十月二十二日臺灣總督府）

臺灣公立高等女學校長　松平　治郎吉
三級俸下賜
（各通）同　塚本　淸吉
臺灣總督府交通局副參事　中村　寬康
二級俸下賜（以上十月二十二日同）
臺灣總督府師範學校長　藤谷　芳太郎
六級俸下賜
補臺北第二師範學校長
同　松谷　治平
六級俸下賜
補臺中師範學校長
同　本田　乙之進
六級俸下賜
補臺南師範學校長
臺灣公立高等女學校長　美間　正道
六級俸下賜
補新竹高等女學校長
同　松井　實
六級俸下賜
補臺南第一高等女學校長
臺灣總督府技師　大江　二郎
八級俸下賜
殖產局鑛務課勤務ヲ命ス（以上十月二十二日同）
臺灣產業主事　下茂　民夫
新竹州產業主事ニ補ス
臺灣產業技師　波越　廉平
臺中州產業技師ニ補ス（以上十月二十二日同）
臺灣總督府中央研究所技師　堀內　次雄
臺北帝國大學總長　幣原　坦
臺灣總督府交通局總長　堀田　鼎
臺灣總督府內務局長　小濱　淨鑛
臺灣總督府技師　井手　薰
臺灣總督府交通局技師　松本　虎太
拓務省管理局長　萩原　彥三
臺灣總督府殖產局長　中瀨　拙夫
臺灣總督府文敎局長　深川　繁治
臺灣總督府警務局長　石垣　倉治
臺灣總督府財務局長　岡田　信

臺北帝國大學敎授　早坂　一郎
臺灣總督府事務官　川村　直岡
（各通）
臺北帝國大學敎授　日比野　信一
內務技師　田村　剛
從三位勳三等　岡部　長景
從六位　河村　徹
顏　國年
郭　廷俊
從七位勳六等　梅野　淸太
從四位勳三等　松木　幹一郎
松岡　富雄
從七位　眞木　勝太
荒木　正次郎
坂本　素魯哉
宮本　一學
臺灣國立公園委員會委員ヲ命ス
臺灣總督府內務局長　小濱　淨鑛
臺灣總督府中央研究所技師　關　文彥
臺灣總督府事務官　高橋　秀人
同　石井　龍猪
臺灣總督府交通局參事　小川　嘉一
臺灣總督府事務官　木原　圓次
同　鈴木　秀夫
（各通）
內務技師　田村　剛
臺灣總督府事務官　西村　高兒
同　玉手　亮一
臺灣總督府土木事務官　倉內　孝
臺灣國立公園委員會幹事ヲ命ス
陸軍少將　荻洲　立兵
（各通）
海軍大佐　酒井　武雄
臺灣國立公園委員會臨時委員ヲ命ス（以上十月二十二日同）
關東遞信官署遞信副事務官　近藤　儀一
關東局在外研究員ヲ命ス（十月二十九日關東局）
關東局敎育主事　榊原　喜久治
九級俸下賜
司政部行政課勤務ヲ命ス（十月二十九日同）
關東遞信官署遞信副事務官　村上　光重
八級俸下賜
新京中央郵便局臨時在勤ヲ命ス（十月二十九日同）

關東中學校敎諭　淸野　謙藏
七級俸下賜
大連第一中學校勤務ヲ命ス
關東高等女學校敎諭　茂木　完株
六級俸下賜
大連神明高等女學校勤務ヲ命ス
同　脇　太一
七級俸下賜
大連神明高等女學校勤務ヲ命ス（以上十月二十九日同）
師範學校敎諭　山田　實
六級俸當分千七百四十圓下賜
公立高等女學校長　柴谷　與助
九級俸下賜（以上十月二十九日青森縣）
地方統計主事　村上　英
九級俸下賜
公立圖書館長　大田　光次
四級俸下賜
地方農林技師　高石　發
六級俸下賜
同　嵐　嘉一
十級俸下賜
同　兒島　光信
（各通）
同　竹內　節彥
十一級俸下賜
道路技師　岩井　鐵二
十級俸下賜
道路技師兼土木技師　後藤　龍雄
七級俸下賜
建築技師　日夏　義雄
十一級俸下賜
衛生技師　村田　晋
七級俸下賜
地方農林技師　高橋　道太郎
十級俸下賜
衛生技師　五斗　武夫
三級俸下賜（以上十月二十九日福岡縣）
公立青年學校長兼公立青年學校敎諭　時任　義彥
十級俸下賜
同　時任　要
（各通）
同　桑畑　荒太
十一級俸下賜（以上十月二十九日宮崎縣）

第 2649 号 本文

宮廷錄事

◎**行幸仰出**　天皇陛下來ル十一月五日午後二時御出門新宿御苑ニ於ケル觀菊會ニ行幸アラセラルヘキ旨仰出サレタリ但シ雨天ノ節ハ行幸アラセラレス

◎**謁見**　本邦駐箚中華民國特命全權大使蔣作賓今般歸國ニ付御暇乞ノタメ昨二十九日午前十一時　天皇陛下ニ謁見仰付ケラレタリ

米國副大統領ジョン、ナンス、ガーナー竝下院議長ジョセフ、ダブリュー、バーンズ今般渡來ニ付敬意ヲ表スルタメ同國臨時代理大使エドヴィン、エル、ネヴィル同件同日午前十一時　天皇陛下ニ謁見仰付ケラレタリ

◎**拜謁竝賢所參拜**　今般外國ヨリ歸朝ノ特命全權大使松島肇ハ昨二十九日午前十一時　天皇陛下ニ拜謁畢テ　賢所參拜仰付ケラレタリ

◎**御祝電**　昨二十九日土耳其國共和宣言日ニ付　天皇陛下ヨリ同國大統領閣下ヘ御祝電ヲ御發送アラセラレタリ

彙報

○官廳事項

◎**大阪駐在ポーランド國名譽領事御認可**　今般松岡潤吉大阪駐在ポーランド國名譽領事ニ任命セラレタルニ付本月十九日附ヲ以テ其職務執行ニ關スル御認可狀御下付相成リタリ

◎**在本邦滿洲國大使館隨習祕書官更迭**　在本邦滿洲國大使館隨習祕書官孫錯ハ本月一日同國外交部事務官ニ任セラレ同部通商司ニ轉勤ヲ命セラレタル旨竝ニ其後任トシテ同國外交部事務官谷中山同日隨習祕書官トシテ同大使館勤務ヲ命セラレ同十九日著任セル旨本邦駐箚同國大使ヨリ同二十一日附ヲ以テ通知アリタリ

◎**退職**　高知縣公立小學校長中山元樹ハ本月十四日願ニ依リ退職ヲ命セラレタリ

◎**官吏死去**　朝鮮公立女子高等普通學校教諭從七位森田久太郎ハ去月二十七日、朝鮮總督府稅務監督局副事務官從七位勳八等波岡柳彌ハ本月十日、鐵道局副參事從七位坪根三之助ハ同十三日、朝鮮總督府專賣局副事務官從七位勳八等若山利秋ハ同十五日孰モ死去セリ

◎**神職死去**　小樽市縣社住吉神社社司（奏任待遇）正七位星野三郞ハ本月十二日死去セリ

○司法

◎**裁判所及檢事局取扱件數**　裁判所及檢事局ニ於テ昭和十年八月中取扱ヒタル件數左ノ如シ（司法省）

昭和十年八月中新ニ受理シタル民事事件九萬五千二百五十一件之ニ舊受十萬五千九百七十六件ヲ加フレハ合計二十萬千二百二十七件ニシテ終局シタルモノ八萬六千四百二十七件、終局セサルモノ十一萬四千八百件之ヲ前月ニ比スレハ終局セサルモノ八千八百二十四件ヲ增加シ新受九千七百三十三件、舊受八百八十九件、終局シタルモノ一萬九千四百四十六件ヲ各ゝ減少セリ

民事訴訟事件第一審判決百ニ對スル控訴ノ比例ハ控訴ヲ爲シタルモノ三十八件、控訴ヲ爲ササルモノ六十二件ニシテ控訴判決ノ結果控訴ヲ棄却シタルモノ六十七件、原判決ヲ取消シタルモノ三十三件ナリ

同上第二審判決百ニ對スル上告ノ比例ハ上告ヲ爲シタルモノ九十五件、上告ヲ爲サヽルモノ五件ニシテ上告判決ノ結果上告ヲ棄却シタルモノ八十五件、原判決ヲ破毀シタルモノ十五件ナリ

同月中新ニ受理シタル刑事事件一萬千三百三件、舊受六千百件、合計一萬七千四百三件ニシテ終局シタルモノ九千九百六十四件、終局セサルモノ七千四百三十九件ナリ之ヲ前月ニ比較スレハ新受千二百三十九件ヲ減少シ舊受二百四十三件ヲ增加シ合計ニ於テ九百九十六件、終局シタルモノ二千三百三十五件ヲ各ゝ減少シ終局セサルモノ千三百三十九件ヲ增加シタリ

刑事訴訟事件第一審判決百ニ對スル控訴ノ比例ハ控訴ヲ爲シタルモノ十八件七分、控訴ヲ爲サヽルモノ八十一件三分ニシテ控訴裁判結果ノ比例ハ控訴ヲ棄却シタルモノナク刑ノ言渡九十八件四分、無罪、免訴及刑ノ免除一件、公訴棄却六分ナリ

同上第二審判決百ニ對スル上告ノ比例ハ上告ヲ爲シタルモノ三十七件七分、上告ヲ爲サヽルモノ六十二件三分ニシテ上告裁判結果ノ比例ハ上告ヲ棄却シタルモノ九十六件六分、刑ノ言渡一件七分、公訴棄却一件七分ナリ

陪審事件ハ新受百三十八件、舊受百二十一件、合計二百五十九件內法定ニ因ルモノ二百五十九件請求ニ因ルモノナク地方裁判所ニ於テハ通常事件八十二件七分、陪審事件十七件三分ノ比例ナリ而シテ陪審評議ヲ經刑ノ言渡ヲ爲シタルモノ一件、公訴棄却一件、自白、辭退ニ因リ通常裁判ノ手續ニ從ヒタルモノ百二十九件ナリ

略式命令ノ請求ヲ受ケタルモノ新受五千二百八十三件、舊受三百五十一件、合計五千六百三十四件ニシテ區裁判所ニ於テハ通常事件四十七件九分、略式事件五十二件一分ノ比例ナリ而シテ略式命令ヲ爲シタルモノ四千九百八十一件ニシテ之ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルモノ新受百六十四件、舊受百七十九件、合計三百四十三件ニシテ判決ニ依リ終了シタルモノ八十八件ナリ

檢事局ニ於テハ新ニ受理シタル事件四万二千四件ニシテ舊受一萬四千三百四十四件、合計五万六千三百四十八件ナリ而シテ處理シタルモノ三萬九千二百六十四件、處理未濟ノモノ一万七千八十四件ナリ之ヲ前月ニ比較スレハ新受二千百七十九件ヲ減少シ舊受二千百七件ヲ增加シ合計ニ於テ七十二件、處理シタルモノ二千八百十四件ヲ各ゝ減少シ處理未濟ノモノ二千七百四十二件ヲ增加シタリ

以上裁判所ノ權限ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

民事事件		總數			既濟													未濟			
		舊受	新受	計	判決						判決以外ノ事由						計	審理中	中斷	中止	計
					原告			棄却	取消	破毀	却下	其他ノ處分ニ因ル終了	調	不調	取下	其他					
					勝訴		敗訴														
					全部	一部															
區裁判所	通常訴訟	三六、六〇六	一二、六四八	四九、二五四	二、四五三	一一二	二三九	—	—	—	二九五	四二	一、六二七	—	三、〇八一	四五	七、八九四	三九、七三三	二三三	一、三九四	四一、三六〇
	禁治產、準禁治產	一一二	五四	一六六	—	—	—	—	—	—	—	二三	—	—	一二	—	三五	一三一	—	—	一三一
	失踪	五二〇	七二	五九二	三一	—	—	—	—	—	—	一五	—	—	七	—	五三	五三九	—	—	五三九
	督促	三九	二一、三一六	二一、三五五	—	—	—	—	—	—	一	二一、三一六	—	—	四	—	二一、三二一	三四	—	—	三四
	和解	六一六	二、一八五	二、八〇一	—	—	—	—	—	—	—	二	一、八八九	八七	七五	—	二、〇五三	七四八	—	—	七四八
	再審	八	—	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八	—	—	八
	假差押、假處分	一四四	三、六五八	三、八〇二	二	—	—	—	—	—	四二	三、五七五	—	—	六五	—	三、六八四	一一八	—	—	一一八
	强制執行	四、九〇七	一、七〇六	六、六一三	—	—	—	—	—	—	九	一、一六三	—	—	四二〇	三	一、五九五	五、〇一八	—	—	五、〇一八
	競賣法ニ依ル競賣	一四、七〇七	三、三九八	一八、一〇五	—	—	—	—	—	—	五	一、六一六	—	—	一、四五一	—	三、〇七二	一五、〇三三	—	—	一五、〇三三
	非訟事件手續法ニ依ル非訟事件	一、一八一	四、一八二	五、三六三	—	—	—	—	—	—	二八	三、九五七	—	—	一二一	一五	四、一二一	一、二四二	—	—	一、二四二
	破產	一、五一六	二六六	一、七八二	—	—	—	—	—	—	四	四二	—	—	一二八	一	一七五	一、五六四	—	四三	一、六〇七
	和議	四一	一	四二	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	二	四〇	—	—	四〇
	公示催告	八〇	一二	九二	—	—	—	—	—	—	—	四	—	—	一	—	五	八七	—	—	八七
	共助	一、〇三四	四九二	一、五二六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四七五	四七五	一、〇五一	—	—	一、〇五一
	借地借家調停	一、三五四	一、三七八	二、七三二	—	—	—	—	—	—	—	一八	九六五	九	一四四	三	一、一三九	一、五九三	—	—	一、五九三
	小作調停	二四	一	二五	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	一	二四	—	—	二四
	商事調停	二〇四	七五	二七九	—	—	—	—	—	—	—	一	七六	二	八	—	八七	一九二	—	—	一九二
	金錢債務臨時調停	四、三三二	五、三八九	九、七二一	—	—	—	—	—	—	—	五一	三、一二四	二四	九六五	一	四、一六五	五、四五四	—	一〇二	五、五五六
	其他ノ事件	一、八九二	三二、六〇二	三四、四九四	一	—	—	—	—	—	四五	三一、一三二	—	—	一三九	九五七	三二、二七四	二、二二〇	—	—	二、二二〇
	計	六九、三一七	八九、四三五	一五八、七五二	二、四八七	一一二	二三九	—	—	—	四二九	六二、九五九	七、六八二	一二二	六、六二一	一、五〇〇	八二、一五一	七四、八二九	二三三	一、五三九	七六、六〇一
地方裁判所	第一審 通常訴訟	一八、一八八	一、四六三	一九、六五一	二一三	三五	六〇	—	—	—	四	七	九九	—	四六四	—	八八二	一八、一一七	二三〇	四二二	一八、七六九
	第一審 人事訴訟	一、八〇五	三七七	二、一八二	一一七	六	三	—	—	—	一	—	—	—	一一〇	三	二四〇	一、九二二	一六	四	一、九四二
	第一審 選擧ニ關スル訴訟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	控訴	七、〇一四	八八四	七、八九八	—	—	—	一一二	四九	—	七	一	八一	—	二一五	四	四六九	七、一七六	一〇〇	一五三	七、四二九
	抗告	七三七	一六〇	八九七	—	—	—	—	—	—	一八	八五	—	—	二四	一	一二八	七六八	一	—	七六九
	再審	一五	二	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	一六	—	—	一六
	假差押、假處分	一〇六	四九三	五九九	一	—	—	—	—	—	一五	四四二	—	—	五六	—	五一四	八五	—	—	八五
	非訟事件手續法ニ依ル非訟事件	三一五	一六七	四八二	—	—	—	—	—	—	—	一六一	—	—	四	—	一六五	三一七	—	—	三一七
	借地借家調停	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小作調停	九五九	一九二	一、一五一	—	—	—	—	—	—	一	二	一一九	二	三〇	—	一五四	九九七	—	—	九九七
	商事調停	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—	—
	其他ノ事件	八四六	一、三一三	二、一五九	一	—	—	—	—	—	一一	一、二二六	—	—	三七	—	一、二七五	八七七	—	七	八八四
	計	二九、九八五	五、〇五二	三五、〇三七	三三二	四一	六三	一一二	四九	—	五七	一、九二五	二九九	二	九四一	八	三、八二九	三〇、二七五	三四七	五八六	三一、二〇八
控訴院	控訴 通常訴訟	五、二四九	三一四	五、五六三	—	—	—	五三	三二	—	五	—	一六	—	八〇	—	一八六	五、二五八	六七	五二	五、三七七
	控訴 人事訴訟	二三一	二九	二六〇	—	—	—	七	五	—	—	—	—	—	八	—	二〇	二三四	六	—	二四〇
	選擧ニ關スル訴訟	二	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	二
	皇室財產ニ關スル訴訟	二	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	二
	抗告	五六	一四	七〇	—	—	—	—	—	—	二	一二	—	—	一	—	一五	五五	—	—	五五
	再審	七	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	—	—	七
	假差押、假處分	七	三	一〇	—	—	—	—	—	—	—	三	—	—	—	—	三	七	—	—	七
	其他ノ事件	二八	四二	七〇	—	—	—	—	—	—	—	三三	—	—	二	—	三五	三五	—	—	三五
	計	五、五八二	四〇二	五、九八四	—	—	—	六〇	三七	—	七	四八	一六	—	九一	—	二五九	五、六〇〇	七三	五二	五、七二五

第2649号 本文

大審院 上告 通常訴訟	九七五	二四二	一、二一七	—	—	—	七二	—	一三	二	—	—	—	一四	—	一〇一	一、一〇二	一一	三	一、一一六
上告 人事訴訟	二四	四	二八	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二六	—	—	二六
上告 選擧ニ關スル訴訟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
選擧ニ關スル訴訟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
抗告	八二	一〇四	一八六	—	—	—	—	—	—	六八	二	—	—	四	—	七四	一一二	—	—	一一二
再審	九	一	一〇	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	一	九	—	—	九
其他ノ事件	二	一一	一三	—	—	—	—	—	—	—	一〇	—	—	—	—	一〇	三	—	—	三
計	一、〇九二	三六二	一、四五四	—	—	—	七四	—	一三	七一	一二	—	—	一八	—	一八八	一、二五二	一一	三	一、二六六
合計	一〇五、九七六	九五、二五一	二〇一、二二七	二、八一九	一五三	三〇二	二四六	八六	一三	五六四	六四、九四四	七、九九七	一二四	七、六七一	一、五〇八	八六、四二七	一一一、九五六	六六四	二、一八〇	一一四、八〇〇
檢證																			一二七	

刑事事件	總數			既濟													未濟		
				一審判決			上訴判決				豫審								
	舊受	新受	計	有罪	刑ノ免除無罪免訴	其他	有罪	刑ノ免除無罪免訴	差戻上訴	其他棄却	公判ニ付ス	免訴	判決以外ノ處分ニ因ル終了	其他	計	被告人員	審理中	停止	計
區裁判所 刑法犯 通常	一、七〇六	三、〇九〇	四、七九六	二、四九〇	五	二	—	—	—	—	—	—	一	二五	二、五二三	三、〇〇四	二、二五〇	二三	二、二七三
刑法犯 略式手續	一六六	二、一六四	二、三三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、〇八九	一	二、〇九〇	四、七七二	二四〇	—	二四〇
特別法犯 通常	一六三	二二八	三九一	一〇四	四	一	—	—	—	—	—	—	一	二七	一三七	二一八	二五〇	四	二五四
特別法犯 略式手續	一八五	三、一一九	三、三〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、八九二	四	二、八九六	三、四九五	四〇八	—	四〇八
再審	二	—	二	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	一	—	一
抗告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
私訴	一〇	七	一七	—	—	五	—	—	—	—	—	—	二	二	九	—	七	一	八
其他ノ事件	四一	六四一	六八二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五六六	九〇	六五六	—	二六	—	二六
計	二、二七三	九、二四九	一一、五二二	二、五九五	九	八	—	—	—	—	—	—	五、五五一	一四九	八、三一二	一一、四九〇	三、一八二	二八	三、二一〇
地方裁判所 第一審 通常 刑法犯	七〇四	三六六	一、〇七〇	二六九	三	一	—	—	—	—	—	—	三	一	二七七	三九八	七五九	三四	七九三
第一審 通常 特別法犯	一三八	二六	一六四	三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三三	三三	一一六	一五	一三一
第一審 陪審 刑法犯	一二一	一三八	二五九	一	—	—	—	—	—	—	—	—	二	一二九	一三二	一四五	一二四	三	一二七
第一審 陪審 特別法犯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
控訴 刑法犯	五〇五	三八四	八八九	—	—	—	一九五	二	—	—	—	—	一	六一	二五九	二九四	六一七	一三	六三〇
控訴 特別法犯	六七	二五	九二	—	—	—	一一	一	—	—	—	—	—	一	一三	一九	七七	二	七九
再審	一	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
抗告	一	一	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—	一	—	一
私訴 第一審	一一	一一	二二	—	—	五	—	—	—	—	—	—	—	—	五	—	一七	—	一七
私訴 控訴	三	一	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	四
其他ノ事件	三一	三六五	三九六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三一二	五〇	三六二	—	三四	—	三四
豫審	一、四一一	四四六	一、八五七	—	—	—	—	—	—	—	三三四	七	六	—	三四七	五三七	一、四四四	六六	一、五一〇
計	二、九九三	一、七六三	四、七五六	三〇三	三	六	二〇六	三	—	—	三三四	七	三二五	二四二	一、四二九	一、四二六	三、一九四	一三三	三、三二七
控訴院 控訴 刑法犯	三九八	一二八	五二六	—	—	—	九〇	—	—	—	—	—	一	一一	一〇二	一四〇	四〇二	二二	四二四
控訴 特別法犯	三九	九	四八	—	—	—	九	—	—	—	—	—	—	二	一一	三一	三一	六	三七
再審	—	四	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	四
抗告	三	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二	—	一	—	一
私訴	一〇	三	一三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—	一二	—	一二
其他ノ事件	一二	二八	四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九	—	二九	—	一一	—	一一
計	四六二	一七二	六三四	—	—	—	九九	—	—	—	—	—	三三	一三	一四五	一七一	四六一	二八	四八九
大審院 上告 第一審判決ニ對スル 刑法犯	一	—	一	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	一	—	—	—
上告 第一審判決ニ對スル 特別法犯	一	—	一	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	一	—	—	—
上告 第二審判決ニ對スル 刑法犯	二九八	一〇三	四〇一	—	—	—	一	—	—	三八	—	—	七	一五	六一	七七	三四〇	—	三四〇
上告 第二審判決ニ對スル 特別法犯	五七	一三	七〇	—	—	—	—	—	—	九	—	—	二	—	一一	一四	五九	—	五九
再審	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	一	—	—	—
抗告	八	—	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	三	—	五	—	五
私訴	七	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	—	七
其他ノ事件	—	二	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二
計	三七二	一一九	四九一	—	—	—	一	—	—	四九	—	—	一三	一五	七八	九四	四一三	—	四一三
合計	六、一〇〇	一一、三〇三	一七、四〇三	二、八九八	一二	一四	三〇六	三	—	四九	三三四	七	五、九二二	四一九	九、九六四	一三、一八一	七、二五〇	一八九	七、四三九

檢事事件	總數			既濟					未濟		
	舊受	新受	計	起訴	不起訴	其他	計	被疑者人員	審理中	中止	計
檢事局 區裁判所	一二、九四六	三九、九二一	五二、八六七	八、三三九	二五、三六九	三、六二四	三七、三三二	四九、六七三	一五、五三五	—	一五、五三五
地方裁判所	一、三九六	一、八二二	三、二一八	四八五	五〇五	六八一	一、六七一	二、六一六	一、五四七	—	一、五四七
控訴院	二	一三八	一四〇	—	—	一三八	一三八	二六	二	—	二
大審院	—	一二三	一二三	—	—	一二三	一二三	一五一	—	—	—
計	一四、三四四	四二、〇〇四	五六、三四八	八、八二四	二五、八七四	四、五六六	三九、二六四	五三、六五六	一七、〇八四	—	一七、〇八四

共助事件			起訴前ノ強制處分ノ請求			檢事ノ強制處分	
裁判所	豫審	檢事局	押收、搜索、檢證	被疑者ノ勾留	被疑者及證人訊問、鑑定	勾留	其他
八	四八	二、五三二	一五六	三六九	三八八	一、〇七九	一、〇三八

懲戒裁判		檢事ノ處分ニ對スル抗告			檢事ノ民事立會	
既濟	未濟	原處分ヲ相當トス	原處分ヲ相當トセス	未濟	民事訴訟	非訟事件
一	—	二五	—	六三二	二〇三	一一、五三二

◎**死刑執行**　佐賀縣佐賀郡高木瀨村大字東高木七百九番地古川八郎ハ東京控訴院ニ於テ殺人ノ罪ニ付死刑ノ言渡ヲ受ケ昨九年十月十八日大審院ニ於テ上告棄却セラレ判決確定シタル處本月二十一日執行セラレタリ（司法省）

○警察

◎**豫約出版履行**　本年三月八日村上三郎ヨリ警視廳ヘ屆出テタル「目黑區大觀」ノ豫約出版ハ之ヲ履行シタル旨屆出テタリ（警視廳）

○陸海軍

◎**卒業證書付與**　左記部隊ニ於テ本月十日左記ノ者ニ各〻蹄鐵術卒業證書ヲ付與セリ（陸軍省）

步兵第二聯隊
茨城縣　陸軍步兵一等兵　木田　武次
同　第十五聯隊
群馬縣　陸軍步兵一等兵　大塚　一
同　第五十聯隊
長野縣　陸軍步兵上等兵　西村　俊治
同　同　高野　數一
同　陸軍步兵一等兵　小林　達男
同　第五十九聯隊
栃木縣　陸軍步兵上等兵　黑川　武雄
同　陸軍步兵一等兵　野澤　直敬
騎兵第十八聯隊
茨城縣　陸軍騎兵上等兵　山中喜久二
同　同　染谷虎之助
長野縣　同　平尾　榮藏
同　同　宮坂　壽明
栃木縣　陸軍騎兵一等兵　味戸　武夫
群馬縣　同　宮田　禮
長野縣　同　小林　猪助
茨城縣　同　海老原正之助
同　同　森田三千夫
長野縣　同　井出　正夫
栃木縣　同　長島　武雄
茨城縣　同　山本　護
群馬縣　同　木暮　薫
長野縣　同　香山　隆好
野砲兵第二十聯隊
茨城縣　陸軍砲兵上等兵　大貫　六郎
長野縣　同　林　芳武
茨城縣　同　堀野　正治
栃木縣　同　落合多根雄
群馬縣　同　長井吉五郎
長野縣　同　富水　政直
群馬縣　同　長井幸三郎
栃木縣　同　大幡　榮治
長野縣　陸軍砲兵一等兵　久保田秋男
同　同　南澤　只人
同　陸軍砲兵上等兵　合津　浪江
栃木縣　同　久保田金次
同　陸軍砲兵一等兵　小堀吉太郎
長野縣　同　寺島　邦男
茨城縣　同　大森德次郎
同　同　渡邊秋四郎
長野縣　陸軍砲兵上等兵　中澤圭三郎
栃木縣　陸軍砲兵一等兵　漆原　保造
群馬縣　同　飯野　常司
栃木縣　同　小林　清次
同　同　臼井武一郎
群馬縣　陸軍砲兵上等兵　飯塚銀一郎
長野縣　陸軍砲兵一等兵　清水　癸平
茨城縣　同　砂岡　福藏
工兵第十四大隊
長野縣　陸軍工兵上等兵　土屋　武
同　陸軍工兵一等兵　加藤　義男
栃木縣　同　塚本　重一

第2649号　本文

第2649号 本文

輜重兵第十四大隊

長野縣	陸軍輜重兵上等兵	柳澤 堯
茨城縣	陸軍輜重兵一等兵	卷島 勸治
長野縣	陸軍輜重兵上等兵	土橋 正一
茨城縣	同	鶴見 親雄
長野縣	同	宮尾 良有
群馬縣	陸軍輜重兵一等兵	飯塚 生一
長野縣	同	春日 秘美
茨城縣	同	富田 勘造
長野縣	同	宮下 三郎
同	同	清澤 秀雄
茨城縣	同	山崎 年
同	同	吉田孫右ヱ門
長野縣	同	間藤 光孝
同	同	住吉今朝雄
茨城縣	同	荒井嘉一郎

◎所在不明徴兵終決處分未濟者

埼玉縣ニ於テ昭和十年ニ生シタル所在不明ノ徴兵終決處分未濟者左ノ如シ(埼玉縣)

本籍地	氏名	生年月日
北足立郡川田谷村二三三九九ノ三	砂川金太郎	大正四、三、一一
同石戸村大字荒井一三六五	村上 勝明	四、九、一五
同吹上町大字大芦一五〇ノ二	吉岡 芳松	三、一、一四
同原市町大字原市四二七五	石川 泰一	四、一一、一四
同野田村大字高畑四八七	小山 好一	四、一一、一三
同土合村大字鹿手袋五八七	田口 市郎	四、一〇、一五
同神根村大字安行領根岸三三一九ノ二	金子淸次郎	四、一、二〇
同二四九一	鈴木仙太郎	明治三八、一、一五
入間郡原市場村大字唐竹二二五	小川 重次	大正四、三、一五
同川角村大字川角一四一三	宮崎利三郎	元、八、八
同所澤町大字所澤五五七	相澤 正康	四、四、一八
同水富村大字根岸七八	坂本 安正	四、一、二四
同豐岡町大字扇町屋六〇九	森田 惣次	四、八、一七
同宗岡村一八三四	關根 茂	三、一二、一五
比企郡松山町大字松三三五	小柳 七郎	四、一一、五
秩父郡蘆ヶ久保村九七七	楮本 市松	三、一二、二
兒玉郡七本木村大字堤一一九九	植原嘉太郎	四、四、一
同東兒玉村大字小茂田五一五	井田才一郎	四、一〇、一
同本庄町四〇三九	松本丑太郎	四、三、一四
同四二一八	竹越 武志	四、六、一五
大里郡岡部村大字宿根四四一	大野 俊央	四、九、二二
同幡羅村大字東方二一七七九	持田 耕司	四、八、七
同太田村大字永井太田一四二一	江黒初太郎	四、二、六
北埼玉郡騎西町大字騎西三〇	近藤 四郎	二、一二、二三
同長野村三六三七	高橋信太郎	四、六、一五
南埼玉郡柏崎村大字加倉一四五四	富岡 繁藏	三、一、三
同粕壁町四三八〇	筧田 松藏	四、三、一
同蓮田町大字蓮田三八五四ノ一	田口 信男	四、一、二八
同出羽村大字谷中七二八	大塚 二助	四、二、七
北葛飾郡金杉村大字築比地一七四七	鈴木亥之助	二、一二、一六
同幸手町大字幸手六〇三九三	細谷 孝一	明治三八、五、二
同六四〇八	齋藤 寅吉	三七、五、九
同四二一一	宮島 利	大正四、一、一九
浦和市四六七〇	澁木弥長雄	四、一一、二〇
川越市大字川越一七一四	吉岡 守裕	四、三、一一
川口市本町三丁目九八	小畑淸次郎	四、四、九

◎不要徴兵終決處分者

埼玉縣ニ於ケル所在不明ノ徴兵終決處分未濟者中死亡、所在發見、滿三十七歳超過等ノタメ爾後調査ヲ要セサル者左ノ如シ(埼玉縣)

本籍地	氏名	生年月日
北足立郡中丸村大字北中丸九二	小川竹次郎	明治三〇、一二、二三
同吹上町大字吹上二六九五	小林 元次	三一、四、二一
同指扇村大字中釘七四	皆川 惣吉	三一、八、七
同平方町大字平方三四一五	澁谷 榮一	大正二、一〇、五
同馬宮村大字二ッ宮三二六ノ二	蔭島 幸作	二、五、一七
同宮原村大字吉野原一六二九	岸 光男	三、七、一〇
同戸田村大字上戸田無番地	戸田 淸次	明治四三、五、五
入間郡飯能町大字中山六一	小島 筆吉	三一、二、一三
同南古谷村大字澁井四二二	程島 長藏	大正三、三、二二
同柏原村二七二一	長澤 秀雄	三、一〇、七
同入西村大字堀込九七ノ二	芦澤豐三郎	三、一〇、一八
同水谷村大字水子一九五七	萩元松次郎	元、一一、二〇
比企郡八ッ保村大字三保谷宿三三七	菅沼 直江	二、一二、一〇
秩父郡原谷村大字黑谷一七六	吉田 常吉	明治三一、九、一
同高篠村大字山田無番地	强谷喜代太郎	三一、二、一七
同皆野町二〇一	小池 金治	三一、一、一八
比企郡玉川村大字玉川一四三一	澤田七三郎	三三、七、七
兒玉郡若泉村大字下阿久原六六五	淸水衕太郎	四四、九、一九
同藤田村大字牧西二四	大谷 岩吉	三七、六、一五
同本泉村大字元田二三	岩崎 磯松	大正三、一、三
大里郡花園村大字小前田一一八一	坂本 加三	明治三一、八、一一
同明戸村大字新井三五三	和田 芳郎	三一、一〇、一三
同岡部村大字岡二一四	三浦 信吉	三七、六、一六
北埼玉郡忍町大字行田一六八	山岸淺五郎	三〇、一二、二五
同樋遣川村大字下樋遣川一一四	小林 信一	三一、一一、二八
同禮羽村大字馬内三四二	岡安 初雄	大正二、三、一
南埼玉郡武里村大字一ノ割八六	石川源次郎	明治三〇、一二、一七
同小林村八	長谷川兵八	三一、九、一〇
同久喜町大字久喜新三二七	杉江芳比古	三一、四、一
北葛飾郡彦成村大字彦成四三	安晝安太郎	三一、五、七
同戸ヶ崎村大字鎌倉四〇	野本 武雄	大正二、一〇、一〇
同寶珠花村大字塚崎五三	田口 一榮	二、七、一〇
川越市大字新宿一一六ノ八	高橋 藤藏	三、三、一七
同大字川越一一五四	油井信太郎	明治四五、四、二七

○財政

◎郵便年金事業概況

簡易保險局ニ於テ昭和十年八月中取扱ニ係ル郵便年金事業ノ概況左ノ如シ(△印ハ減)(遞信省)

遞信局	府縣	新契約 件數	新契約 掛金額 圓	新契約 年金額 圓	消滅件數 死亡	消滅件數 解約	消滅件數 法定解除	其他ノ増減	月末現在 件數	月末現在 年金額 圓	月末現在 一件平均年金額 圓
東京	東京	二九六	一六二、二四八	三五、七八四	二八	七五(一三)	一九	△一	二四、〇五三	二、九二二、四六〇	一二一・五
	神奈川	四八	一三、一四六	五、〇一二	一	一五(三)	六	―	七、〇七六	六九四、〇七八	九八・一
	埼玉	七五	一六、五三六	五、三八三	三	五(一)	―	―	五、四八八	四四〇、五〇一	八〇・三
	群馬	六四	八、三二八	六、六五八	一	七	―	―	四、一三五	三六三、八九九	八八・〇
	千葉	二七	七、九八六	二、〇六九	四	六(一)	一	―	四、四三一	三七七、七八六	八五・三
	茨城	五三	一〇、三三九	四、四一〇	六	一三(四)	五	―	四、七三五	三四五、九〇九	七三・一
	栃木	五三	一六、二九六	六、一九七	一	四	二	―	四、一四一	三三八、七六二	八一・八
	靜岡	一〇三	二一、六九五	九、〇九七	六	九(四)	四	―	九、七五七	七四〇、六三〇	七五・九
	山梨	三三	二、九八五	二、八七六	―	二	三	―	一、九九二	一四八、〇一一	七四・三
	計	七五一	二五八、五五九	七七、四八六	五〇	一三六(二五)	四〇	△一	六五、八〇八(二、二八三)	六、三七二、〇三六(六五、一〇二)	九六・八
名古屋	愛知	一三三	三五、五四六	一〇、三八二	一九	一七(六)	一	△一	一六、八八五	一、三八三、〇五四	八一・九
	三重	四九	一三、一二八	三、七四九	八	一二(三)	三	―	一一、五一三	七一三、五五四	六一・九
	岐阜	五三	一七、〇二三	四、〇一七	六	八(一)	二	―	九、三七五	五八七、二八二	六二・六
	長野	七〇	一七、三九一	六、三五九	二	九	五	―	九、七四二	六九六、七四六	七一・五
	福井	八七	一七、三五九	六、九一〇	八	六	一	―	五、〇四六	三二一、七四六	六三・八
	石川	五二	八、〇九二	四、九八六	六	四(一)	一	―	四、六八二	三五一、八一五	七五・一
	富山	一八	六、九四五	一、一七八	一六	六(三)	二	―	四、二〇四	二五八、五一三	六一・五
	計	四五二	一一四、四八四	三七、五八一	六五	六二(一三)	一四	△一	六一、四四七(一、七九四)	四、三一一、七一〇(四三、六六四)	七〇・二
大阪	大阪	一三七	三七、四三〇	一三、三五三	三	三五(一〇)	一五	―	一七、九〇四	一、五三一、〇〇〇	八五・五
	京都	八七	二四、三五二	七、四四三	六	二八(八)	七	―	一二、五九一	九七三、〇八四	七七・三
	兵庫	一三九	三八、七二二	一一、三三六	三	四三(一四)	八	―	一四、九一六	一、二八〇、四六三	八五・八
	奈良	三	八、二一五	三、四八二	―	六(四)	五	―	二、七八四	一九五、〇三九	七〇・一
	滋賀	二七	五、〇一六	一、三四〇	三	四	一	―	五、二二八	二六九、六七六	五一・六
	和歌山	二四	一三、二七五	四、一六三	七	―	四	―	四、一三五	三四三、七九八	八二・九
	徳島	六八	一七、二五三	五、四七二	一	四(一)	―	―	三、三九四	二二四、七六二	六六・二
	高知	三	一、六二七	一、〇〇〇	二	五(一)	一	―	二、八八九	二三八、〇九七	八二・四
	計	四六六	一四四、八九〇	四七、九八九	三四	一二五(三八)	四一	―	六二、八四一(三、四一四)	五、〇五四、九一九(六二、五五八)	七九・二
廣島	廣島	六二	一三、六三二	六、七二四	五	一一(四)	三	△二	一〇、〇一八	八一六、七一八	八一・五
	鳥取	九	一、五六七	六六八	二	三(一)	四	―	二、六一三	二〇三、一七七	七七・四
	島根	六九	六、五二八	六、二五四	二	三(一)	三	―	三、四三三	二四七、九三二	七二・二
	岡山	六二	一六、九八三	八、〇〇〇	―	七(一)	二	―	六、二七二	五一九、〇七七	八二・八
	山口	三三	一〇、九一六	三、一五七	五	七(三)	五	―	六、五四一	五二四、四九八	八〇・二
	香川	二六	五、三三六	二、一九〇	三	四(一)	八	―	四、二七七	三四五、八五七	八〇・九
	愛媛	五六	一一、八九〇	四、八〇六	六	四(三)	二	―	五、三一〇	四六三、〇一三	八七・二
	計	三三〇	六五、八七二	三一、七九九	二三	三九(一三)	二七	△二	三八、四六四(一、八七九)	三、一一九、三七二(四二、九一〇)	八一・一
熊本	熊本	三一	五、〇九三	二、一一八	三	八	―	―	四、五〇九	四一二、八七一	九一・六
	長崎	三二	一一、七三〇	三、七四九	三	九(四)	一	―	五、二三六	四八〇、五一〇	九一・八
	福岡	七五	一六、九八七	四、六二四	八	一九(五)	七	―	一〇、二九二	九六七、〇四〇	九四・〇
	大分	一四	三、〇九七	一、〇九三	四	六(一)	一	―	三、九九五	三三五、二五八	八三・九
	佐賀	九	一、八二六	八八四	―	―	一	―	二、四二七	一九四、九六六	八〇・三
	宮崎	八	二、一六〇	八六二	二	五(三)	一	―	二、三八四	一九五、〇〇六	八一・八
	鹿兒島	一七	二、一五一	二、〇五〇	二	七(三)	三	―	四、三六四	二九六、九三〇	六八・〇
	沖繩	七	二、〇三八	五一八	―	一(一)	一	―	一、〇四四	七八、六五七	七五・三
	計	一八四	四五、〇八二	一五、八九八	二二	五五(一五)	一五	―	三四、二五一(一、八七七)	二、九六一、二三八(四五、二五一)	八六・五
仙臺	宮城	二四	一三、六五九	二、七三二	三	五(三)	七	―	五、九三七	四五九、一四七	七七・三
	新潟	三八	一三、五六二	三、四四五	六	一三(三)	二	―	一〇、一七四	七一四、三二八	七〇・二
	福島	六九	二三、二七〇	六、〇四七	一三	一三(三)	三	―	七、九三〇	六五七、二一七	八二・九
	岩手	一六	二、五二九	一、六四八	三	五(一)	二	―	三、六五九	二五九、九一六	七一・〇
	靑森	一一	四、七三四	一、八二四	―	一九(三)	五	―	三、三八八	二四二、三六六	七一・五
	山形	二八	五、〇八六	二、一四二	四	五	一	―	六、七七〇	三九二、四二八	五八・〇
	秋田	五	二六〇	四四〇	一	九(一)	一	―	三、四九四	二六三、七二三	七五・五
	計	一九一	六二、一〇〇	一八、二七八	三〇	六八(一二)	二一	―	四一、三五三(一、六八五)	二、九八九、〇二五(四〇、六九一)	七二・三
札幌	北海道	五五	一三、五〇二	九、七四八	二	一七(七)	六	―	一〇、八三三(五七九)	一、一四一、〇三一(一五、六四九)	一〇五・四
	關東州	四	一、六一七	五六〇	一	一	―	―	一、六一七(六八〇)	一五八、六七九(一〇、六六九)	九六・九
	樺太	六	二、二二四	九九二	一	二(一)	―	―	五三三(三九)	七九、七八二(一、一六七)	一四九・七
	臺灣	―	―	―	一	一(一)	―	―	九一〇(三三)	八一、四九二(一、四三〇)	八九・六
	海外在留本邦人	―	―	―	―	―	―	―	八	四、二九〇	五三六・三
	全國合計	二、四三九	七〇七、三三〇	二三九、九三一	二三九	五〇六(一三五)	一六四	△四	三一九、〇七三(一三、九五九)	二六、二七三、四七四(二三八、〇九一)	八二・三

第2649号 本文

遞信局別種類別月末現在

遞信局及遞信局外	即時			据置一時拂			据置分割拂			計			人口一萬人ニ對スル件數割合
	件數	掛金額 圓	年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	
東京	七、六九五	九、八一一、一四六	七五九、六四三	三一、四四五	六、七三五、四八九	二、〇八三、九六五	二六、六六八	一、一八二、二三一	三、五二八、四二八	六五、八〇八	一七、七二八、八六六	六、三七二、〇三六	三七・六四
名古屋	六、四二六	五、六九一、一四七	四三五、九八四	三八、九三八	五、四七一、八五四	一、八九八、五四六	一六、〇八三	五七二、四九五	一、九七七、一八〇	六一、四四七	一一、七三五、四九六	四、三一一、七一〇	六七・〇七
大阪	六、四〇四	七、五九一、三八七	五九〇、七三〇	三八、九二一	五、七七三、五四六	一、九四九、五三七	一八、五一六	九二五、一一二	二、五一四、六五二	六三、八四一	一四、二九〇、〇四五	五、〇五四、九一九	五二・九五
廣島	三、五一二	三、五八二、五七七	二八三、一二五	二一、九一七	三、一二四、三三二	一、二三七、二六九	一三、〇三五	四〇六、四九二	一、五九八、八七八	三八、四六四	七、一一三、四〇一	三、一一九、二七二	五一・七五
熊本	三、三三一	四、三八九、九五三	三三三、六三一	一八、三五三	三、〇六一、四八三	一、〇七四、八五四	一二、五六七	四二五、二九一	一、五五二、七五三	三四、二五一	七、八七六、七二七	二、九六一、二三八	三三・九三
仙臺	三、二六二	三、〇六二、三一七	二三四、五二一	二五、四七一	三、一九三、二五五	一、二二五、三一六	一二、六一九	四四六、〇五三	一、五二九、一八八	四一、三五二	六、七〇一、六二五	二、九八九、〇二五	四六・四四
札幌	五六三	九一六、六八三	七二、三五一	四、三四七	九二九、七三三	二五八、〇〇五	五、九一二	二四四、八七〇	八一〇、六七五	一〇、八二二	二、〇九一、二八六	一、一四一、〇三一	三五・三五
關東州	三一	四四、八九五	三、四五三	五三〇	一三四、八七一	三九、六六四	一、〇七六	三六、六七九	一一五、五六二	一、六三七	二一六、四四五	一五八、六七九	五八・六八
樺太	四九	六七、一六五	四、六三〇	一五四	八六、九一五	一九、四七九	三三〇	二三、二四八	五五、六七三	五三三	一七七、三二八	七九、七八二	一七・七六
臺灣	四四	七九、五六九	六、一七二	六二〇	一一九、八六九	三八、九二八	二四六	一四、三六四	三六、三九二	九一〇	二一三、八〇二	八一、四九二	一・八一
海外在留本邦人	—	—	—	七	一一、五八二	四、一七〇	一	六〇	一二〇	八	一一、六四二	四、二九〇	—
計	三一、三一七	三五、二三六、八三九	二、七二四、二四〇	一八〇、七〇三	二八、六四二、九二九	九、八二九、七三三	一〇七、〇五三	四、二七六、八九五	一三、七一九、五〇一	三一九、〇七三	六八、一五六、六六三	二六、二七三、四七四	四三・二四

遞信局別新契約種類別平均及割合

遞信局及遞信局外	即時					据置一時拂					据置分割拂					計					人口一萬人ニ對スル件數割合
	件數	掛金額 圓	年金額 圓	一件平均 掛金額 圓	一件平均 年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	一件平均 掛金額 圓	一件平均 年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	一件平均 掛金額 圓	一件平均 年金額 圓	件數	掛金額 圓	年金額 圓	一件平均 掛金額 圓	一件平均 年金額 圓	
東京	一三三	一五四、三五三	一〇、九〇三	一、一六一	八二・〇	二四〇	八四、三四二	一五、六二三	三五一・四	六五・一	三七八	一九、八六四	五〇、九六〇	五二・五五	一三四・八	七五一	二五八、五五九	七七、四八六	三四四・三	一〇三・二	・四三
名古屋	九一	五九、四四一	四、四七七	六五三	四九・二	一八六	四七、五七九	一〇、九二八	二五五・八	五八・八	一七五	七、四六四	二二、一七六	四二・六五	一二六・七	四五二	一一四、四八四	三七、五八一	二五三・三	八三・一	・四九
大阪	七九	六〇、〇八六	四、三五〇	七六一	五五・一	二〇六	七〇、五四七	一七、〇三三	三四二・五	八二・七	一八一	一四、二五七	二六、二〇六	七八・七七	一四四・八	四六六	一四四、八九〇	四七、五八九	三一〇・九	一〇二・一	・三九
廣島	四四	四一、三一七	二、九八〇	九三九	六七・七	一〇〇	一八、二五四	四、三〇九	一八二・五	四三・一	一七六	六、三〇一	二四、五一〇	三五・八〇	一三九・三	三二〇	六五、八七二	三一、七九九	二〇五・八	九九・四	・四三
熊本	二九	二五、九一三	一、八〇二	八九四	六二・一	八五	一六、〇〇二	四、六三五	一八八・三	五四・五	七〇	三、一六七	九、四六一	四五・二四	一三五・二	一八四	四五、〇八二	一五、八九八	二四五・〇	八六・四	・一八
仙臺	四〇	三三、九六四	二、三八三	八四九	五九・六	七三	二三、七一五	五、九一五	三二四・九	八一・〇	七八	三、四二一	九、九八〇	四三・八六	一二七・九	一九一	六一、一〇〇	一八、二七八	三一九・九	九五・七	・二一
札幌	二	一、三四六	一二六	六七三	六三・〇	一四	七、九〇四	一、三九二	五六四・六	九九・四	三九	四、二五二	八、二三〇	一〇九・〇一	二一一・〇	五五	一三、五〇二	九、七四八	二四五・五	一七七・二	・一八
關東州	—	—	—	—	—	一	一、四五七	二〇〇	一、四五六・四	二〇〇・〇	三	一六〇	三六〇	五三・四四	一二〇・〇	四	一、六一七	五六〇	四〇四・二	一四〇・〇	・一四
樺太	一	二〇九	一二	二〇九	一二・〇	三	一、三二〇	二六〇	四四〇・二	八六・七	二	六九五	七二〇	三四七・二九	三六〇・〇	六	二、二二四	九九二	三七〇・六	一六五・三	・二〇
臺灣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
海外在留本邦人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	四一九	三七六、六二九	二七、〇三三	八九九	六四・五	九〇八	二七一、一二〇	六〇、二九五	二九八・六	六六・四	一、一〇二	五九、五八一	一五二、六〇三	五四・〇七	一三八・五	二、四二九	七〇七、三三〇	二三九、九三一	二九一・二	九八・八	・三三

（摘要）

月末現在　月末現在契約高ハ件數三十一萬九千七十三件ニシテ年金額二千六百二十七萬三千四百七十四圓ナリ而シテ之ヲ前年同月ニ比スレハ件數ニ於テ二萬六千百四十八件、年金額ハ二百二十八萬四千七十五圓ヲ增加セリ

新契約　新契約件數ハ二千四百二十九件ニシテ年金額二十三萬九千九百三十一圓ナリ而シテ本月分新契約ノ平均年金額ハ九十八圓八十錢ナリ

解約及法定解除　解約、法定解除件數ハ六百七十件ニシテ解約法定解除率ハ〇・〇〇二三三ナリ

支拂ヲ開始セル据置年金　支拂ヲ開始セル据置年金ノ月末現在高ハ件數千四百四十三件ニシテ年金額十四萬三千六百七十九圓ナリ

（注意）

一、本表中新契約トアルハ各郵便局ニ於テ當月中ニ申込ヲ受理シタル契約ヲ云フ但シ翌月十日マテニ證書ノ作製ヲ了セサルモノニ在リテハ翌月分ニ組込ミ計算セリ

一、本表中据置分割拂ノ掛金額ハ三箇月掛、半年掛ノ場合ト雖モ年掛換算額ヲ計上セリ

一、本表中府縣別新契約掛金額ハ即時年金及据置一時拂年金ノ掛金額ト据置分割拂年金ノ年掛換算額ヲ合算セルモノナリ

一、本表中掛金額ハ圓以下ノ端數ヲ四捨五入ニ依リ計上シアルモ其一件平均掛金額ハ實數ニ依リ算出セルモノナリ

一、本表中異動消滅ニ關スル計數ニ在リテハ前月分事故前發生ノモノニシテ當月末日マテニ其處理ヲ了シタルモノヲ掲記ス而シテ月末現在契約高ハ前月末現在契約高ニ是等事故發生ノモノ並ニ新契約ヲ加除計算セルモノナリ

一、本表中法定解除トアルハ掛金拂込ヲ怠リ猶豫期間ヲ經過シタル元金留保ノ小額契約ニシテ拂濟契約ニ變更セントスルモ其年金額カ年額十二圓ニ滿タサルタメ法令ニ依リ契約ヲ解除セラレタルモノヲ云ヒ其他ノ增減トアルハ無效、取消及誤締結ニ由ル契約ノ訂正ヲ云フ

一、消滅件數解約欄中括弧內ノ數字ハ据置一時拂ノ解約件數ヲ再掲セルモノナリ

一、府縣別遞信局計月末現在契約欄中括弧內ノ數字ハ掛金拂濟契約ニ變更ノモノ、現在契約高ヲ再掲セルモノナリ

一、府縣別ノ區分ハ契約ノ申込ヲ受付タル郵便局ノ府縣ニ依ル

一、人口一萬人ニ對スル割合ハ內閣統計局發表昭和九年十月一日現在推計人口ニ依リ算出ス但シ關東州、樺太及臺灣ハ昭和八年十二月末現在各所管官廳調査ノ人口ニ依ル

○產業

◎獎勵金交付　山形縣立農事試驗場ニ於ケル肥料施用方法改善試驗ニ要スル費用ニ對シ昭和十年度ニ於テ金四千九百六圓ヲ山形縣ニ交付スル旨一昨二十八日指令セリ（農林省）

○通運

◎軌道起業廢止許可　大正十五年三月八日大阪市ニ特許セル軌道中梅田空心町線殘區間（北區末廣町 北區空心町二丁目）間及木津霞町線一部（浪速區宮津町 浪速區南霞町）間軌道起業廢止ノ件一昨二十八日許可セリ（鐵道省、內務省）

○衞生

◎國際傳染病報告　本件ニ關シ本月二十五日在新嘉坡保健部東局ヨリ西貢無線電信局ヲ經テ左ノ通情報アリタリ（本月二十五日著）（內務省）

（自十月十三日至同十九日）國際傳染病狀況　本表中死者ハ自九月二十二日至同二十八日一週間ニ於ケル數ヲ文書報告ニ依リ示ス

港及都市	「ペスト」				「コレラ」				「痘瘡」			
	患者	累計（一月以來）	死者	累計（同上）	患者	累計（同上）	死者	累計（同上）	患者	累計（同上）	死者	累計（同上）
上海	—		—	—	—	—	—		一	四八	—	三
盤谷	—		—	—	七	六二	二	三	—	二	—	—
プノムペン	—		—	—	一	五	—	三	—	八	—	—
コロンボ	一	三七	二	三	—	七	—	三	—	一七	—	三

（摘要）印度ハ報告未着

有菌鼠發見　コロンボ市街地ニ於テ有菌鼠三發見セリ

地方行政

◎縣會　長崎縣ニ於ケル通常縣會ノ招集日ヲ來ル十一月六日ニ變更ス（長崎縣）◎本月十六日招集ノ臨時富山縣會ハ議事結了ノ即日閉會セリ（富山縣）◎同二十一日招集ノ臨時愛媛縣會ハ議事結了同二十三日閉會セリ（愛媛縣）

◎縣會議長等當選　本月二十二日招集ノ臨時秋田縣會ニ於テ議長等ノ選擧ヲ行ヒシニ議長ニ金子爲吉、副議長ニ藤肥良治、名譽職參事會員ニ柄木正巳、丸山周五郎、蛇川新明、上杉修二、佐藤有秀、三浦操司、庄司易五郎、菅原三什郎、山本修太郎、佐々木豐八、同補充員ニ佐藤吉治、大沼宗吉、平泉喜八、中田儀直、酒井英次郎、若林源之助、關威、大塚政市郎、齋藤彌太郎、遠藤與市郎、都市計畫秋田地方委員會委員ニ平澤長吉、佐藤本之助孰モ當選セリ（秋田縣）◎同十八日招集ノ臨時廣島縣會ニ於テ議長及副議長ノ選擧ヲ行ヒシニ議長ニ望月乙也、副議長ニ大原博夫孰モ當選セリ（廣島縣）

◎縣會議員當選　靜岡縣ニ於テ本月十四日縣會議員ノ總選擧ヲ行ヒシニ鈴木勝太郎、佐野常右衞門、小松勇次、大村直、城所長六、中村長五郎、森信吾、山崎劍二、室伏辰次郎、金子彥太郎、影山滋樹、秋山忠平、三上陽三、原榮作、森熊助、加藤弘造、大塚甚之助、塚本畯三、池ケ谷榮太郎、細川幸一、山本敬三、中村直次郎、岡本敎平、榛葉忠藏、山崎好知、酒川敬三郎、岡本保次、大角愛治、平野市郎、井浪茂三郎、鈴木六郎、鈴木米太郎、坂下仙一郎、飯塚榮隆、坪井龜藏、森口淳三、山田順作、水谷國治、鈴木信雄、稻森誠次、鈴木政太郎、岩崎豐、加藤七郎、高柳彰、山本立太郎、山本正治、山田勝四郎孰モ當選セリ（靜岡縣）

在外公館報告

◎上海爲替並經濟情況　本件ニ關スル本月二十六日著上海駐在岩井光次郎電報左ノ如シ（外務省）

爲替ハ通貨懸念ノタメ引續キ亂調子ナルカ從來支那政府ハ爲替激變ノ際ハ聲明書ヲ發表シ同時ニ中央銀行ヲシテ外國爲替ヲ賣ラシメ安定策ヲ講シ來リタルカ今回ハ放任主義ナルノミナラス却テ買方ニ廻リ居ルタメ不安人氣益々增大シ亂高下ヲ示シツヽアリ即チ二十五日對日一一三圓二分ノ一、對英一志四片、對米三二弗四分ノ三ニテ寄ヲ開ケタル相場モ對日一一八圓、對英一志四片二分ノ一、對米三三弗四分ノ一ニ引戻シ對日一一六圓、對英一志四片四分ノ一、對米三三弗八分ノ一ニ引ケ又標金ハ一、〇五二元迄落シテ一、〇九〇元ニ上ケ尚ホ二十六日爲替ハ金融逼迫ノタメ一一二圓ヨリ一一六圓所ヲ小往來シ閑散ナリシカ標金ハ大手筋ノ買煽リニ流言百出モ手傳ヒ全ク爲替ト懸離レ一、二四八元テフ氣狂相場ヲ出シ實ニ倫敦金塊相場ニ比シ一二四元高ニ暴騰スルノ奇現象ヲ示現シ爲替亦來月ハ今月ニ比シ四―五圓下鞘ニ在ル等餘リノ急變ニ目先ノ見極メ著カス極度ニ警戒セラレツヽアリ

一般商品界ハ「インフレ」氣構ニ換物化ノ氣分濃厚ニテ買氣旺盛ナルモ相場ノ先走リニ左シテ商內出來ス閑散ニテ棉花ハ定期三三元ヨリ三五元ニ上ケ綿絲ハ六元方昂騰氣配ナルモ金融難ノタメ定期ノ外ハ見送ラレ小麥ハ海外高ニ一―三仙方夫々昂騰、生絲ハ現物拂底ト海外高ニ三〇元方暴騰、砂糖ハ買氣旺盛ト賣物薄ニ月初ニ比シ二元五十仙方上伸シ、人絹絲、毛絲ハ採算高ニ二〇元奔騰シタル外海產物、工業藥品、金物、紙、建築材料、石炭、機械其他雜貨モ夫々昂騰シ尚ホ先高見越シニ賣控ヘノ狀態ナリ、輸出品ハ菜種二―三〇仙、棉實粕粉末一五仙、麩二〇仙、種粕一―二〇仙其他胡麻、豚毛、桐油、落花生、麻等モ昂騰シ買氣旺盛ニテ氣配堅リナカラ氣迷ヒ閑散

◎紐育ニ於ケル本邦產絹織物市況　本件ニ關スル本月二十六日著米國駐在商務書記官井上豐次電報左ノ如シ（外務省）

絹紬ハ本邦高値ヲ映シ市價昂騰、閑散期ナルタメ大口買手筋一般ニ手控ヘ氣分ナルモ小口取引弗々、相場亦一等品十四仙半見當、羽二重亦市價上昇シ護謨引用トシテ四匁物需要順調ニシテ賣行良好相場越前松印六付三六物二十六仙半、加賀赤四付三六物十六仙半川俣二匁四分ノ三付十二仙

◎アルゼンティン國貿易　本件ニ關スル本月二十七日著アルゼンティン國駐在商務書記官原明治郎電報左ノ如シ（外務省）

一月乃至九月「ア」國輸出十一億八千百五十萬「ペソ」、輸入八億八千二百四十萬「ペソ」ニシテ客年同期ニ比シ夫々七分四厘及一割一厘ヲ增加シ出超額ハ前年ト略ヽ同樣ナリ、同期中對日輸出九百十七萬二千「ペソ」、日本品ノ輸入三千五百五十九萬四千「ペソ」ニシテ入超依然顯著ナリ

「ア」國輸出總額ノ三割餘ヲ占ムル小麥及亞麻種ノ減收豫想並ニ肉類輸出ノ前途困難ナル事情ヨリ來年度「ア」國輸出貿易ハ一般ニ不振ヲ豫測セラレ居ルモ一方目下播種中ノ玉蜀黍作付面積增加ノ豫想モアリ旁々最近ノ好況ニ依リ內地購買力ニ尙ホ餘力アリトセラレ差當リ來年度ノ當國經濟界ハ左シテ悲觀ヲ要セサルヘシト觀測セラレ居レリ

觀象

◎初霜

地名	本年初日	昨年比較	平年比較
會津	十月八日	一日早シ	十日早シ
紗那	同　二十七日	十九日晩シ	二十二日晩シ

◎全國氣象表（正午觀測）

（備考）氣溫ノ部－印ハ氷點下ノ度ヲ示シ降水量ハ當日午前六時ヨリ翌日午前六時迄ノ總量ナリ

十月二十六日

地名	氣壓（粍）	風向	風速（米）	氣溫（攝氏）	天氣	降水量（粍）
臺北	758・1	東南東	3	23	曇	14
那覇	755・9	北	3	27	曇	2
鹿兒島	754・8	東北東	8	23	曇	6
高知	760・8	東南東	3	17	曇	147
大分	757・4	靜穩	0	19	雨	31
多度津	758・3	東	2	21	曇	36
廣島	758・4	北	3	17	雨	42
大阪	760・9	北東	4	16	曇	28
長崎	754・9	靜穩	1	21	曇	18
福岡	754・8	北西	2	21	雨	19
濱田	756・8	南南東	5	19	曇	60
名古屋	763・2	北西	2	16	曇	27
横濱	766・9	北北西	5	16	曇	20
東京	767・0	北	3	18	曇	22
銚子	766・8	東北東	9	17	曇	5
長野	764・8	西	6	14	曇	—
前橋	767・3	南東	3	15	煙霧	18
宇都宮	767・3	南東	2	17	曇	8
福島	767・3	北東	2	15	曇	1
福井	760・1	南南東	2	20	曇	11
新潟	764・0	東南東	7	18	曇	—
秋田	766・0	東南東	8	17	曇	—
石巻	767・4	南東	3	17	薄曇	—
盛岡	767・4	南	6	15	曇	—
青森	765・9	西南西	2	19	曇	—
函館	766・9	東南東	7	17	曇	—
札幌	767・5	南南東	5	16	薄曇	—
旭川	768・0	靜穩	0	11	薄曇	—
根室	769・7	東北東	2	11	薄曇	—
大泊	770・4	南南東	4	11	晴	—
釜山	754・2	南南西	9	18	雨	4
仁川	753・7	西北西	10	17	曇	7
元山	749・7	靜穩	1	17	曇	1
城津	752・2	南東	10	15	雨	46
新義州	752・7	北西	8	13	晴	40
大連	756・9	北北西	10	16	快晴	—
奉天	754・1	北北東	8	11	曇	8
新京	750・9	西	3	8	雨	19
天津	760・0	北北西	5	19	快晴	—
青島	759・1	北西	9	16	晴	—
上海	760・6	北北西	5	19	曇	—

同　二十七日

地名	氣壓（粍）	風向	風速（米）	氣溫（攝氏）	天氣	降水量（粍）
臺北	761・9	東南東	3	23	雨	2
那覇	759・8	北北東	10	23	曇	5
鹿兒島	757・8	西北西	6	22	晴	—
高知	754・4	靜穩	1	24	曇	—
大分	757・1	北北西	4	23	快晴	—
多度津	755・0	西	7	21	曇	—
廣島	756・8	北	6	21	快晴	—
大阪	753・8	西	4	22	曇	17
長崎	758・8	北北西	5	20	快晴	—
福岡	758・8	北北東	5	21	快晴	—
濱田	758・1	西北西	4	18	曇	1
名古屋	751・3	北北東	5	19	曇	133
横濱	752・2	南東	10	21	曇	35
東京	753・1	南南西	7	19	雨	145
銚子	754・9	南東	20	19	雨	35
長野	751・9	西北西	5	16	雷雨	17
前橋	754・0	東南東	6	17	雨	26
宇都宮	757・2	北西	4	17	雨	112
福島	758・1	靜穩	1	15	雨	83
福井	753・3	北	2	18	晴	44
新潟	753・0	南東	8	20	曇	12
秋田	756・9	東南東	13	17	雨	20
石巻	759・1	東南東	7	19	曇	62
盛岡	760・1	南南東	5	16	曇	37
青森	759・4	南東	5	19	曇	23
函館	760・1	東南東	14	16	曇	56
札幌	761・4	南南東	11	14	曇	15
旭川	762・0	南	6	17	晴	11
根室	768・6	南南東	9	11	曇	—
大泊	765・5	東	10	11	曇	—
釜山	759・6	北西	4	18	快晴	—
仁川	763・1	北	2	17	快晴	—
元山	759・4	東	2	18	快晴	—
城津	758・8	南	3	16	快晴	—
新義州	760・4	靜穩	1	14	快晴	—
大連	760・2	南南西	7	21	快晴	—
奉天	758・0	西南西	7	16	快晴	—
新京	756・0	西南西	4	11	快晴	—
天津	760・4	靜穩	1	19	快晴	—
青島	762・6	南西	5	19	快晴	—
上海	761・0	靜穩	0	20	快晴	—

◎東京氣象

十月二十六日　天氣概況　曇後雨
平均氣壓（海面ノ度）　七六七・〇粍
平均氣溫　一二・八度
　平年ヨリ一・四度低シ
最高氣溫　一七・七度
最低氣溫　八・八度
前五日間平均氣溫　一三・六度
　平年ヨリ一・〇度低シ
平均濕度　八二%
平均水蒸氣張力　九・二粍
平均雲量　九・九
日照時間　一・七時
平均風速度　二・七米
最大風速度　三・六米
最多風向　北
降水總量　三・四粍
一時間最大降水量　一・〇粍
記事　午前一時十分ヨリ同五時三十分マテ、同九時五十分ヨリ翌日ニ亙リ降雨アリタリ

同　二十七日　天氣概況　雨夜間晴
平均氣壓（海面ノ度）　七五五・一粍
平均氣溫　一七・一度
　平年ヨリ三・〇度高シ
最高氣溫　二〇・九度
最低氣溫　一三・五度
前五日間平均氣溫　一三・九度
　平年ヨリ〇・六度低シ
平均濕度　九五%
平均水蒸氣張力　一四・五粍
平均雲量　九・〇
日照時間　〇・〇時
平均風速度　三・七米
最大風速度　一三・三米
最多風向　南東
降水總量　一六三・六粍
一時間最大降水量　七〇・五粍
記事　前日ヨリ午後零時四十四分マテ、同五十分ヨリ同二時四十二分マテ、同五十一分ヨリ同三時四十一分マテ、同五十七分ヨリ同五時四十分マテ、同七時三十分ヨリ同八時五分マテ降雨アリ、午前九時五分ヨリ午後二時二分マテ電雷アリタリ

◎東京地震報告

觀測所名	發震月日時刻	初期微動繼續時間	震度	性質
東京	十月二十四日　午前三時二十七分四十一秒	八秒	微震	急

（以上中央氣象臺）

廣告

◎華族世襲財産

左記財産ヲ以テ華族世襲財産設定認可ノ申請アリタルニ依リ該財産ニ關シ權利ヲ有スル者及債權者ハ昭和十年十二月三十日マテニ宮內大臣ニ申出ツヘシ

昭和十年十月二十三日　宮內省

◎公爵毛利元昭所有　甲種登錄　甲號五分利公債甲號第五九二五番金額九千五百圓

◎侯爵德川義親所有　甲種登錄　四分利公債へ號第七一三番金額二十万圓、甲種登錄四分利國庫債券と號第一〇八番金額十二万五千四百圓

◎子爵九鬼隆輝所有　兵庫縣神戸市神戸區山本通四丁目一二四番宅地三百八十三坪六合四勺

◎子爵大久保忠言所有　甲種登錄　五分利公債あ號第二一一四番金額二千圓

◎男爵坊城俊賢所有　第百七十九回記名興業債券第八二〇番、第七四三番合額面金一万百圓

右公爵毛利元昭ノ分ハ山口市防長新聞、子爵九鬼隆輝ノ分ハ神戸市神戸又新日報其他ノ分ハ東京市時事新報ヲ以テ公告ス

◎著作權登錄

登錄番號登錄年月日	著作物ノ表示	著作ノ年月日發行又ハ興行ノ年月日	著作者ノ氏名	登錄ノ目的	登錄ノ原因
第三七〇〇號ノ一 昭和10、10、21	帝國地方行政學會代表者大谷仁兵衞著作 加除自在現行法規類典（法令集）全十七綴	大正二、三、三〇著作 二、四、一發行	大谷仁兵衞	著作權ノ讓渡	昭和五年十一月十四日下記ノ者ノ間ニ著作權ノ讓渡アリタリ 讓渡人　東京市京橋區銀座西七ノ一　大谷仁兵衞 讓受人　東京市赤坂區溜池町一　帝國法規出版株式會社
第三七〇一號ノ一 10、10、21	帝國地方行政學會代表者大谷仁兵衞著作 加除自在參考條文挿入現行法規全書（法令集）全二十八綴	明治三七、二、二五著作 三七、三、一發行	同	右同	同右 同右
第三七〇二號ノ一 10、10、21	大日本法令普及會代表者田中喜重郎著作 帝國法規（法令集）全十七綴	大正七、三、一五著作 七、三、二五發行	田中喜重郎	同右	同右 讓渡人　長野市岡田町一七六　田中喜重郎 讓受人　東京市赤坂區溜池町一　帝國法規出版株式會社
第三七〇三號ノ一 10、10、21	加藤德重著作 教育勅語闡明（修養書）全一冊	昭和一〇、七、七著作 一〇、九、二〇發行	加藤德重	著作ノ年月日	本著作物ハ昭和十年七月七日下記ノ者之ヲ著作シタルモノナリ 前橋市竪町七九　加藤德重
第三七〇四號ノ一 10、10、21	河田吉兵衞著作 教育勅語と我等の行道（教育書）全一冊	一〇、二、一著作 一〇、三、二一發行	河田吉兵衞	著作權ノ相續	昭和十年七月十八日下記ノ者ノ間ニ著作權ノ相續アリタリ 被相續人　河田吉兵衞 相續人　東京市本郷區富士前町三五　河田雅夫

昭和十年十月　內務省

◎學藝技術奬勵金寄附

學藝技術奬勵金トシテ當局ニ於テ受領シタル寄附金及同寄附者住所氏名左ノ如シ（代表名ノモノハ內譯ヲ省略ス）

昭和十年十月　海軍省經理局

受領月日	金額	現住所	族籍官職位勳爵	氏名
	北海道			
（十年）九、二	（圓）五・〇〇	幌別郡幌別村幌別鑛山		鬼塚勁子 鬼塚光子
	岩手縣			
九、一七	九・〇〇	西磐井郡眞瀧村眞柴中屋敷二〇		岩淵喜藏
	栃木縣			
九、一四	一五・〇〇	栃木町薗部三七九栃木獻金會代表		相良謙三
	長野縣			
九、三〇	一〇・五〇	下伊那郡龍丘小學校長		兩角米平
	東京府			
九、二	一・〇〇	兜町		一小店員
同　六	一〇・〇〇	東京煉炭株式會社千住工場		吉池粂三郎
同	五・〇〇	帝國在郷軍人會三條聯合分會		海軍部
同　一九	五・〇〇	日本鋼管株式會社檢査係		廣瀬庚吉
同	一・五〇	東京市日本橋區横山町一ノ二		太田本男
同　二三	三〇・五〇	東京府立第一中學校內		愛國拾錢會
同　三〇	一・〇〇	東京市瀧野川區田端町二ノ五二		神山信夫
同	一・三〇	神津島村大日本國防費壹錢獻金會神津島支部		江川順一 松江太郎
同	一・〇〇	西大久保		匿名
同	一・〇〇	澁谷道玄坂		一軍人ノ妻
同	二・〇〇	東京市深川區多木町一〇		匿名
同	二・二〇	同芝區新橋六ノ三八知童金之助方		愛國少年會
	神奈川縣			
九、一〇	三・〇〇	海軍砲術學校		辻倉甚三
同　一三	三・五五	横須賀海軍工廠造兵部國防會代表		栗田捨次郎
同　一八	五・〇〇	横須賀市汐入三三五一		濱田兼吉
同　二三	一三・〇〇	日本タンカー株式會社汽船昭洋丸船長		山之內種男（外四十名）
同	二〇・〇〇	横須賀市		匿名婦人
同　二五	一・一四	同汐入三九六		萩庭樹（外九名）
	靜岡縣			
九、六	六・〇〇	伊豆土肥溫泉慶應堂病院內		雨宮白
	愛知縣			
九、一〇	三・六五	名古屋市中區鐵砲町一ノ二九福永塗料店內		小林富次郎
	福井縣			
九、一三	10、000・00	福井市手寄上町三四		中島與作
	大阪府			
九、二	・五〇	大阪天滿		匿名（酒ニ代リテ）
同	二・〇〇	大阪市西區阿波座上通二		下條登美子 下條武男
同　一三		大監經由第十五驅逐隊蔦第二分隊		宮本賢次
同	二・〇〇	大監經由		尾崎一職工
同	一・〇〇	同		谷岡
同	三・〇一	大阪市此花區北安治川通三大同電力春日出第二發電所內愛國軍艦一日一錢獻金取扱所代表		三宅直記
同	五〇・〇〇	同今開町一ノ一三九		武部勘造
同	二・〇〇	同西淀川區福町二一六愛國軍艦一日一錢獻金取扱所		畑山武彥
同	八・三一	同		畑山彥太郎
同	四・五九	同海老江二ノ一二三愛國軍艦一日一錢獻金取扱所代表		多田磯治郎
同	一〇・〇〇	同市眞砂町一〇高岡方		門坂金治郎
同	一・〇〇	大監經由		無名氏
同	二・〇〇	同		榎並
同	一・〇〇	同		SN
同	二・七〇	同		大阪水交クラブ
	京都府			
九、三	三・〇〇	加佐郡與保呂村少年赤十字團		常支部
同　一五	・九〇	相良郡中和束村役場		高矢光吉
同　二一	五・〇〇	舞鶴要港部工作部		鉄尾清三郎
同	一〇・四〇	同		赤松清一
同	一・四五	同		酒井光之助
同	二・〇〇	同		苗村政一

第2649号本文

同	一・三〇	同	山口 定七
同 一六	一・四一	中郡舟波村國防婦人會員	山本 よし子
	兵庫縣		
九、二	五〇〇・〇〇	神戸市湊區五宮町一一八	小野 蓮子
同	一〇・〇〇	同市元町通三ノ三四一	渡邊 千榮
同	一・〇〇	加古郡高砂町七番屋敷	松本 福松
同 同 同	二三・三五 二三・一四 二三・一九	神戸市苅藻通七合同油脂株式會社兵庫工場代表	長鄕 幸治
同 一三	一、五〇〇・〇〇	武庫郡精道村三條字松本四五六	岩崎 かね
同 一七	一・〇〇	明石郡垂水小學校生徒	川田 喜代子
同 三〇	三・九九	川邊郡小田村杭瀬富永鋼業株式會社尼崎工場內	二川 秀夫
同	三〇・〇〇	神戸市湊區五宮町一三一森高等女學校長	森 和佐
同	一〇〇・〇〇	同神戸區下山手通八ノ一一番屋敷	今中 ミチ
同	二二・〇八	同林田區苅藻通七合同油脂株式會社	兵庫工場
	山口縣		
九、一〇	・七五	下關東	匿 名
同 一七	五〇・〇〇	山口市大正通二三一二	宮崎 政吉
	和歌山縣		
九、一三	四・一〇	海草郡和佐尋常高等小學校長	細川 義治
	廣島縣		
九、一七	三〇・〇〇	帝國在鄉軍人會吳市第三分會長	小笠原濱次郎
同	・六〇	吳鎭經由	匿 名
同	三・〇〇	軍艦大鯨一等機關兵	糸賀 德道
同	二・二三	吳鎭經由	匿 名
同	二・〇〇	同	匿 名
同	一〇・〇〇	吳海軍建築部	村上 登久雄
同	二〇・〇〇	廣島市横川町三	本田鐵工所
同	一・五〇	吳海軍工廠造船部	園田 初夫
同	・九六	吳市內神町一一三	武井 義博
同	五・六〇	同宗灘町七四	土居川 吉次
同	一・〇〇	第一四驅逐隊菊海軍二等機關兵曹	柳 辰男
同	五・〇〇	吳海兵團補充分隊	青山 正士
同	一・〇〇	吳鎭經由	匿 名
同	一・〇四	同	匿 名
同	三・〇〇	吳市辰川町五七ノ二	竹下 善夫
同	五・〇〇	吳鎭經由	匿 名
同	二〇・〇〇	吳市西片山町一〇	飯塚 聖林
同	二・〇〇	元吳海軍軍需部倉庫手	河野 多茂津
同	二・〇〇	吳鎭經由	匿 名
同 二五	一二・六〇	吳海軍工廠水雷部檢査工場	福中 猶
同	一・三五	同砲熕部作業係	成富 勝
同	二・七〇	同砲熕部第一七工場	稻益 政行
同	一・〇〇	同會計部製鋼工費係	某
同	三・〇〇	同砲熕部第一工場	岡本 年數 外九名
同	一・〇〇	同製鋼部第一六工場	畠山 惠
同	三・〇〇	同第三工場	吉村 丈之進
同	一・二五	同造船部艤裝工場	吉川 美代龜
	徳島縣		
九、三	・五〇	海邊郡三岐田町東由岐浦	武知 益次郎
	高知縣		
九、二	二・〇〇	安藝郡和食村藝西高等小學校西分通學生代表	岡村 泰守
	愛媛縣		
九、三〇	一〇・五五	新居郡西條町	田中 彌平 松井 貞一
	大分縣		
九、三	一・〇〇	大分縣	一中等教員
同 三〇	五・〇〇	日田郡五馬村	松崎 義雄
	長崎縣		
九、三	一・八〇	北松浦郡平戸自動車會社	三浦 朝次郎
同	一・五〇	佐世保市日宇福石免六七五	一ノ瀬 利夫
同	四・〇〇	同俵町二三八	中村 みや
同	五・〇〇	佐世保防備隊二曹 軍艦常磐三曹	田邊 正 金城 善四郎
同 一一	三・〇〇	北松浦郡佐々村土手口新聞店內	天雨 清光 天雨 燕
同 二五	一〇〇・〇〇	長崎市新大工町七一小川方	飯田 倉子
同 三〇	五・〇〇	佐世保市外	山下 壽美惠
同	・五〇	南松浦郡福江町一	倉田 傳
同	三・七〇	佐世保海軍工廠造機部	柳川 政市
同	二・九〇	同	平山 筆一
同	五・〇〇	佐世保海兵團七分隊	井坂 竹男
同	五・〇〇	南高來郡布津村中通一六三一	森崎 長幸
同	三・〇〇	佐世保市清水町一七一	江口 藏造
同	五・〇〇	同福石町一七一	野田 仁一
同	五・〇〇	軍艦熱海	高橋 林八
同	一・〇〇	軍艦加賀三分隊	江口 利吉
同	三・〇〇	北高來郡小野村大字小野島	藤山 勇夫
同	五・〇〇	佐世保市折橋免九三七	草場 米作
同	二〇〇・〇〇	南高來郡南串山村	信用購買販賣利用組合
	佐賀縣		
九、二五	二〇・〇〇	佐賀郡久保田村青年團福富支部長	關 康夫
同 三〇	一・〇〇	佐賀市日蓮寺	日 傳
	福岡縣		
九、三	三〇・〇〇	小倉市砂津四一三	富田 晉
同 一〇	・六二	八幡市臺良町一	筒井 秋穗
同 三〇	二〇・〇〇	糟屋郡勢門村若杉	合屋 久雄
	宮崎縣		
九、三〇	一〇・〇〇	西諸縣郡眞幸村帝國在鄉軍人會	海 軍 部
同	一〇・〇〇	同加久藤村帝國在鄉軍人會	加久藤村海軍部
	外國		
九、二	一五〇・〇〇	滿洲國新京康平街陸軍官舍七號	名波 敏郎
同 六	四・〇〇	ポナペ島マタラニーム村	比嘉 永秀
同	二・〇〇	同	池原 瀧
同	五・〇〇	同	平野 熊之助
同	四・〇〇	同	東江 英次郎
同	四・〇〇	同	仲程 文盛
同	二・〇〇	同	城間 次郎
同	五〇・五〇	ワシントン州キング郡エナムクロー	在留邦人青年倶樂部

同 一一	一〇一・三五	シヤトル市南第一大街二一四號 グランド・セントラル・ホテル內	濱 德太郎
同 二五	一〇六・九五	南洋群島パラオ尋常高等小學校校友會代表	富永 五六郎
同 三〇	一六九・七七	紐育、ウエストオレンヂ、Lウエリンペーク、W・H・デーン方	三原 正市
	住所不詳		
九、二	・五〇		一職夫
同	一・〇〇		一軍人ノ妻
同	一・〇〇		匿 名
同	・九〇		一愛國民
同 三	一・〇〇		H・T生
同 五	・三〇		匿 名
同 一〇	一・〇〇		南海生
同	一・〇〇		貧勞生
同	・九四		憂國ノ青年
同 一三	・五〇		未成年生
同 三〇	・七五		匿 名

◎工場財團

東京市麹町區丸ノ內二丁目十二番地日本食料工業株式會社ヨリ東京府八王子市明神町字北田五百番地、神奈川縣横須賀市汐入町三百六十九番地、神奈川縣横須賀市安浦町二丁目一番地、神奈川縣鎌倉郡大船町小袋谷字八反目六百二十四番地、神奈川縣中郡大野村南原字古屋敷四百五十六番地、神奈川縣足柄下郡小田原町幸一丁目二番地ノ一、神奈川縣足柄下郡眞鶴町字海岸九百五十九番地、千葉縣安房郡千倉町南朝夷字千倉千百九十三番一、愛知縣名古屋市東區東道町七丁目三番地ノ二、愛知縣一宮市明治通一丁目二十九番、愛知縣碧海郡大濱町字北川六十七番、愛知縣豐橋市花田町字池田五番ノ一、愛知縣岡崎市板屋町百六十九番、百七十二番、百七十八番、二百三十五番ノ一、愛知縣幡豆郡西尾町大字馬場四十八番ノ四、岐阜縣岐阜市中吉町二十一番、岐阜縣大垣市郭町二十八番ノ一、三重縣津市大字津二千百二十二番、三重縣宇治山田市大字船江町百六十番ノ一、三重縣四日市市大字末永九十八番ノ一、三重縣桑名郡桑名町大字桑名百四十二番ノ一、三重縣松阪市大字松阪二千六十番ノ一、三重縣志摩郡鳥羽町大字鳥羽千五十三番ノ一二、三重縣三重郡富洲原町大字富田一色三百十番ノ七、同番ノ三十七、靜岡縣濱松市東田町百五十二番地、靜岡縣濱松市板屋町三百七番ノ二、四百八十六番、靜岡縣清水市入船町三丁目八番地、靜岡縣清水市日ノ出町一丁目十番、靜岡縣志太郡島田町四千六百十八番ノ一、靜岡縣靜岡市新富町二丁目十七番地、靜岡縣田方郡三島町字御殿四百三十八番地ノ一、靜岡縣庵原郡蒲原町堰澤字川東四百六十番ノ一、靜岡縣榛原郡相良町百七十四番ノ一、熊本縣熊本市練兵町三十九番地ノ一、佐賀縣佐賀市米屋町百六十四番地、福岡縣久留米市白山町字上牟田二百五十五番地、福岡縣大牟田市松原町二丁目二十七番地ノ二、熊本縣八代郡八代町字袋町百六十番ノ一ノ二、長崎縣南松浦郡富江町富江鄕字濱ノ町三百五十七番十四、長崎縣南高來郡島原町字湊新地四百九番三、佐賀縣西松浦郡伊萬里町大字松島搦字四本松二百九十三番地、熊本縣天草郡牛深町字崎町二千二百八十六番十三、山口縣萩市大字椿東字大廐津三千三十五番地ノ一、福岡縣小倉市船町七十九番地ノ一、山口縣都濃郡德山町字下境第三千三百七十四番地ノ一、大分縣別府市大字濱脇字東濱四千七十八番ノ一、大分縣中津市大字中殿字津布屋五百二十九番地ノ一、福岡縣嘉穗郡穗波村大字枝國字鶴ノ下三十五番地ノ二、大分縣北海部郡臼杵町大字臼杵字濱百二十九番地、大分縣大分市大字生石字前田三百五十六番地、鳥取縣西伯郡境町入船町二十番、島根縣那賀郡濱田町大字原井字築地二千九百五番地、島根縣那賀郡濱田町大字原井字青田道ヨリ東七百九十二番地ノ二、岡山縣兒島郡下津井町大字吹上字天王町三十一番地、島根縣簸川郡今市町字新町七百三十九番一、島根縣松江市朝日町字伊勢宮四百九十番四、鳥取縣鳥取市擬川町七十九番地、岡山縣岡山市內山下字伊木邸九十三番地二、鳥取縣米子市灘町三丁目百五十番、愛媛縣松山市久保町二十六番地、二十九番地、愛媛縣今治市大字今治村字蒼社內甲二百三十四番地ノ二、廣島縣吳市公園通一丁目一番地、廣島縣尾道市尾崎町字筒湯百八十八番地二、廣島縣廣島市塚本町六十八番地三、廣島縣吳市吉方通一丁目八番地、廣島縣福山市西町字欄丁中六百八十七番地甲、六百八十八番地合併、高知縣高知市九反田字大道丸四十四番地、高知縣幡多郡清水町清水字貝塚五百十一番四十一、大阪府大阪市浪速區敷津町一丁目三十七番地、和歌山縣東牟婁郡勝浦町千百八十一番地ノ七、和歌山縣和歌山市元寺町三丁目七番地、兵庫縣尼崎市築地中通五丁目百二十七番地、和歌山縣西牟婁郡串本町字中地生千七百三十四番地ノ八、奈良縣奈良市北京終町五十七番地ノ十、奈良縣奈良市三條町五百九十五番地ノ一、滋賀縣犬上郡彥根町北新第一番、兵庫縣飾磨郡飾磨町大字惠美酒字高瀬五百六十一番地所在工場ニ關スル工作物並ニ機械器具等ニ對シ新ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ追加ニ因ル目錄記載變更登記申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動産ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十五日以內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但シ工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閲覽ニ供ス

昭和十年十月三十日　東京區裁判所富士見町出張所

濱松市中澤町十二番地日本ビスコース工業株式會社ヨリ濱名郡曳馬町早出千五百番地所在ノ同會社ノ工場ニ屬スル建物並ニ機械器具、工業所有權等ニ對シ工場財團組成ノタメ所有權保存ノ登記申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動産ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日以內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但シ工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閲覽ニ供ス

昭和十年十月三十日　濱松區裁判所

◎指定運送取扱人選定

指定運送取扱人左ノ通選定セリ

昭和十年十月三十日　鐵道省

	驛名	商號及氏名
都城線	安久	都城合同運送株式會社安久出張所
	深瀬	同深瀬出張所
	日向酒谷	同日向酒谷出張所

◎軌道財團用紙閉鎖

曩ニ官報ヲ以テ公告セル堀之內軌道運輸株式會社軌道財團ニ對スル抵當權設定登錄ハ當事者ノ申請ニ依リ全部抹消セラレタルヲ以テ本月二十六日軌道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタリ

右軌道ノ抵當ニ關スル法律第一條ニ依リ公告ス

昭和十年十月三十日　鐵道省

◎所屬未定地編入

左記所屬未定地ヲ多賀郡大津町ノ區域ニ編入シ本月三十日ヨリ施行ス

昭和十年十月　茨城縣

多賀郡大津町字東町百三十番、百四十番、字中町百二十一番地先

一海面埋立地面積　七千百八十三坪

◎購買入札

包紙（藥包用）　六十八万三千枚（仕様書及見本通）　宇治納

入札並開札　十一月九日午前十一時入札、即時開札但シ郵便、電信入札差支ナシ

入札場所　當廠會計課

入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）ヲ入札當日午前十時三十分マテニ納入ノコト

公示書類　物件購買入札者心得書、契約書案、內譯明細書等ハ當廠會計課及陸軍造兵廠會計部並ニ大阪工廠會計課ニ就キ閲覽ノコト

入札資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ニ依ル資格證明書ヲ入札當日午前十時三十分マテニ納入ノコト

昭和十年十月三十日　陸軍造兵廠火工廠

第一號　小圓匙縛革五〇箇外五一點

第二號　砲身被二〇箇外一八點

第三號　小圓匙掛綱三〇〇箇外一三點

一、品目員數、持込期限及場所、檢査場所等詳細ノ事項ハ當廠ニ於テ示ス

二、入札心得書、契約書案、仕様書、圖面等閲覽場所　當廠

三、入札日時及場所　十一月九日午前十一時、當廠但シ郵便、電信入札妨ナシ

四、入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

五、入札資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格證明書ヲ當日午前十時マテニ提出スルヲ要ス

昭和十年十月三十日　陸軍兵器本廠

◎賣拂入札

一品名及數量　古被服ラシャ上衣一五六枚外二十九點

一現品引渡場所　五稜郭倉庫

一入札並開札　來ル十一月十一日午前十一時限入札、同時開札但シ書留郵便入札差支ナシ

一現品下見　開札前日マテ、日曜日、大祭日ヲ除ク

一入札場所　當局經理課

一公示書類　同課ニ於テ熟覽ノコト

一入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ十以上（圓未滿切上ク）

一契約保證金　契約總代金ノ同上（同上）

昭和十年十月三十日　札幌鐵道局

◎商業登記

◎秋桝合資會社解散
總社員ノ同意ニ因リ昭和十年八月二十七日解散ス

◎合資會社設立
商號　合資會社東京化學工業所
本店　東京市瀧野川區田端新町一丁目六十八番地
目的　一數物ノ製造販賣竝ニ之ニ附帶スル一切ノ業務
設立年月日　昭和十年九月一日
代表社員ノ氏名　手島新一　同平木大三
社員ノ氏名住所出資及責任
金六千圓　無限　手島新一　東京市瀧野川區田端新町一丁目六十八番地
金四千圓　無限　平木大三　同市神田區鎌倉町九番地ノ一
金三千圓　有限　井上幾　大阪市住吉區住吉町四百四十六番地
金二千圓　有限　三浦太一　同市東成區東小橋南町二丁目九十七番地
金二千圓　有限　須藤市郎　東京市京橋區入船町二丁目七番地
存立時期　昭和三十年八月三十一日迄

◎合資會社設立
商號　合資會社平澤商店
本店　東京市豐島區池袋二丁目八百六十七番地
目的　菓子及玩具ノ販賣
設立年月日　昭和十年九月一日
代表社員ノ氏名　平澤隆三
社員ノ氏名住所出資及責任
勞務及信用　無限　平澤隆三　東京市豐島區池袋二丁目八百六十七番地
藤張丸高卓子一脚外動產八十點此價格金千圓　有限　平澤和嘉　東京市豐島區池袋二丁目八百六十七番地
金二千圓　有限　林ゑい　東京市淀橋區下落合一丁目四百五十番地
存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

◎吾妻土地興業株式會社變更
昭和十年八月三十一日商號ヲ南洋商事株式會社ト變更ス
同日目的ヲ一礦油類ノ販賣二南洋ニ於ケル船具漁具及雜貨類ノ販賣三南洋ニ於ケル水產物農產物及天產物ノ賣買四南洋ニ於ケル漁業水產物農產物ニ對スル投資五右ニ附帶スル一切ノ業務ト變更ス
同日公告方法ヲ當會社ノ公告ハ本店々頭ニ三日間掲示シテ之ヲ爲スト變更ス
取締役遠藤初治郎同島田正吉郎ハ同日辭任ス
取締役門馬貞藏同下山均ハ同日解任セラル
同日左者取締役ニ就任ス
山田久右衛門　東京市豐島區目白町三丁目三千五百四十三番地
伊越開知　同區雜司ケ谷町二丁目四百七十九番地
吉山良鋭　同市大森區池上德持町四百三十番地
監査役伊藤鐵太郎ハ同日辭任ス
左者同日監査役ニ就任ス
藤堂高象　東京市淀橋區柏木四丁目八百七十六番地
會社ヲ代表スヘキ取締役遠藤初治郎ハ同日辭任ス
左者同日會社ヲ代表スヘキ取締役ニ就任ス
山田久右衛門
同日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　東京市芝區田村町二丁目八番地十一號
右昭和十年九月五日登記

◎大日本齒科技工株式會社變更
取締役平塚忠作ハ昭和十年九月一日辭任ス
取締役岸山增次郎ハ任期滿了ノ處同日取締役ニ就任ス
岸山增次郎　東京市品川區大崎本町二丁目四百十五番地
同日左者取締役ニ就任ス
加藤仁九郎　東京市向島區寺島町四丁目百九十九番地

◎合資會社埼玉屋變更
社員大橋留吉同大橋まさハ昭和十年九月六日其持分全部ヲ左者ニ讓渡シテ退社シ之ヲ讓受タル左者ハ同日入社ス
金千五百圓　有限　大橋武雄　東京市荒川區尾久町二丁目三百五十一番地

◎合資會社設立
商號　合資會社山崎商店
本店　東京市豐島區西巢鴨三丁目五百七十七番地
目的　藤製品ノ製造及販賣
設立年月日　昭和十年九月六日
代表社員氏名　山崎敏三郎
社員氏名住所出資及責任
勞務　無限　山崎敏三郎　東京市豐島區西巢鴨三丁目五百七十七番地
金千圓　有限　山崎トヲ　同所同番地
金二千五百圓　有限　横山民太郎　神奈川縣橘樹郡日吉村駒林千六百七十六番地
金千五百圓　有限　今成貞吉　東京市豐島區西巢鴨三丁目七百番地
存立時期　設立ノ日ヨリ向フ滿十箇年
右昭和十年九月六日登記

◎商號新設
商號　中野商店
營業ノ種類　金銀地金ノ仲立業
營業所　東京市豐島區西巢鴨四丁目二番地
商號使用者ノ氏名住所　中野利一郎　東京市豐島區西巢鴨四丁目二番地

◎櫻組工業株式會社變更
左者昭和十年八月二十八日取締役ニ就任ス
松野晃典　東京市王子區稻付町二丁目百六十番地

◎佐藤同族合名會社變更
社員佐藤一郎ハ昭和十年九月九日其持分全部ヲ佐藤愛子ニ讓渡シテ退社シ社員佐藤正二ハ其持分全部ヲ佐藤トメ子ニ讓渡シテ退社シ之ヲ讓受ケタルモノハ同日入社ス
金千圓　佐藤愛子　東京市豐島區巢鴨一丁目四十六番地
金千圓　佐藤トメ子　同所同番地
右昭和十年九月九日登記

◎合資會社設立
商號　合資會社宮本洋服店
本店　東京市豐島區巢鴨三丁目十九番地
目的　一和洋服ノ製作販賣二和洋服ノ生地裏地付屬品ノ賣買三前各項ニ附帶スル一切ノ洋服業務
設立年月日　昭和十年九月一日
代表社員ノ氏名　宮本岩保
社員ノ氏名住所出資及責任
勞務　無限　宮本岩保　東京市豐島區巢鴨三丁目十九番地
金千圓　無限　宮本權一郎　長野縣南安曇郡倭村字大妻百八十九番地
金千五百圓　有限　中山幸治　長野市箱淸水町二番地
金五百圓　有限　上條庄司　長野縣東筑摩郡神林村字南荒井五百二十番地
存立時期　昭和二十五年八月三十一日迄

◎旭ドライマット株式會社變更
取締役吉井太喜惠ハ昭和十年九月一日辭任ス
左者同日取締役及會社ヲ代表スヘキ取締役ニ就任ス
永井房太郎　東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二千六百九十一番地
監査役齊藤俊治ハ同日辭任ス
同日左者監査役ニ就任ス
本重和助　東京市芝區三田功運町二十七番地
右昭和十年九月十日登記

東京區裁判所下板橋出張所

◎合名會社岡本商店解散
一總社員ノ同意ニ因リ昭和十年九月五日解散ス

◎合資會社有田硝子製造所變更
一社員有田傳治郎ハ昭和十年九月七日勞務ノ出資ヲ廢止シ金三百圓也ヲ出資シテ其ノ出資額ヲ金三百圓也ト變更ス
右昭和十年九月九日登記

◎株式會社本店移轉
昭和十年八月二十七日本店ヲ東京市日本橋區室町三丁目一番地四ヨリ當管內ニ移轉シタルニ付左記登記ヲ爲ス
一商號　株式會社酒井コンクリート工業店
一本店　東京市城東區大島町一丁目六番地
一目的　土木建築工事設計請負及ヒコンクリート製品製造販賣竝ニ之ニ附帶スル一切ノ事業
一設立年月日　大正十四年八月十五日
一資本總額　金十万圓也
一一株ノ金額　金五十圓也
一各株ニ付拂込ミタル株金額　金五十圓也
一公告方法　東京市ニ於テ發行スル時事新報ニ掲載ス
一取締役ノ氏名住所
酒井通博　東京市目黑區綠ケ丘二千二百八十番地
酒井フユ　同所同番地
福岡新作　同市世田谷區太子堂町三百十一番地
一監査役ノ氏名住所　松井政男　東京市淀橋區百人町三丁目二百七十九番地
會社ヲ代表スヘキ取締役ノ氏名　福岡新作
右昭和十年九月十日登記

◎合名會社松田商店本店移轉
一昭和十年九月一日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　東京市向島區寺島町二丁目百二十八番地
一社員山野定雄同山野利男ハ昭和十年九月一日其ノ住所ヲ東京市向島區寺島町二丁目百二十八番地ニ移轉ス
一社員松田勝太郎ハ昭和十年九月十日其氏名住所ヲ左ノ如ク變更ス
安田勝太郎　東京市荒川區日暮里町二丁目百五十二番地
右昭和十年九月十一日登記

◎中央製菓株式會社變更
一監査役竹內啓祐ハ昭和十年九月十日其ノ住所ヲ東京市澁谷區代々木大山町千四十一番地ニ移轉ス
右昭和十年九月十二日登記

◎株式會社東京府農工銀行社債(支店)
第百六十回
一社債總額　金七百万圓
一各社債ノ金額　一万圓五千圓千圓五百圓百圓
一社債ノ利率　年四分三厘
一社債償還ノ方法及期限　昭和十二年八月三十一日迄据置キ其ノ以降抽籤ニヨリ毎年二回(三月九月)每回金十四万圓以上ヲ償還シ十三箇年以內ニ全額ヲ償還ス但シ買入銷却又ハ臨時償還ヲ爲スコトアルヘシ
一各社債ニ付拂込ミタル金額　全額
第百六十一回
一社債ノ總額　金六十万圓
一各社債ノ金額　五千圓千圓五百圓百圓

一社債ノ利率　年四分三厘
一社債償還ノ方法及期限　昭和十二年八月三十一日迄据置キ其ノ以降抽籤ニヨリ毎年二回(三月九月)每回金一万二千圓以上ヲ償還シ十三箇年以內ニ全額ヲ償還ス但シ買入銷却又ハ臨時償還ヲ爲スコトアルヘシ
一各社債ニ付キ拂込ミタル金額　全額

◎合資會社設立
一商號　愛知屋商店
一本店　東京市向島區寺島町六丁目五十番地
一目的　一酒類及味噌醬油罐詰類ノ販賣二右ニ附帶スル一切ノ業務
一設立年月日　昭和十年九月十日
一代表社員ノ氏名　田原寅吉
一社員ノ氏名住所出資責任
一勞務　無限　田原寅吉　東京市向島區寺島町六丁目五十番地
一金五百圓也　有限　宇野貞一　東京市葛飾區本田立石町五百四十六番地
一金八百圓也及五號型旋盤一箇外動產三十點此價格金七百圓也　有限　田島辰次郎　東京市神田區司町二丁目十四番地ノ一
一存立時期　昭和三十年九月九日迄

◎合資會社眞利子組解散
一總社員ノ同意ニ因リ昭和十年九月十日解散ス

◎合資會社設立
一商號　合資會社大島眞利子組
一本店　東京市城東區大島町八丁目四百三十七番地
一目的　人夫ヲ雇傭シテ荷造其他之ニ關聯スル作業
一設立年月日　昭和十年九月十日
一社員ノ氏名住所出資責任
一金一千五百圓也　無限　眞利子鐵五郎　東京市城東區大島町八丁目四百三十七番地
一金千五百圓也　有限　山口梧郎　東京市牛込區納戸町三十番地
一金五百圓也　有限　朝氏純治　東京市本鄕區向ケ岡彌生町三番地
一存立時期　昭和二十年九月九日迄

◎小川鐵工合資會社變更
一左者昭和十年九月十日左ノ如ク入社ス
一金五百圓也　有限　小澤半次郎　東京市本鄕區駒込林町二十七番地
右昭和十年九月十三日登記

◎合資會社設立
一商號　合資會社有國染色糊置工場
一本店　東京市向島區寺島町四丁目九十二番地
一目的　一綿布類ノ染物糊置加工竝ニ之ニ附帶スル一切ノ事業
一設立年月日　昭和十年九月五日
一社員ノ氏名住所出資責任
一金五百圓也　無限　田中六五郎　東京市向島區隅田町三丁目五百九十九番地
一勞務及信用　無限　山口九藏　同區寺島町四丁目九十二番地
一金五百圓也　有限　山口キヨ　同所同番地
一存立時期　昭和三十年九月四日迄

◎合資會社丸三ベニヤ製造所變更
一社員布谷久五郎ハ昭和十年九月十三日其責任ヲ無限ト變更ス
一社員左記ノ者ハ同日代表社員ニ就任ス
代表社員ノ氏名　布谷久五郎
右昭和十年九月十四日登記

東京區裁判所小松川出張所

◎合名會社設立
一商號　合名會社奧山商店
一本店　東京市葛飾區西篠原町百四十八番地
一目的　セルロイド再製販賣其ノ他之ニ附隨スル一般ノ業務
一設立ノ年月日　昭和十年九月九日
一代表社員ノ氏名　奧山末吉
一社員ノ氏名住所出資ノ種類及ヒ價格
一金二千圓也　奧山末吉　東京市葛飾區西篠原町百四十八番地
一金二千圓也　奧山タツ　同所同番地
一金一千圓也　奧田トミヱ　同所同番地
一存立ノ時期　設立登記ノ日ヨリ向フ滿二十箇年
右昭和十年九月九日登記

◎合名會社設立
一商號　合名會社金光堂
一本店　東京市葛飾區本田原町八十三番地
一目的　時計蓄音機貴金屬レコードノ販賣竝ニ修繕及ヒ之ニ附帶スル一切ノ業務
一設立ノ年月日　昭和十年九月一日
一代表社員ノ氏名　齊藤金藏
一社員ノ氏名住所出資ノ種類及ヒ價格
一金三千圓也　齊藤金藏　東京市葛飾區本田原町八十三番地
一金五百圓也　齊藤秀雄　同所同番地
一金五百圓也　齊藤タツ　同所同番地
一存立ノ時期　昭和三十年八月三十一日迄
右昭和十年九月十二日登記

東京區裁判所新宿出張所

◎成木川水力電氣株式會社(變更)
一監査役木崎貞藏武藤伊之助加藤伴次郎ハ任期滿了ニ付株主總會ニ於テ新ニ左記ノ者ヲ監査役ニ選任シ昭和十年八月二十七日就職ス
木崎貞藏　東京府西多摩郡成木村北小曾木百五番地
武藤伊之助　同府同郡同村上成木下分八百六十一番イ號地
加藤伴次郎　同府同郡同村下成木下分四十六番地
右昭和十年九月九日登記

八王子區裁判所青梅出張所

◎合資會社ピース商會解散
一昭和十年九月五日總社員ノ同意ニ因リ解散ス

◎合資會社竹間鐵工所出資增加
一昭和十年九月一日社員全員ハ出資增加ニ因リ左ノ通リ變更ス
一社員ノ氏名出資ノ種類價格
金五千四百圓　竹間喜八郎
金一千五百圓　竹間五郎藏
金一千五百圓　竹間重兵治
金一千五百圓　竹間三郎

◎横濱生命保險株式會社更正(支店)
一朝鮮京城府永樂町二丁目五十五番地ノ支店ヲ同所五十六番地ト更正ス

◎株式會社柏木運送店變更
一昭和十年八月二十六日取締役柏木正ハ住所ヲ東京市淀橋區柏木三丁目三百五十三番地一ニ移轉ス

◎合資會社設立
一商號　合資會社久良木組
一本店　横濱市神奈川區岡野町百二番地
一目的　一土木建築設計測量ノ請負竝ニ仲介二一般建築材料ノ賣買竝ニ仲介三土地建物ノ賣買竝ニ仲介四前記各號ノ事業ニ對スル一切ノ附帶業務竝ニ之カ投資ヲ爲スコト五保險代理店
一設立年月日　昭和十年九月七日
一代表社員ノ氏名　籏智良造
一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格責任
金四万八千圓及籏智良造經營ニ係ル土木建築請負業久良木組ノ營業權此價格金二万圓横濱市神奈川區岡野町百二番地所在木造スレート葺二階建事務所建坪二十五坪五合外二階二十五坪五合此價格金四千五百圓同所同番所在木造トタン葺二階建家屋建坪十一坪九合外二階十一坪九合此價格金五百圓　無限　籏智良造　横濱市神奈川區松ケ丘七十番地
土井伊三郎山下美通雄共同經營ニ係ル土木建築請負業土井工務所營業權ノ持分三分ノ一此價格金一万圓　有限　土井伊三郎　横濱市磯子區磯子町一千十二番地
土井伊三郎山下美通雄共同經營ニ係ル土木建築請負業土井工務所營業權ノ持分三分ノ一此價格金一万圓　同　山下美通雄　東京市大森區入新井四丁目六十四番地
金五千圓　同　籏智友喜知　横濱市神奈川區岡野町百二番地
金二千圓　同　籏智捨左久　同市同區松ケ丘二十七番地

◎愛國肥料株式會社株金拂込
一昭和十年八月三十日各株ニ付キ拂込ミタル株金額ヲ金五十圓ト變更ス

◎同變更
昭和十年九月一日取締役岡崎公宏監査役松田有弘ハ辭任シ同日左記ノ者取締役及監査役ニ就任ス
一取締役ノ氏名住所
星野錫　東京市日本橋區濱町二丁目八十八番地
林靜夫　同市豐島區巢鴨六丁目千三百四十九番地
秋田正諄　同市大森區新井宿六丁目七百十三番地
松田有弘　同市杉並區和泉町三百三十二番地
一監査役ノ氏名住所
片岡久宏　東京市牛込區早稻田鶴卷町二百十一番地
佐藤知厚　同市下谷區北稻荷町三十四番地
右昭和十年九月七日登記

◎合資會社設立
一商號　日高證券合資會社
一本店　横濱市中區南仲通四丁目五十四番地
一目的　一公債社債株式等ノ有價證券ノ賣買竝ニ引受ケ募集ノ仲介一金融ノ仲介一其他之ニ附帶關聯スル一切ノ業務
一設立ノ年月日　昭和十年九月九日
一代表社員ノ氏名　高垣吉太郎
一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及ヒ責任
勞務　無限　高垣吉太郎　横濱市磯子區磯子町字禪馬四十七番地
金一千圓　有限　松木保　同市鶴見區潮田町字北仲町九百四十四番地
金一千圓　有限　田端淸太郎　東京市蒲田區道塚町二百五十九番地
一存立ノ時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

◎野村生命保險株式會社變更
一京城府黃金町二丁目八十一番地ノ支店ヲ左ノ通リ更正ス
支店　京城府黃金町二丁目百八十一番地

◎横濱煉瓦株式會社變更
一左ノ者昭和十年九月一日取締役ニ就任ス
一取締役ノ氏名住所　等々力弘　東京市下谷區坂町十一番地

第2649号本文

◉株式會社住友銀行變更
一取締役兼會社ヲ代表スヘキ取締役岡橋林ハ昭和十年九月五日重任ス
一監査役植野繁太郎ハ昭和十年九月五日重任ス
右昭和十年九月九日登記

◉合資會社ビックリ釜本店變更
一有限責任社員住田慶一郎ハ昭和十年九月三日其出資持分ヲ名越亮一ニ讓渡退社シ有限責任社員小西仲治ハ同日其出資持分ヲ水野安治ニ讓渡退社シ各讓受人ハ同日入社ス
一新入社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及ヒ責任
金五百圓　有限　名越亮一　横濱市中區眞砂町三丁目三十五番地
金五百圓　有限　水野安治　横濱市中區本牧町二丁目四百九番地

◉合資會社設立
一商號　合資會社中林染工場
一本店　横濱市中區睦町一丁目百十一番地
一目的　一般織物ノ染色及其レニ附帶スル業務經營
一設立ノ年月日　昭和十年八月二十九日
一代表社員ノ氏名　中林大吉
一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及ヒ責任
信用　無限　中林大吉　横濱市中區睦町一丁目百十一番地
勞務　無限　中林小菊　同所同番地
金五百圓　有限　中林濱次郎　同所同番地
染色機械(ロール機一臺振切機一臺)此ノ價格金四百圓　有限　中林正次　同所同番地

◉湘南電氣鐵道株式會社變更
一昭和十年八月三十一日各株ニ付拂込ミタル株金額ヲ左ノ通リ變更ス
各株ニ付拂込ミタル株金額　金四十圓
右昭和十年九月十日登記

◉株式會社横濱ホテル解散
一株主總會ノ決議ニヨリ昭和十年八月二十五日解散ス

◉株式會社横濱ホテル清算人選任
一左記ノ者昭和十年八月二十五日清算人ニ就任ス
一清算人ノ氏名住所
名取斧吉　横濱市中區海岸通二丁目五番地
古藤山長司　横濱市神奈川區鶴屋町二丁目十六番地

◉日本亜鉛鑛業株式會社株金拂込
一昭和十年九月二日各株ニ付拂込ミタル株金額ヲ左ノ通リ變更ス
各株ニ付拂込ミタル株金額　金五十圓
右昭和十年九月十一日登記　横濱區裁判所

◉合資會社持丸製作所變更
一昭和十年九月九日無限責任社員持丸安司ハ退社シ有限責任社員持丸節ハ其持分全部ヲ有限責任社員持丸茂登ニ讓渡シテ退社シ持丸茂登ハ出資額ヲ左ノ如ク變更ス
金二千八百圓　持丸茂登
右昭和十年九月十日登記　横濱區裁判所川崎出張所

◉富士箱根自動車株式會社變更
一取締役長田誠三ハ昭和十年八月二十六日重任シ取締役山口堅吉ハ任期滿了ニ付同日退任ス
右昭和十年九月九日登記　小田原區裁判所宮ノ下出張所

◉足柄自動車株式會社變更
取締役並ニ會社代表取締役長田誠三取締役山口堅吉ハ昭和十年八月二十八日辭任ス
右昭和十年九月十一日登記　小田原區裁判所松田出張所

◉株式會社日本勸業銀行變更(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
右昭和十年九月十八日登記　浦和區裁判所

◉株式會社忍商業銀行變更(支店)
一昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所鴻巣出張所

◉株式會社忍商業銀行移轉(支店)
昭和九年六月十四日大藏大臣ノ認可ヲ得昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉セリ
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所上尾出張所

◉株式會社忍商業銀行移轉(支店)
一昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉セリ
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所菖蒲出張所

◉株式會社忍商業銀行變更(支店)
一昭和十年六月十四日大藏大臣ノ認可ニ因リ昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
右昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所幸手出張所

◉株式會社忍商業銀行變更(支店)
昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所久喜出張所

◉株式會社忍商業銀行本店移轉(支店)
一昭和九年六月十四日認可ニ因リ昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　浦和區裁判所加須出張所

◉株式會社熊谷キネマ館清算結了
昭和十年九月六日清算結了ス
右昭和十年九月十六日登記

◉株式會社日本勸業銀行變更(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
右昭和十年九月十七日登記　熊谷區裁判所

◉株式會社忍商業銀行移轉
昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉セリ
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十六日登記　熊谷區裁判所忍出張所

◉株式會社忍商業銀行變更(支店)
一昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　熊谷區裁判所羽生出張所

◉株式會社忍商業銀行移轉(支店)
昭和十年九月十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
北埼玉郡忍町大字行田三十六番地ノ一
昭和十年九月十七日登記　熊谷區裁判所小川出張所

◉株式會社日本勸業銀行支店移轉(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四ニ移轉セリ
昭和十年九月十八日登記　千葉區裁判所

◉野田醬油株式會社變更
一昭和十年九月十一日公告ヲ爲ス方法ヲ左ノ通リ變更ス
內閣印刷局ニ於テ發行スル官報ニ掲載ス
昭和十年九月十六日登記　松戶區裁判所野田出張所

◉合資會社深井商店變更
一昭和十年九月五日左記社員ハ其出資額ヲ各頭書ノ通變更ス
金三万八千圓　深井吉兵衞
金五千圓　深井孝子
金五千圓　深井錄子
金五百圓　久野辰造
昭和十年九月十六日登記　八日市場區裁判所銚子出張所

◉合資會社設立
一商號　竹內自動車合資會社
一本店　水戶市鐵砲町六百六十六番地
一目的　旅客自動車運送事業右ニ附帶スル一切ノ業務
一設立年月日　昭和十年九月十二日
一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金四千圓　無限　竹內信藏　水戶市鐵砲町六百六十六番地
金五百圓　有限　猪狩孫四郎　水戶市東町一丁目五千八番地
金五百圓　有限　竹內淺七　水戶市根本町千三十三番地
一存立ノ時期　設立ノ日ヨリ滿十箇年
昭和十年九月十七日登記　水戶區裁判所

◉關本牧場合資會社解散
一會社ノ目的タル事業ノ成功不能ニ因リ昭和十年九月十四日解散ス
昭和十年九月十六日登記　水戶區裁判所關本出張所

◉株式會社猿田公益銀行變更
一取締役猿田仙右衞門ハ昭和十年九月八日死亡ス
昭和十年九月十六日登記　太田區裁判所

◉株式會社猿田公益銀行變更(支店)
一取締役猿田仙右衞門ハ昭和十年九月八日死亡ス
右昭和十年九月十七日登記　太田區裁判所大中出張所

◉合資會社設立
一商號　合資會社宮田商店
一本店　茨城縣北相馬郡取手町取手甲千四十一番地
一目的　和洋酒類味噌醬油諸罐詰類飲料水卸小賣漬物及アイスクリームノ製造販賣鐵道構內雜菓立賣業
一設立年月日　昭和十年九月十六日
一代表社員　宮田武治

一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
一金二千圓　無限　宮田武治　茨城縣北相馬郡取手町取手甲千四十一番地
一金三千圓　有限　飯田鍵太郎　同縣同郡山王村岡四百九十二番地
一金一千五百圓　有限　大木茂吉　千葉縣匝瑳郡白濱村木戶五千百二十二番地
一金一千圓　有限　飯田左門　茨城縣北相馬郡山王村大間四百九十二番地
一金二百五十圓　有限　江澤謹一郎　千葉縣夷隅郡總元村部田三百九十七番地
一金二百五十圓　有限　鈴木三平　同縣東葛飾郡富勢村根戶五百八十二番地ノ內一
一存立時期　定メナシ
昭和十年九月十七日登記　龍ケ崎區裁判所取手出張所

◉株式會社茨城農工銀行支店設置(支店)
一昭和十年九月十三日左ノ地ニ支店ヲ設置ス
久慈郡太田町字西二東二千二百番地
昭和十年九月十六日登記　下妻區裁判所下館出張所

◉株式會社日本勸業銀行支店移轉(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四

◉株式會社安田銀行支店移轉(支店)
一昭和十年九月十五日東京市荒川區南千住町八丁目二十一番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　東京市荒川區南千住町八丁目二十一番地ノ一
一同日米澤市立町四千二百三十一番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　米澤市立町四千三百七番地
昭和十年九月十八日登記　宇都宮區裁判所

◉合資會社丸通縦山運送店變更
一社員小嶋ヒデハ昭和九年九月三日婚姻ニ因リ住所氏名ヲ鹽谷郡大宮村大字大宮一三六七番地森原ヒデト變更ス
一社員石川亮ハ昭和十年九月十日其責任ヲ無限トシ社員小嶋京造ハ其持分中金百圓ヲ森野源吉ニ讓渡シ出資額ヲ金百圓ト變更シ社員小嶋正雄ハ其持分中金九百圓ヲ森野源吉ニ讓渡出資額ヲ金一百圓ト變更ス森野源吉ハ之ヲ讓受左ノ通リ入社ス
金一千圓　有限　森野源吉　上都賀郡加蘇村大字加園一一九〇番地
昭和十年九月十六日登記　宇都宮區裁判所鹿沼出張所

◉烏山厚生株式會社
一取締役各和福次ハ昭和十年九月五日退任ス
昭和十年九月十八日登記　大田原區裁判所烏山出張所

◉株式會社安田銀行變更(支店)
一昭和十年九月十五日東京市荒川區南千住町八丁目二十一番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　東京市荒川區南千住町八丁目二十一番地ノ一
一同日米澤市立町四千二百三十一番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　米澤市立町四千三百七番地
昭和十年九月十八日登記　足利區裁判所

◉日本人造纖維株式會社變更
取締役遠藤完太郎ハ昭和十年九月十二日其住所ヲ左ノ地ニ移轉ス
前橋市岩神町千四十六番地
昭和十年九月十六日登記

◉株式會社日本勸業銀行變更(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
昭和十年九月十七日登記　前橋區裁判所

◉合資會社倉地機械店變更
一昭和十年九月十日總社員ノ同意ニ因リ無限責任社員倉地さかゑハ更ニ金千圓ヲ出資シ其ノ出資ノ總額ヲ左ノ通リ變更ス
出資ノ總額　二千圓
一同日總社員ノ同意ニ因リ有限責任社員柴山眞一ハ更ニ金千圓ヲ出資シ其ノ出資額ヲ左ノ通リ變更ス
出資ノ總額　二千圓
一同日總社員ノ同意ニ因リ左ノ者頭書ノ出資ヲ爲シ頭書ノ責任ヲ以テ入社ス
金五千圓　無限　澤端龜太郎　高崎市山田町四十八番地
昭和十年九月十七日登記　高崎區裁判所

◉昭德農事合名會社
一昭和十年九月十六日總社員ノ同意ニ因リ解散ス
昭和十年九月十六日登記　高崎區裁判所金古出張所

◉蒲原合同運送株式會社變更
一昭和十年九月十一日株式併合ニ因リ資本ノ總額ヲ金二万五千圓ニ減少シ一株ノ株金額ヲ拂込ミ濟株金額金五十圓ト變更ス
右昭和十年九月十六日登記　靜岡區裁判所蒲原出張所

◉株式會社佐東銀行清算結了
昭和十年一月二十七日清算結了ス
右昭和十年九月十六日登記　掛川區裁判所平田出張所

◉大成合資會社變更
一昭和十年八月三十一日有限責任社員阪本藤次郎死亡ニ依リ左記遺産相續人ハ其出資ニ對スル持分ヲ承繼シテ出資ノ種類及價格ヲ左ノ通リ變更ス
東山梨郡小佐手村第千六百九番建設一木造瓦葺二階建住家卸及戶障子疊其ノ他造作付一棟建坪六坪五合木造草葺平家建住家卸戶障子疊其他造作付一棟建坪十七坪五合木造瓦葺平家建門一棟建坪五坪木造草葺平家建物置一棟建坪三坪七合五勺木造草葺平家建物置一棟建坪十坪木造草葺平家建物置一棟建坪六坪戶四本障子二本疊六丈木造草葺平家建厠一棟建坪三坪此價格金五百圓
一金千圓　阪本文五良
右昭和十年九月十三日登記　甲府區裁判所勝沼出張所

◉株式會社八十二銀行支店設置(支店)
一昭和十年九月九日左ノ地ニ支店ヲ設置ス
支店　長野縣北佐久郡岩村田町大字岩村田七百六十二番地イ號
昭和十年九月十日登記　長野區裁判所稻荷山出張所

◉株式會社八十二銀行支店設置(支店)
昭和十年九月九日支店ヲ左ノ地ニ設置セリ
長野縣北佐久郡岩村田町大字岩村田七百六十二番地イ號
昭和十年九月十日登記

◉合資會社綿內製材所清算結了
一昭和十年九月九日清算結了ス

◉合資會社設立
一商號　合資會社綿內製材所
一本店　長野縣上高井郡綿內村八千七百六十番地
一目的　製材並ニ販賣及土木建築請負業
一設立年月日　昭和十年九月九日
一社員ノ氏名住所出資及責任
金二千圓　無限　田尻欣吉　長野縣上高井郡綿內村八千七百六十番地
金千五百圓　有限　駒津勝太　同縣同郡川田村大字川田千二百九番地
金三百圓　有限　田尻やを　同縣同郡綿內村八千七百六十番地
金二百圓　有限　臨崎菊之助　同縣同郡井上村大字井上二千十五番地一
一存立時期　設立ノ日ヨリ二十箇年
昭和十年九月十一日登記

◉丸正原角合資會社解散
一無限責任社員全員退社ニ因リ昭和十年九月二日解散ス

◉丸正原角合資會社清算人選任
一清算人ノ氏名住所　原田喜太郎　長野縣上高井郡須坂町大字須坂千三百十五番地
昭和十年九月十六日登記

◉合資會社富士屋呉服店解散
一總社員ノ同意ニ因リ昭和十年九月十一日解散ス
昭和十年九月十七日登記　長野區裁判所須坂出張所

◉株式會社八十二銀行支店設置(支店)
一昭和十年九月九日支店ヲ左ノ地ニ設置ス
支店　長野縣北佐久郡岩村田町大字岩村田七百六十二番地イ號
昭和十年九月十日登記　飯山區裁判所中野出張所

◉株式會社日本勸業銀行支店移轉(支店)
一昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
昭和十年九月十七日登記　栃木區裁判所

◉株式會社日本勸業銀行變更(支店)
昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
昭和十年九月十七日登記　松本區裁判所

◉株式會社日本勸業銀行變更(支店)
昭和十年九月十六日福井市佐佳枝中町三十五番地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　福井市佐佳枝上町百六十八番地ノ三十四
昭和十年九月十七日登記　木曾區裁判所

◉株式會社日本勸業銀行社債(支店)
一復わか換號
一社債ノ總額　金三十六万二千圓
一各社債ノ金額　金一千圓
一社債ノ利率　年四分八厘
一社債償還ノ方法及期限　每年五月十一月抽籤ヲ爲シ每回一千圓以上ヲ各其ノ翌月ニ償還シ昭和十七年九月一日迄ニ全額ヲ償還ス但シ買入消却ヲ爲スコトアルヘシ
一各社債ニ付拂込ミタル金額　全額

一復ほけ換號
一社債ノ總額　金五十五万四千圓
一各社債ノ金額　金一千圓
一社債ノ利率　年四分八厘
一社債償還ノ方法及期限　毎年五月十一月抽籤ヲ爲シ毎回一千圓以上ヲ各其ノ翌月ニ償還シ昭和十七年四月一日迄ニ全額ヲ償還ス但シ買入消却ヲ爲スコトアルヘシ
一各社債ニ付拂込ミタル金額　全額
右昭和十年九月十二日登記　上諏訪區裁判所

◉金丁合資會社解散
一總社員ノ同意ニ依リ昭和十年九月三日解散ス
昭和十年九月七日登記　飯田區裁判所

◉新潟鹽元賣捌合資會社變更
一昭和十年八月三十一日有限責任社員飯山輝吉ハ其出資持分ノ内金千圓ヲ無限責任社員田邊勝太郎ニ金四百圓ヲ有限責任社員高橋助七ヘ讓渡シテ退社シ之ヲ讓受ケタル田邊勝太郎高橋助七ハ各其出資ヲ左ノ如ク變更ス
金九千圓　無限　田邊勝太郎
金八千四百圓　有限　高橋助七
昭和十年九月十四日登記

◉株式會社日本勸業銀行移轉(支店)
昭和十年九月十六日福井市佐佐枝中町三十五番地ノ支店ヲ福井市佐佐枝上町百六十六番地ノ三十四ニ移轉ス
右昭和十年九月十七日登記

◉新潟丸八漬物製造株式會社變更
監査役小山三八ハ昭和十年九月二日死亡ス
昭和十年九月十六日登記　新潟區裁判所

◉新鹽元賣捌合資會社變更(支店)
昭和十年八月三十一日有限責任社員飯山輝吉ハ其出資持分ノ内金一千圓ヲ無限責任社員田邊勝太郎ニ金四百圓ヲ有限責任社員高橋助七ニ讓渡シテ退社シタルニ因リ各其出資ヲ左ノ如ク變更ス
金九千圓　無限　田邊勝太郎
金八千四百圓　有限　高橋助七
昭和十年九月十六日登記　新潟區裁判所巻出張所

◉新鹽潟元賣捌合資會社變更(支店)
一昭和十年八月三十一日有限責任社員飯山輝吉ハ其出資持分ノ内金一千圓ヲ無限責任社員田邊勝太郎ニ金四百圓ヲ有限責任社員高橋助七ヘ讓渡シテ退社シ之ヲ讓受ケタル田邊勝太郎高橋助七ハ各其出資ヲ左ノ如ク變更ス
一金九千圓　無限　田邊勝太郎
一金八千四百圓　有限　高橋助七
右昭和十年九月十六日登記　三條區裁判所

◉新潟鹽元賣捌合資會社變更(支店)
昭和十年八月三十一日有限責任社員飯山輝吉ハ其ノ出資持分ノ内金千圓ヲ無限責任社員田邊勝太郎ニ金四百圓ヲ有限責任社員高橋助七ヘ讓渡シ退社シ之ヲ讓受ケタル田邊勝太郎高橋助七ハ出資ヲ左ノ如ク變更ス
金九千圓也　無限　田邊勝太郎
金八千四百圓也　有限　高橋助七
右昭和十年九月十六日登記　新發田區裁判所津川出張所

◉合資會社米辰商店變更
昭和十年九月一日有限責任社員草間文雄ハ責任ヲ無限責任ト變更ス
同日代表社員小林辰亥ハ辭任シ草間文雄ハ代表社員ニ就任ス
同日無限責任社員小林辰亥ハ退社ス
昭和十年九月十四日登記　長岡區裁判所

◉新潟鹽元賣捌合資會社變更(支店)
一昭和十年八月三十一日有限責任社員飯山輝吉ハ其出資持分ノ内金一千圓ヲ無限責任社員田邊勝太郎ニ金四百圓ヲ有限責任社員高橋助七ヘ讓渡シテ退社シ之ヲ讓受ケタル田邊勝太郎高橋助七ハ各其出資ヲ左ノ如ク變更ス
一金九千圓　無限　田邊勝太郎
一金八千四百圓　有限　高橋助七
昭和十年九月十六日登記　長岡區裁判所寺泊出張所

◉中越鹽元賣捌合名會社變更
一昭和十年八月二十九日社員小林權松死亡ニ因リ其出資ニ對スル持分ヲ左記家督相續人承繼入社ス
小林權松　長岡市柳原町二百七十一番地丙
右昭和十年九月十日登記　柏崎區裁判所

◉株式會社青海軌道商會
一取締役渡邊友太郎ハ昭和十年九月八日死亡ス
昭和十年九月十七日登記　糸魚川區裁判所

◉羽吉濱漁業株式會社變更
一昭和十年九月十日目的ヲ左ノ如ク變更ス
目的
一定置漁業竝ニ沖合漁業ノ經營
二前項漁業ノ附帶事業
三漁獲物ノ加工竝ニ製造販賣
四製繩

◉昭興證券株式會社本店移轉
一昭和十年九月一日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
本店　佐渡郡兩津町大字夷二百十一番地五
昭和十年九月十四日登記　相川區裁判所兩津出張所

◉長岡グラウンド株式會社變更
一昭和十年八月三十日取締役筒井眞造ハ重任同日監査役中塚治平佐藤正雄ハ退任同日淺井欽治郎津田吉弘ハ各重任同日左記ノ者新任ス
竹原精一　神戸市湊川區編原町五百四十六番地ノ十六
右昭和十年九月十日登記　京都區裁判所向日出張所

◉合資會社中村治作商店變更
昭和十年九月十日總社員ノ同意ヲ得テ社員中其ノ出資額ヲ左ノ通リ變更
一金九万六千八百圓　無限責任　中村治作　京都府中郡峯山町字上十三番地
一金一万五百圓　有限責任　上田富藏　同府同郡同町字浪花三十三番地
一金二千圓　有限責任　吉岡善重郎　同府同郡同町字堺三十九番地
前同日總社員ノ同意ヲ得テ左ノ者新ニ入社
一金三千七百圓　有限責任　上田うね　京都府中郡峯山町字浪花三十三番地
右昭和十年九月十六日登記　峯山區裁判所

◉金屬印刷成績株式會社移轉
一昭和十年九月十一日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市西淀川區浦江南二丁目十九番地

◉大同商業株式會社變更
一左記ノ者昭和十年九月三日取締役ニ就任ス
武久逸郎　大阪市此花區大開町二丁目九番地

◉關西土地株式會社變更
一昭和八年十二月十四日登記シタル社債一部償還ニヨリ昭和十年九月九日社債總額ヲ金二十六万一千六百圓ト變更ス

◉大阪印刷インキ製造株式會社變更
一取締役西田寅之助ハ昭和十年八月三十一日其住所ヲ大阪市住吉區平野西之町百九十二番地ノ二ニ移轉ス

◉大阪建物土地株式會社變更
一取締役宮井末之ハ昭和十年八月三十一日重任ス

◉駒非商事株式會社變更
一左記ノ者昭和十年八月二十九日取締役ニ就任ス
荒井幸一　東京市本所區東駒形一丁目二十六番地

◉株式會社駒井本店變更
一左記ノ者昭和十年八月二十九日取締役ニ就任ス
志賀稽吉　大阪市住吉區帝塚山中一丁目七十八番地

◉大同商業株式會社變更
一昭和十年九月二日各新株拂込額ヲ金五十圓ト變更ス

◉株式會社高田鐵骨橋梁製作所變更
一昭和十年九月十日各株拂込額ヲ金五十圓ト變更ス

◉國際商事株式會社資本增加
一增加資本ノ總額　金二十万圓
一資本增加決議ノ年月日　昭和十年七月十八日
一各新株拂込額　金五十圓

◉合資會社昭和バンド商會解散
一無限責任社員上野瀧三郎死亡シ有限責任社員ノミトナリタルニ依リ昭和十年六月二十八日解散ス

◉合資會社大村商店解散
一總社員ノ同意ニ依リ昭和十年八月二十八日解散ス

◉合資會社大万食堂解散
一無限責任社員藤村嘉吉死亡シ有限責任社員ノミトナリタルニ依リ昭和十年七月二十六日解散ス

◉合資會社丸平材木店變更
一有限責任社員中谷爲吉ハ昭和十年八月二十五日持分全部ヲ無限責任社員横山勘一ニ讓渡シ退社シ讓受人ハ出資ヲ勞務及金二千圓ト變更ス
一有限責任社員平見辰一ハ同日持分一部ヲ左記ノ者ニ讓渡シ出資ヲ金一千圓ト變更シ讓受人ハ入社ス
金一千圓　有限　横山勘三郎　大阪市西成區長橋通四丁目二番地

◉合資會社西崎督之助商店變更
一有限責任社員鶴井俊雄ハ昭和十年九月十日持分全部ヲ無限責任社員西崎新太郎ニ讓渡シ退社シ讓受人ハ出資ヲ什器二十點商品七點此價格金二千百圓及金二千圓ト變更ス

◉合資會社吉田染工場變更
一無限責任社員吉田光二有限責任社員吉田一男ハ昭和十年九月一日各其住所ヲ大阪市旭區中宮町二百九十五番地ニ移轉ス

◉合資會社ヤマト商會變更
一無限責任社員福田一美ハ昭和十年九月十日持分全部ヲ有限責任社員貝田功次郎ニ讓渡シ退社シ讓受人ハ出資ヲ金二千圓ト責任ヲ無限ト變更ス

◉合資會社大東商店移轉及變更
一昭和十年九月一日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市大正區小林町三十九番地
一有限責任社員水田菊松ハ同日持分全部ヲ左記西谷桂太郎ニ同大東貫ハ同日持分一部ヲ左記大東岩太郎ニ各讓渡シ退社シ讓受人ハ入社ス

金一千五百圓　有限　西谷桂太郎　奈良縣添上郡五ヶ谷村大字米谷八百七十四番地
金一百圓　同　大東岩太郎　大阪市大正區小林町三十九番地
一有限責任社員横尾滿ハ同日退社ス
一無限責任社員大東健治ハ同日其住所ヲ大阪市大正區小林町三十九番地大東岩太郎方ニ移轉ス

◉合資會社小川月舟寫眞場變更
一無限責任社員小川泰三郎ハ昭和十年九月一日更ニ金三千五百圓ヲ出資シ出資ヲ勞務及信用竝ニ金三千五百圓ト變更ス

◉合資會社設立
一商號　合資會社強力ヤ大嵩商店
一本店　大阪市東成區猪飼野中四丁目三番地
一目的　一日用品雜貨製造販賣及仲介(但シ官廳ノ許可ヲ要スルモノヲ除ク)一食料品ノ製造販賣仲介(但シ官廳ノ許可ヲ要スルモノヲ除ク)一被服裝身具履物製造販賣竝ニ仲介一ゴム製品及革製品一般ノ製造販賣及仲介一寢褥用品ノ販賣竝ニ仲介一セメント及建築用品ノ販賣及仲介
一設立年月日　昭和十年九月一日
一社員ノ氏名住所出資及責任
金一千五百圓　無限　大嵩源一　大阪市東成區猪飼野中四丁目三番地
金五百圓　有限　大嵩長太郎　東京市瀧野川區瀧野川町三千二十番地
金五百圓　同　大嵩房枝　大阪市東成區猪飼野中四丁目三番地
金一千圓　同　大嵩静江　同所

◉合資會社設立
一商號　合資會社ムラタヤ洋服店
一本店　大阪市東區谷町五丁目二十八番地
一目的　一各種洋服類ノ販賣竝ニ加工二右ニ附帶ノ業務一切
一設立年月日　昭和十年九月二日
一社員ノ氏名住所出資及責任
勞務　無限　村田金太郎　大阪市東區谷町五丁目二十八番地
金九百圓　有限　山口守男　同所
金二千圓　同　石田京三　同所
金二千一百圓　同　村田逸治　同市西成區東入船町十六番地
一存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

◉合資會社設立
一商號　合資會社一力鍍金所
一本店　大阪市大正區泉尾中通一丁目五十八番地
一目的　一亞鉛鍍金竝ニ之レニ附帶スル一切ノ業務
一設立年月日　昭和十年九月七日
一社員ノ氏名住所出資及責任
金一千圓　無限　近藤藤緒　大阪市港區市岡元町一丁目三十番地
金一千圓　有限　直井駒吉　同市大正區泉尾上通一丁目六十二番地
金一千圓　同　濱口嘉章　同所三十七番地
一存立時期　設立ノ日ヨリ向フ十箇年間

◉合資會社設立
一商號　合資會社平井商店伸鐵部
一本店　大阪市港區出崎町二丁目十六番地
一目的　一鐵材ノ販賣及鋼材ノ製造販賣竝之ニ附帶スル業務一切
一設立年月日　昭和十年九月六日
一社員ノ氏名住所出資及責任
金一万五千圓　無限　平井力太郎　大阪市港區七條通一丁目一番地
金一万圓　有限　平井信清　同區北境川町三丁目三番地
金二千圓　同　小林波太郎　同所
金二千圓　同　松田兆　同區桂町二丁目三十一番地ノ二
金一千圓　同　三藤洋吉　同區八幡屋新道三百三十四番地
一存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

◉合名會社山堅商店移轉
一昭和十年八月二十九日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市東區本町四丁目十五番地

◉合名會社內田商店移轉
一昭和十年八月三十日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市住吉區天王寺町三千四百六十三番地

◉合名會社和田保商會變更
一社員前田一郎前田友二ハ昭和十年九月十日退社ス
一社員和田保一郎ハ同日持分一部ヲ左記ノ者ニ讓渡シ出資ヲ金十万圓ト變更シ讓受人ハ入社ス
金五万圓　和田てる　大阪市東區備後町一丁目九番地

◉合名會社三井商會變更
一社員三井楠太郎ハ昭和十年九月一日更ニ金一万五千圓ヲ出資シ出資ヲ金三万圓ト同三井三治郎ハ同日更ニ金一万圓ヲ出資シ出資ヲ金二万圓ト同三井惣五郎ハ同日更ニ金一万圓ヲ出資シ出資ヲ金二万圓ト同三井市松ハ同日更ニ金一万圓ヲ出資シ出資ヲ金二万圓ト同三井末春ハ同日更ニ金五千圓ヲ出資シ出資ヲ金一万圓ト各變更ス

◉支配人選任
一支配人ノ氏名住所　眞田春男　堺市北翁橋町一丁目四十四番地
一主人ノ氏名住所　大阪中央ゴム株式會社　大阪市此花區下福島三丁目三十八番地
一支配人ヲ置キタル場所　大阪市此花區下福島三丁目三十八番地
右昭和十年九月十一日登記

◉大阪興業株式會社清算
一昭和十年九月五日清算結了

◉第一相互住宅株式會社變更
一會社ヲ代表スヘキ取締役タル取締役小倉良之助取締役江上龜雄國藤武飯田雅治助野俊三ハ昭和九年十月三十日辭任シ左記ノ者同日取締役ニ就任ス
小倉良之助　京都市左京區下鴨芝本町四十五番地
江上龜雄　大阪府中河内郡小阪町大字下小阪二番地
瀨岡竹五郎　同町大字中小阪四百九十八番地
一監査役馬場啓ハ同日辭任シ左記ノ者同日監査役ニ就任ス
馬場啓　京都市上京區大將軍鷹司町二十四番地ノ四
上田治　大阪府三島郡茨木町大字茨木千二百九十五番地

◉株式會社堂島ビルヂング變更
一取締役橋本喜造ハ昭和十年九月二日其住所ヲ神戸市神戸區山本通四丁目百三十一番地ニ移轉ス

◉株式會社雲仙觀光ホテル變更
一取締役橋本喜造ハ昭和十年九月二日其住所ヲ神戸市神戸區山本通四丁目百三十一番地ニ移轉ス

◉株式會社曾我商店變更
一昭和十年八月七日目的ヲ左ノ如ク變更ス
目的　一藥品販賣營業毒物劇物營業工業藥品ノ製造及販賣竝ニ之ニ附帶スル一切ノ業務　一綿絲布綿製品其他雜貨類ノ取扱

◉聚文堂株式會社移轉及變更
一昭和十年九月十日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市西淀川區野里町五百五十五番地
一同日目的ヲ左ノ如ク變更ス
目的　一海外貿易業　一紙印刷取次販賣一各項附帶事業一切

◉株式會社中井商店變更(支店)
一昭和十年九月三日名古屋市中區新柳町六丁目五番地ノ二ノ支店ヲ同市西區小島町百十五番地ニ移轉ス

◉淺野物產株式會社資本增加
一增加資本ノ總額　金二百万圓
一資本增加決議ノ年月日　昭和十年八月十四日
一各新株拂込額　金五十圓

◉合資會社東尾組移轉
一昭和十年九月五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
堺市出島町六百三番地ノ十六

◉合資會社新興タクシ移轉
一昭和十年九月十日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市東成區林寺新家町百七十七番地

◉合資會社秀工舍移轉
一昭和十年九月七日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
大阪市東成區中川町五百九十二番地

◉合資會社久保田米穀店變更
一有限責任社員大田卯市ハ昭和十年九月一日更ニ金一千圓ヲ出資シ出資ヲ金二千圓ト變更ス

◉合資會社日之出屋商店清算人選任
一左記ノ者昭和十年九月十一日清算人ニ就任ス
大谷龍太郎　大阪市浪速區惠美須町一丁目一番地

◉合資會社設立
一商號　合資會社東亞地誌協會出版部
一本店　大阪市西區江戸堀下通四丁目十五番地
一目的　鳥瞰式立體地圖ノ製作竝ニ販賣二內外出版事業三一般商品委託販賣及代理行爲但シ許可ヲ要スル商品ヲ除ク
一設立年月日　昭和十年九月十二日
一代表社員　井上金三郎
一社員ノ氏名住所出資及責任
金八千圓　有限　左手右一　大阪市西區江戸堀下通四丁目十五番地
金一千圓　同　進藤嘉一郎　同市住吉區昭和町東之町二丁目十一番地
金一百圓　同　北野勝郎　同區天王寺町二千九百七十四番地
金六百圓　無限　玉井米次郎　同所三千二百三十八番地
金三百圓　同　井上金三郎　同所二千六百九十三番地

◉合資會社設立
一商號　合資會社岡田商店
一本店　大阪市東淀川區中津南通三丁目八十七番地
一目的　金屬屑類ノ仕譯竝ニ洗滌業
一設立年月日　昭和十年九月一日
一社員ノ氏名住所出資及責任
金一千圓及家具什器十九點此價格金五百圓　無限　岡田藤治郎　大阪市東淀川區中津南通三丁目八十七番地
金一千圓　有限　岡田喜三郎　同所
金一千圓及家具十三點此價格金五百圓　同　岡田建吉　同所六十三番地
右昭和十年九月十二日登記　大阪區裁判所

第2649号　本文

◎相續財産管理人選任

最後ノ住所横濱市中區山手町三十二番地甲ノ二貿易商 英國人 亡 チャールス、ダウン

西暦千八百八十一年九月二十五日横濱市ニ於テ出生

昭和十年七月四日最後ノ住所地ニ於テ死亡横濱市中區山手町三十二番地甲ノ二英國人ケーテ、ダウン同所同番地同國人エドワード、ダウンノ申請ニ因リ被相續人亡チャールス、ダウンノ相續財産管理人ニ前記申請人兩名ヲ選任ス

昭和十年十月十五日 横濱區裁判所

最後ノ住所佐世保市福石免千六百番地平民無職 被相續人 松山シツエ

明治四年十二月三日佐賀縣小城郡小城町ニ於テ出生

昭和十年八月二十七日佐世保市福石免千六百番地ニ於テ死亡

佐世保市元町二十五番地 南里權一ノ申請ニ因リ佐世保市福石免千六百番地坂本庄平ヲ右相續財産管理人ニ選任シタリ

昭和十年十月十四日 佐世保區裁判所

最後ノ住所佐世保市太田町一番地平民無職 被相續人 前山 徳一

明治十四年二月二日佐賀縣西松浦郡有田町千五百四十一番地ニ於テ出生

昭和十年五月十五日佐世保市太田町一番地ニ於テ死亡

西松浦郡有田町六百六十八番地 株式會社有田銀行ノ申請ニ因リ佐世保市熊野町 四番地永野清三郎ヲ右相續財産管理人ニ選任シタリ

昭和十年十月十六日 佐世保區裁判所

◎禁治産宣告

本籍及住所徳島縣名東郡北井上村西黒田字西傍示八十七番地 美馬 雅顯

明治四十年四月一日生

右者ニ對シ同居ノ父美馬康夫ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十年十月十六日 禁治産ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年十月二十一日 徳島區裁判所

◎準禁治産宣告

本籍及住所山梨縣南都留郡瑞穂村下吉田八百二十番地鑛力職 渡邊 保治

明治三十三年八月十五日生

右ニ對シ妻渡邊せらノ申立ニ因リ昭和十年十月十六日準禁治産ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年十月十六日 谷村區裁判所

本籍並ニ住所泉南郡佐野町四千六百六十六番地 道下喜一郎

明治十七年五月十一日生

右ニ對シ實母道下鹿ノ申立ニ因リ當裁判所ハ昭和十年十月十八日準禁治産ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年十月十八日 岸和田區裁判所

本籍徳島縣名東郡佐那河内村上字大円原八十七番地

當時同縣同郡加茂名町庄山ロス エ子方 長江 正一

明治三十九年七月三十一日生

右者ニ對シ徳島縣名西郡神領村 大埜地二十四番地清水延吉ノ申立ニ因リ當裁判所ハ昭和十年十月十二日準禁治産ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年十月十八日 徳島區裁判所

本籍並ニ住居愛知縣碧海郡安城町大字安城七十九番戸 山口 嘉三

明治四十年十月二十九日生

右者ニ對シ實父山口竹三郎ノ申立ニヨリ當裁判所ハ昭和十年十月十二日 浪費者ト認メ準禁治産ヲ宣告ス

昭和十年十月十九日 岡崎區裁判所

◎準禁治産宣告取消

本籍並ニ住所京都市伏見區深草直違橋九丁目百九十四番地 阪本巳之助

明治二十六年二月二日生

右ノ者ニ對シ大正八年三月十五日 當裁判所ノ爲シタル準禁治産宣告ハ本人ノ申立ニ因リ 昭和十年十月二十一日之ヲ取消シタリ

昭和十年十月二十二日 京都區裁判所

本籍並住所大阪市西區梅本町四十二番地 森田 彌市

明治四十四年十二月十日生

右者ニ對シ昭和九年六月二十一日 當裁判所ノ宣告シタル準禁治産ハ右者ノ 實姉森田カテノ申立ニ因リ昭和十年十月十六日之ヲ取消シタリ

昭和十年十月二十二日 大阪區裁判所

本籍及住所鹿兒島縣肝屬郡牛根村麓八十四番戸 久富木俵右衛門

明治十五年一月三日生

右ニ對シ大正元年九月五日 當裁判所ノ爲シタル準禁治産宣告ハ 本人ノ申立ニ因リ昭和十年十月十五日之ヲ取消シタリ

昭和十年十月十八日 鹿屋區裁判所

◎公示催告

昭和十年(ヘ)第三二號

徳島縣美馬郡一宇村字明谷三千二百四十六番地 申立人 大森 筆藏

別紙目錄記載ノ債券ニ付キ 前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ 其所持人ハ昭和十一年六月九日午前十時迄ニ當區裁判所ニ 權利ヲ屆出テ且ツ右債券ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及ヒ提出ヲ爲サヽルニ於テハ 其無效ヲ宣言スルコトアル可シ

昭和十年十月八日 東京區裁判所 判事 長澤潔

(別紙)

目錄

一株式會社日本勸業銀行發行勸業債券 六十八通

第六十三回	二ノ組	第七二〇〇〇番	大正二十六年一月以降利札附
第三十二回	一ノ組	第五三三一九番	明治七十年二月同
第六十四回	四ノ組	第七〇〇四三番	大正二十六年三月同
第七十四回	八ノ組	第二七〇三七番	同上
第八十七回	一ノ組	第三三六四九番	同上
同	二ノ組	第三三七四七番	同上
第四十九回	三ノ組	第四五二三七番	同年四月同
第三十五回	同	第五一七五四番	明治七十年五月同
同	一ノ組	第六一三七九番	同上
第四十四回	二ノ組	第一七七〇三番	大正二十六年六月同
同	同	第二二〇〇一番	同上
同	同	第五二一七五番	同上
同	三ノ組	第二九〇九三番	同上
同	同	第七三〇二三番	同上
同	同	第七三〇二六番	同上
同	同	第九八一八二番	同上
同	同	第九八八九二番	同上
第七十五回	十ノ組	第四〇一三一番	同上
第五十五回	一ノ組	第五一九三六番	同年七月同
同	同	第七二四八〇番	同上
同	同	第七四二七八番	同上
同	三ノ組	第六三八四九番	同上
第五十八回	同	第三六五三一番	同年八月同
同	同	第四六〇五〇番	同上
同	同	第四八四三四番	同上
同	同	第六九六八六番	同上
同	一ノ組	第七五二二一番	同上
同	同	第九六六四一番	同上
同	四ノ組	第八二六〇五番	同上
第二十六回	二ノ組	第八四〇〇番	明治七十年九月同
同	一ノ組	第二二一二二番	同上
同	同	第七一〇六九番	同上
同	同	第七一〇六七番	同上
第三十回	二ノ組	第一三六八八番	同上
同	同	第四四四四〇番	同上
同	同	第五七〇〇〇番	同上
同	同	第五九一六三番	同上
同	一ノ組	第四四五五〇番	同上
同	同	第五一五一四番	同上
第四十七回	三ノ組	第三〇六三二番	大正二十六年九月同
同	同	第四六〇八七番	同上
同	同	第九六五四二番	同上
第五十二回	二ノ組	第五九四三三番	同年十月同
同	同	第七〇九七〇番	同上
同	同	第七一四一二番	同上
第六十五回	五ノ組	第八六九番	同上
同	同	第三四五四六番	同上
同	同	第三四五四七番	同上
同	同	第四六六三八番	同上
同	同	第八七二三五番	同上
同	二ノ組	第一〇八四七番	同上
同	同	第三〇六〇二番	同上
同	同	第六一八九九番	同上
同	同	第七九六四八番	同上
同	三ノ組	第六八九二八番	同上
同	同	第六八九三二番	同上
同	四ノ組	第八八九〇四番	同上
同	同	第八八九一〇番	同上
第六十九回	三ノ組	第七八三四九番	同上
第三十一回	一ノ組	第一四二七三番	明治七十年十二月同
同	同	第一四二七四番	同上
第三十七回	四ノ組	第三二〇九番	同上
同	二ノ組	第一三七二七番	同上
同	同	第一五二一四番	同上
同	同	第一五二一五番	同上
同	一ノ組	第五一〇六七番	同上
同	同	第五一〇六九番	同上

同	同	第五一九七九番	同上

一同上發行復興貯蓄債券 六通

第三回	一ノ組	第二三三三〇番
同	同	第二八三四八番
第六回	六ノ組	第七四八五七番
第七回	十五ノ組	第七四九二二番
第十回	八ノ組	第三五二八三番
同	同	第九四七六三番

一同上發行割引勸業債券 一通

第二回	三ノ組	第八七四〇四番

福岡市上新川端町六十九番地 申立人 水上 新一

證書ノ重要ナル旨趣

一小切手 一通 第一二九八號
一額面 金四百五十三圓八錢
一支拂人 株式會社三和銀行福岡支店
一受取人 水上新一
一振出年月日 昭和十年五月二十七日
一支拂地 福岡市

前記申立人ハ右小切手ニ付公示催告ノ申立ヲ爲シタルニ因リ其所持人ハ昭和十一年六月十八日午前十時ノ公示催告期日迄ニ當區裁判所ニ權利ヲ屆出テ且證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及提出ヲ爲サヽルトキハ前記小切手ノ無效ヲ宣言スヘシ

昭和十年十月十八日 福岡區裁判所

◎失踪ニ關スル屆出ノ催告

本籍並最後ノ住所茨城縣稻敷郡龍ケ崎町五百三十二番屋敷 不在者 宮本 明

明治二十四年四月二十日生

右不在者ニ對シ利害關係人岡田省吾ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十一年五月十六日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年十月十六日 龍ケ崎區裁判所

本籍並ニ最後ノ住所茨城縣稻敷郡龍ケ崎町五百三十二番屋敷 不在者 宮本 定之

明治三十二年四月十七日生

右不在者ニ對シ利害關係人岡田省吾ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十一年五月十六日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年十月十六日 龍ケ崎區裁判所

◎小破産宣告

神戸市神戸區海岸通二丁目十三番地 破産者 潘 江潤

右之者ニ對スル大正十五年(メ)第一四七及第一六六號破産事件ニ付昭和二年二月一日午前十時破産ノ宣告ヲ爲シタル處其手續中該破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一万圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルニ因リ當裁判所ハ破産法第三百五十九條第一項ニ依リ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件ヲ小破産トス

右公告ス

昭和十年十月二十五日 神戸區裁判所 判事 朝山二郎

◎破産管財人變更

元株式會社共榮貯金銀行
破産者 昭和産業土地株式會社

右之者ニ對スル昭和九年(ツ)第二九六號破産事件ニ付破産管財人眞野毅同吉岡秀四郎ハ破産管財人辭任ノ申立ヲ爲シタリ當裁判所ハ該申立ヲ適當ト認メ辭任ヲ許可シ左記ノ者ヲ破産管財人ニ選任ス

東京市麴町區内幸町一丁目七番地幸ビルディング五階 尾高 武治
東京市麴町區丸ノ内三丁目六番地仲四號館 三輪 壽壯

昭和十年十月二十五日 東京區裁判所 判事 安倍恕

新潟縣岩船郡山邊里村大字山邊里九百九十二番地 破産者 稻葉武治郎

右ニ對スル昭和七年(ツ)第一號破産事件ニ付破産管財人新保新ヲ解任シ左記ノ者ニ變更ス

破産管財人
新潟縣北蒲原郡新發田町字三ノ丸 辯護士 件純
同縣同郡同町同字二百六十一番地 辯護士 荒井重與

昭和十年十月二十五日 新發田區裁判所

◎債權者集會期日變更

大正十一年(テ)第二一號佐藤伊勢四郎破産事件ニ付債權者集會ノ期日ヲ昭和十年十一月二十九日午前十時ニ變更ス

昭和十年十月二十五日 福岡地方裁判所小倉支部

◎和議手續開始

神奈川縣中郡吾妻村二宮二百二十二番地 債務者 市川佐太郎

右ノ者ニ對スル昭和十年(和)第二號和議申立事件ニ付當裁判所ハ本日午前十時和議手續開始決定ヲ爲シタルニ因リ公告スルコト左ノ如シ

一、債務者市川佐太郎ニ對シ和議手續ヲ開始ス
二、管財人 横濱市中區住吉町二丁目十七番地 辯護士 兒玉正五郎
三、債權屆出期間 昭和十年十一月十五日迄
債權者集會ノ期日 昭和十年十一月二十九日午後一時

昭和十年十月二十五日 横濱區裁判所

◎行旅死亡人

本籍地氏名不詳男一人推定年齢二十四五歳位相貌其他本人ノ認識ニ必要ナル事項身長五尺三寸位肉色稍白色頭髪丸刈顔面圓形中肉目口鼻等ハ水垢附著ノタメ形狀瞭ナラス著衣及所持品又ハ遺留品木綿千筋ワイシヤツ黑莫大小水泳著白猿股黑セルノ學生服ヲ若シ記章ナキ學生帽黑セルロイド縁眼鏡金十一錢其他ナシ

右本村大字南小松所謂近江舞子濱ニ建設シアル太湖汽船株式會社ノ經營ニ係ル棧橋附近ニ屍體漂著ニ付心當リノ者ハ申出ツヘシ

昭和十年十月十五日 滋賀縣滋賀郡小松村役場

◎日本銀行週報

◎兌換銀行券發行高毎週平均高報告(自昭和十年十月二十日至昭和十年十月二十六日)

			円
發行兌換銀行券			一、二五九、一七三、九八二・〇〇〇
準備	金貨及金地金		四九四、八〇四、五九三・〇〇〇
保證	公債		二二三、九四五、二七三・〇〇〇
	政府證券		一〇〇、四四三、六〇六・〇〇〇
	證券		一七一、四〇八、一五九・〇〇〇
	手形		二六八、五七二、三五一・〇〇〇
合計			七六四、三六九、三八九・〇〇〇

◎營業毎週報告(昭和十年十月二十六日)

負債ノ部

		円
資本金		六〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
積立金及損益金		一三三、七〇九、〇九六・一〇九
發行兌換銀行券		一、二九四、五八四、九二四・〇〇〇
政府預金	政府當座預金	二九四、六三四、三八一・一二〇
	其他	一二一、七七八、五六三・〇五五
	計	四一六、四一二、九四四・一七五
一般預金		六四、五〇七、八七五・五二〇
小額紙幣準備寄託金		一一、一六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		一〇六、一一一、三一三・八九七
總計		二、〇八六、四八六、一五三・七〇一

資産ノ部

拂込未濟資本金		一五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
現金及地金	金貨及金地金	四九五、〇二七、九三七・八六〇
	其他	四六、二一九、六八二・八四〇
	計	五四一、二四七、六二〇・七〇〇
割引手形		六五三、二八九、六三一・七九〇
政府法定貸金		二二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
政府一時貸金		八四、二一五、八四八・一七〇
貸付金		三四、七九九、六四七・八二〇
外國爲替貸金		一四六、三一九、一七〇・二〇〇
公債		四五一、八四〇、四四一・〇八〇
代理店勘定		九〇、三八一、三五八・二五六
政府勘定特殊現金		一三、一四二、〇七二・七六六
小額紙幣準備保管金		一一、一六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		二三、〇九〇、三六二・九一九
總計		二、〇八六、四八六、一五三・七〇一

昭和十年十月二十九日 日本銀行

◎外國郵便物東京中央郵便局締切日時表

通常 普通 月日時	通常 書留 月日時	小包 月日時	郵便船出帆港	船名
◎南支那、香港、フィリピン群島、海峽殖民地、英領印度等行				
一〇、三一前九	一〇、三一前八半	—	門司	對馬丸
同三一後七半	同三一後七	—	神戸	プレシデント、ポーク號
同三一後七半	同三一後七	—	同	タルマ號
一一、一前九	一一、一前八半	—	門司	伏見丸
同 五前九	同 五前八半	—	神戸	プレシデント、ピアス號
◎米國、加奈陀、南米等行				
一〇、三一前一〇、四五	一〇、三一前一〇、一五	—	横濱	トライカラー號
◎加奈陀、米國、南米等行				
同三一後七半	同三一後七	—	同	タルシピアス號
一一、二後三、一〇	一一、二後一、五〇	一一、二前一〇、一五	同	プレシデント、マツキンレイ號

第2649号 本文

株式會社淺野造船所第壹回物上擔保附い號社債募集公告

今回當會社第壹回物上擔保附社債總額壹千貳百五拾萬圓ノ內い號社債左記要項ニ依リ募集致候間此段公告候也

昭和拾年拾月

橫濱市鶴見區末廣町貳丁目壹番地

株式會社淺野造船所

一、委託會社　株式會社淺野造船所
一、受託會社　株式會社安田銀行
一、社債總額　壹千貳百五拾萬圓
一、發行方法　數回ニ分チ發行ス
一、今回發行スヘキ金額　い號社債五百萬圓
一、各社債ノ金額　壹百圓、五百圓、壹千圓、五千圓及壹萬圓ノ五種無記名式利札附
一、發行價額　額面壹百圓ニ付金壹百圓
一、利率　年四分五厘
一、償還ノ方法及期限　昭和拾貳年拾壹月五日迄据置キ昭和拾參年五月五日ヲ第壹回トシテ其後毎半年利拂期日ニ金貳拾萬圓以上ヲ償還又ハ買入銷却シ昭和拾八年拾壹月五日迄ニ殘額全部ヲ償還又ハ買入銷却スルモノトス此場合ニ於テ償還又ハ買入銷却スヘキ日カ銀行休業日ニ當ルトキハ其前日ニ之ヲ繰上ク、昭和拾貳年拾壹月六日以降ハ何時ニテモ其一部又ハ全部ノ繰上償還ヲ爲スコトヲ得、一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル、買入銷却ハ据置期限ノ前後ニ拘ラス何時ニテモ任意ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
一、利息支拂ノ方法及期限　發行日ノ翌日ヨリ償還期日迄之ヲ附シ毎年五月五日及拾壹月五日ニ各其日迄ノ前半箇年分ヲ利札ト引換ニ支拂フモノトス但償還ノ場合ニ於テ半箇年ニ滿タサル利息ヲ支拂フトキハ其半箇年間ノ日割ヲ以テ計算ス、償還期日後ハ利息ヲ附セス
一、元利金支拂場所　株式會社安田銀行ノ本店、橫濱支店、名古屋支店、大阪支店、京都支店、岡山支店及福岡支店
一、信託證書ノ表示　昭和拾年拾月貳拾六日附信託證書
一、擔保　委託會社所有橫濱區裁判所川崎出張所登記第貳拾九號工場財團ノ上ニ順位第壹番ノ抵當權ヲ設定セリ
一、擔保ノ價格ニ關スル調査報告　受託會社ノ査定ニ依レハ前記工場財團ハ本社債總額ノ元利金ヲ擔保スルニ足ル價格ヲ有スルモノト認メラル
一、未償還社債　無シ
一、資本金　壹千貳百五拾萬圓（全額拂込濟）（昭和拾年六月參拾日現在）
一、現存財產　壹千六百四拾六萬五千四百五拾九圓貳拾壹錢（債務一切控除額）（昭和拾年六月參拾日現在）
一、信託證書閲覽場所　委託會社及受託會社ノ本支店ニ於テ毎日營業時間中閲覽ニ供ス
一、申込期日及時間　昭和拾年拾月貳拾九日ヨリ同月參拾壹日迄但期間中ト雖モ締切ルコトアルヘシ
一、申込證據金　額面壹百圓ニ付金參圓（募入ノ上ハ拂込金ニ振替フ）
一、募入方法　應募超過ノ場合ハ適宜募入額ヲ定ム
一、拂込期日　昭和拾年拾壹月五日

右擔保附社債信託法第貳拾貳條第參項ニ依リ承認候也

昭和拾年拾月

受託會社　株式會社安田銀行

東京市九段下
アキバ徽章商會
カタログ進呈

日本テント
日本テント商會
大阪南安治川二（源ベイ停留前）
電話西六九二番

第二回い號社債償還當籤公告

當社第二回い號物上擔保附社債第一次償還額を金八拾萬圓とし抽籤に依り下記番號債券當籤來る十一月十五日償還に付き同日より券面記載の支拂取扱所に於て同日以降渡利札附屬の債券と引換に元利金御受取を願ひます

昭和十年十月卅日　**日本電力株式會社**

壹百圓券（70枚）
1−5
211−215
356−360
441−445
606−610
901−905
976−980
1076−1080
1106−1115
1401−1410
1481−1490

五百圓券（34枚）
1−3
127−129
214−216
265−267
364−366
541−543
586−588
646−648
664−669
781−782
797−798

壹千圓券（126枚）
1−8
337−344
569−576
705−712
969−976
1441−1448
1561−1568
1721−1728
1769−1784
2121−2128
2185−2192
2231−2240
2831−2840
3161−3170
861−864
885−892
1031−1032
1047−1048
1057−1058
1177−1178
1243−1244

五千圓券（50枚）
1−4
169−172
285−288
353−356
485−488
721−724
781−784

壹萬圓券（40枚）
1−2
85−86
143−144
177−178
243−244
361−362
391−392
431−432
443−446
546−548
570−572
585−587
765−767
864−866
916−920

資本金　壹千萬圓
諸積立金　參百七拾七萬圓
火災、海上、運送各保險
代理店　內外國　三千餘

東京市京橋區京橋二丁目二番地
千代田火災保險株式會社
電話京橋(56)五三二四番・五三二五番・五三二六番

取締役社長　門野幾之進
取締役伯爵　樺山愛輔
取締役　松原重榮
取締役男爵　益田太郎
取締役　成瀨正行
取締役　近樵內
取締役　角利一
取締役男爵　岩倉道俱
監査役　赤星鐵馬
監査役　福澤大四郎
監査役　山名次郎

支店
大阪　東區今橋二ノ一九（電話本局五九五〇番）
京都　中京區烏丸通六角下ル（電話本局七一七八番）
橫濱　中區辨天通六ノ八一（電話本局二三一二番）
神戸　神戸區榮町通二ノ四〇（電話三宮二七九番）
名古屋　中區南大津町一ノ一〇（電話中五〇二番）
仙臺　大町二ノ一四八（電話七九八番）
福岡　橋口町四六（電話二三三五番）
札幌　大通西六ノ一〇（電話一三五二番）
京城　南大門通二ノ一〇（電話二二二九番）

定價　一ヶ月九十五錢　一部五錢　一ヶ月一圓八十錢（外國郵便ニ依ル地域）各送料共
廣告料　本公告　八ポイント一行三十錢　九ポイント五錢增
一般廣告　八ポイント一行十四字詰二十五錢
發行所　東京市麴町區大手町　內閣印刷局
電話丸ノ內(23)二一九〇　振替東京一九〇（官報課）

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

付録

雜報

ドイツの爲替管理一箇年の回顧

外務省通商局

▼現金支拂の制限　ドイツ中央銀行の金ならびに爲替準備が僅々數箇月間に四億マークより七千六百万マークに消滅したゝめ、種々の替爲許可の制限を設けたのにかゝはらず、準備金の消失は依然止まらない實情に鑑み、中央銀行が爲替日別許可の制度を採用して以來既に一箇年を經過した。

爲替日別許可の非常手段につぎ、ドイツ政府は一九三四年九月にいたり、貿易ならびに爲替統制に關する新計畫を實施するにいたつた。右計畫の內容は今日既に世界の常識にして、こゝに詳述の要はないが、要は二十五箇所の商品管理所を設置し、外國商品の輸入をドイツ品の輸出程度に順應せしめ、爲替の移動を爲替出入の原因たる對外取引において管理するのにあつた。その結果客年巨額の輸入超過を見たドイツ對外貿易は、一九三五年度に入り漸次調整せられ、最近數箇月においては、大體均衡狀態を回復し、本年度上半期の貿易も必要原料の輸入を惜まざりしにかゝはらず、その入超額は一億六千五百万マークに止つた。中央銀行最近の帳尻を見るに、その金ならびに爲替準備は八千九百万マークであつて、客年度の最低額に比し約千三百万マークの增加を示した。

しかしながら、右金額といへども通貨準備として定められた役割を演ずるべく、あまりに少額なるはこゝに說明の要がない。そも〳〵中央銀行の帳尻に現はれた爲替の動向は、ドイツ爲替狀態全般よりみるときは、單に一小部分を反映するに止まり、貿易取引の大部分は各種の淸算口座を通じて行はるゝにより、純粹の爲替取引は極めて末梢的役割を演ずるのに過ぎない。その適例として本年五月のドイツ對スイスの取引を見るに、スイス側がドイツ側に對して拂込たる金額二千八百五十万スイスフラン中、ドイツ中央銀行が現金にて受取つた金額は僅に四百二十万スイスフランであつて、殘額は全部輸入スイス商品、旅行者關係支拂、資本取引關係等のために淸算され、前記現金受取額もその一部は支拂中止債務の利子として拂戻された次第である。

淸算協定が協定兩國にとり、堪えがたい不利をもたらしつゝあるは、今日廣く各國の認めるところであつて、淸算協定の形式を大いに緩和せる一九三四年十一月締結の、獨英協定が意外の好成績を收めた事實にもかゝはらず、淸算協定よりの轉向または獨英協定の例にならつた新協定の締結は、今日までのところ單にドイツならびにベルギー間に實現せるに過ぎず、その他諸國との淸算協定緩和は、協定國相互の主張に大なる開きがあるため、容易に進捗の形勢がない狀態である。

▼商品代金未拂により生ぜる負債　獨英協定は種々の特徵を有せるも、債務者ならびに債權者に執り、等しく厄介であつたドイツ側の商品支拂未濟額の問題を、合理的解決に導き得た點は、同協定がもたらした最大の利得であつて、右支拂未濟額は本年十一月までに逐次整理される筈である。また英蘭銀行は右支拂未濟額整理の目的をもつて、ドイツ中央銀行に對し七十五万ポンドのクレディットを與へた。また商品支拂未濟額の濟崩に關しては、その後オランダとも協定を結んだ。しかしながら、以上の如く協定により濟崩を見つゝあるのは、舊商品關係債務の未濟額であつて、その後更に新たなる債務を生じたるの事實を輕視できない。シャハト中央銀行總裁が、最近非公式にもらしたところによると、新たに精算口座に停滯しつゝある現在の商品關係支拂未濟債務は、五億マーク以上に達し、更に淸算協定のない諸國に對する商品代金未拂額を加算するときは、同債務は更に增加するのである。たゞし、事實上右債務の一部は通常商品取引において利用せらるゝ商品クレディットの代理的役割を演じつゝある。

▼ドイツの國際收入　前記商品關係債務の根本的淘汰はドイツ對外貿易が相當の出超とならざる限り不可能なるも、新計畫實施後八箇月間の對外貿易は、每月平均約二千三百万マークの入超を示し、既に冒頭に述べたるが如く、本年第二四期にいたり初めて均衡狀態を現出せる次第である。更に貿易外收支を一瞥するに、これによる收入超過もさしたる額に非ず、貿易外國際收支に關する最近の公式查定によれば、一九三三年度の海運業よりの外貨純收入はなほかつ二億千三百万マークに達せるも、同收入は以後減少の一途をたどれるものゝ如く、更に一九三三年度の利子および資本收入は約一億五千万マークに達したといへどもこれに對するドイツ側の對外利子支拂負擔も依然相當の巨額に上りつゝある。

一九三四年外貨をもつて支拂はれたる利子は、中央銀行の計算によれば三億乃至四億マークに達して、同年のドイツの利子支拂義務總額の過半乃至三分の二に相當する。その後これに關する協定の改正により利子支拂負擔は相當の減額を見たが、これがドイツ國際收支の根患たる事實には變化なし、更に每年多數に上るドイツ人外國旅行者の費用も對外貿易による收入中より差引かれなければならないのに對し、外國人がドイツへ旅行する場合を見るに、これ等旅行者は殆んど全部レジスターマークその他のドイツ國內保留マークを利用しつゝあるため、これによる爲替の流入は比較的尠し、しかしながら一方においてレジスターマークの制度は外來者の增加を誘致し、一九三四年度において支拂はれたるレジスターマークは總計約四億マークに達した。

ドイツの國際收支はかくの如く不安狀態にあるも、一方ドイツの對外負債は債權國の通貨下落竝に機會を利用せるドイツ側の外債買戻により

重要發明題目の選定（その一一）

特許局

第一三　雜化學工業

一　皮革

（一）鞣革用「タンニン」代用品　鞣革用「タンニン」代用品としては從來「フェノール」類若は其の誘導體と「アルデヒド」との縮合物を「スルホン」化したるもの又は夫等に硫黃若は「アミノ」基を含むもの、「スルホン」化多價「フェノール」類等あるも未だ天然「タンニン」に及ばざるを以て更に一段の研究を望む。

（二）靴底用皮革代用品　靴底用皮革は多く輸入品にして之が代用品としては從來廢物皮革、動植物性纖維等を接着劑に依り板狀に形成したるものあるも耐久力及强靱性に於て未だ不十分なり輕量にして堅牢なるものを望む。

二　肥料

（一）非吸濕性硝酸「アンモン」肥料　人造窒素肥料として硝酸「アンモン」は硫酸「アンモン」に比し有效なるも吸濕性あるを以て之を除くことは肥料問題の一對策として研究を要するところなり從來之に關する發明としては非吸濕性肥料類を混和する方法、硝酸「アンモン」を熔融して滴狀に噴射する方法等あるも未だ實用に供し得ざるを以て更に一層の研究を望む。

（二）乾糞肥料製造法　乾糞肥料製造法としては從來糞尿を其の儘又は吸收劑を加へて蒸發乾固する方法、沈澱劑を加へて有效成分を固形と爲す方法等あるも未だ實施せられたるものなし今後糞尿を簡易に加熱乾燥し以て安價なる乾糞肥料を製造する方法を要望す。

三　化學雜工

（一）「ガソリン」防火劑　火災の際「ガソリン」に投じて假令之を使用不能ならしむるとも其の引火を絕對に防ぐべき藥劑は極めて必要にして四鹽化炭素は相當の效果あるも未だ不十分なるを以て一層の研究を望む。

第2649号　付録

著しく縮少せしめられ、專門家の計算によれば對外債務の減額は總額において新商品關係債務の增額ならびにその他の支拂未濟額の總計を超過するものゝ如く、一九三一年七月約三百億マークと見積られたるドイツの對外債務は、一九三四年末には約百七十二億マークに減少せるものゝ如し。右減額中債權國の通貨下落に起因せる部分は約五十億マークに達するものと見られつゝある。

現存對外債務の內譯を見るに、約六十億マークは短期債務(內十七億五千万マークは支拂停止債務殘額)、七十億マークは長期債務にして殘部の四十二億マークはドイツ國內の外國投資額なり、また對外債務の減退しつゝある一方ドイツの對獨債務も漸次消耗せられつゝある。例へば南米および南歐に凍結しつゝあつた、ドイツ商品關係債權は、一時六億マークに達したが、原料の輸入に難澁を見るにいたり、同金額は殆んど利用しつくされ、東南ヨーロッパ諸國の如きは、今日むしろ反對にドイツに對し債務を有するにいたつたやうな狀態である。蘇聯邦も一九三四年には、數億マークに達する對獨債務を償還し、殘留對獨債務たる二億五千万マークも本年中には大部分償還を見る筈である。とにかくこれ等のドイツ對外債務は爲替缺乏によるドイツ側の原料輸入の困難をすくなからず緩和しつゝある。

▼フリーマークおよびスペルマーク　金準備の不足、巨額の支拂未濟額堆積にもかゝはらず、ドイツ政府より極度にその流通を制限せられたフリーマークの外國相場は、金單位相場を維持せるのみならず、しば〱それ以上に評價せられたため、輸入ドイツ商品支拂のためフリーマークを必要とする諸外國(主として淸算協定のない國)は、直接に或はドイツに隣接せる諸國の仲介により、ドイツ國內へ金を輸入する如き現象を呈するにいたつた。これ即ちドイツ中央銀行が最近その金準備を增加し得た原因である。

これに反して各種のスペルマークは著しく下落しつゝあるも、その原因はこれ等封鎖マークの利用可能性狹隘なためである。一九三三年にはスペルマークはドイツの追加輸出商品支拂に利用せられたため、外國爲替市場において相當重要視せられたるも、その後ドイツ對重要取引諸國の淸算協定完成し、かつまたドイツ側の爲替管理强化の結果、對ドイツ商品支拂手段としてのスペルマーク利用は殆んど完全に終熄し、スペルマークは(但し主として外國人旅行者の利用に供せられつゝあるレヂスターマークは例外とし)單にドイツ國內の固定投資にのみ(有價證券、抵當證券、事業投資、長期クレディット等)利用し得らるることゝなつた。

故に外國のスペルマークの下落をもつて、直にスペルマークの急增または供給增加なりとするは早計であつて、右は主としてスペルマーク利用可能性の惡化に起因するものと見るべきものである。これ等封鎖せられつゝあるマークの全額の大體において、ドイツ借替銀行(Konversionskasse)に堆積しつゝある對外債務元利償還停滯額(現在三億三千万マーク)の範圍をでないやうである。對外支拂未濟商品關係負債(前に述べたやうに約五億マーク)に達すべしとの一般の憶測は、妥當でないやうに見られつゝある。

これ等の外國側の對獨債權たるスペルマークに對する、ドイツ政府の制限を不當なりとする非難に對し、最近中央銀行總裁は國際羊毛會議の席上において、ドイツは外國側の對獨債務を否定するものでない。これを單に經濟的に處理するに過ぎない。從つて時機の到來を待ち得る外國債權者は、その對獨債權において何等損失を蒙ることはないと聲明した。また同會議において總裁は、商品關係債務と戰債とを嚴然區別すべき必要ならびにドイツが外國による商品クレディットを必要とするを强調したのに徵し、戰債の抹殺と巨額の商品クレディットによる對外貿易の常道化が、依然ドイツ政府の二大目標たるは疑を容れ得ざるところである。

▼利子外貨支拂モラトリウムの續行　ドイツの爲替缺乏が殆んど緩和されない實情に鑑み、本年六月中央銀行が、從來の外貨利子支拂モラトリウムを更に一箇年延長したのは一般の豫知したところである。即ち利子の外貨現送を受けざる外國債權者はその利子に相當する額面を有し、三%の外貨利子を附したるドイツ借替銀行の積立證券を要求することができ、右積立證券は期限十箇年で、その利子のみはモラトリウムより除外され、これが支拂履行は政府により保證されることとなつた。但し右積立證券發行の制度も、相手國によりその國との淸算協定に從ひ制限を受けつつある。イギリスは既に客年十一月に個人の對獨債權者に對し、ドイツ借替銀行の積立證券受取を承諾したが、當時の兩國間協定に基き四%の利子を要求した。同對英積立證の流通高は本年度五月現在において千二百万マークに達し、これがロンドン相場は三八%乃至三九%である。

最近スイスと取極められた外貨支拂協定(一九三九年六月三十日まで有效)に從へば同國の對獨債權者に對しても、四%利子付積立證券が交付される筈である。ドイツ政府はまたスイスとの協定において、如何なる場合でも四・五%以上の利子を拂ふことなく、それ以上の率に達する支拂利子は元金償還として計算されることに決定した。オランダその他の諸國とも大體において同樣の原則に從つて協定成立した。ドイツ政府の貿易政策、爲替政策ならびに利子支拂規定に對し最も冷淡であつたのはアメリカで、シャハト氏が同國に對し幾度かドイツ商品輸入制限の緩和を要求したのにかゝはらず、アメリカはこれに對し何等對應策をとらず、また前記モラトリウム利子の代用價値たる、積立證券の同國內の發行も未だ實施にいたらない次第である。

▼結　論　幾度か變更せられたる各國との支拂協定を回顧し、これによつて制限せられつゝあるドイツの對外負債支拂義務の現狀を觀察するに、複雜なる諸現象の中にも一脈の根本的傾向を見逃すことはできない。即ちドイツは對外商品取引および支拂取引を完全に政府の監視の下に統制し、貿易および國際收支は何時にても政府の意の如く、左右し得る强力なる組織を完成し、對外債務支拂問題に關しても漸次各國と協定を遂げることができた。殘るのは、たゞ如何にして輸出貿易を促進せしむるやの問題であつて、對外貿易がドイツに執り出超となるときは、その程度に從ひ債權國に對しても、負債および利子の支拂を履行し得る立場にあり、當初債權國側はドイツのモラトリウムに對し、殆んど恐喝的態度に出でたるも、出超なくして債務の外債支拂は全く不可能なりとする、ドイツ側の頑强なる主張は漸次各國の認めるところとなり、イギリスの如きは率先してドイツ側の支拂延期要求を容るゝと共に、利子の低下にも同意した次第である。

對外負債および利子の現金支拂を停止してから、二箇年以上輸入および爲替統制を完成してより一箇年を經過した今日、かくの如き强力なる統制を何時まで續行し得るや、また外債問題の根本的解決は、何時可能なりやは未知數なるも、これ等の諸問題は世界經濟全般の問題に關連せしめられて、始めて解決せらるべきものであることは明かである。

けだし、シャハト氏が經濟大臣として、また中央銀行總裁として、この方面の獨裁的地位を占めつゝある間は、現行政策はあくまで持續せられる。(在ドイツ長井商務書記官の報告)

伊・エ紛爭問題　(その二)

外務省情報部

◆伊エ直接交涉　十二月五日の衝突事件は間もなく、英エ委員對イタリー駐屯軍司令官の地方的交涉を離れて、伊エ兩國政府間の外交々涉に移つたことは前號において述べた通りである。十二月六日エチオピヤ外相アロイ氏は、アヂス・アベバ駐在伊代理公使モムベリ氏に抗議をなし、同月八日モムベリ氏これに答へエ國の抗議を辯駁した。一九二八年八月二日の伊エ修好條約の第五條には左の規定がある。

「兩國間に發生することあるべき紛爭にして通常外交手段により解決せられざるものは、武力に訴ふることなくしてこれを調停仲裁手續に付すべきことを約す、仲裁委員任命の方式は兩國間の同意による」

エチオピヤ政府は右規定を援用し、翌九日伊代理公使に通牒を交付し、ワルワル事件を仲裁裁判に附すべしとの提案をなしたが、代理公使はこれに答へず、今次の紛爭はエチオピヤ側の攻擊に基因するものであつて、非はエチオピヤ側にありとてオガーデン州知事の謝罪、伊國國旗に對する敬禮、二十万タレール(マリア・テレシヤ貨)の賠償、責任者の處罰等を要求した。しかして十三日エチオピヤ外相が再び仲裁裁判案に對する回答を要求すると、代理公使は翌十四日左の如き理由を附して反對の旨を回答した。「今月五日の衝突事件は事極めて明瞭であつて、些の疑も存しない、則ち衝突は何等挑發の事實なくしてエチオピヤ兵がイタリーの步哨を襲擊せるに基因するものである。從つてエチオピヤ政府が同事件を仲裁裁判に附せんと主張するは伊國政府の諒解に苦しむところである。」

こゝにおいてエチオピヤ政府は、同日電報をもつて國際聯盟の注意を要求し、伊が着々軍事的行動を進めてゐること、エチオピヤが仲裁裁判付托案を提出したのにもかゝはらず、イタリーがこれを拒否せることを擧げて、事態の重大に瀕せる旨を報じた。これよりさき十二月八日伊の飛行機はゲログビおよび英エ委員の引揚げ地であるアドーに爆彈を投下し、委員一行が即日ハラヂギトに退却せる等のことがあり、東阿の形勢は著しく險惡となつて來た。

◆國際聯盟の斡旋　伊エ紛爭はこゝにいたつて國際聯盟の問題となつた。十二月十六日イタリー政府はジュネーヴに書翰を寄せ、ワルワル事件の經過を述べて衝突の責任は、エチオピヤ側が負ふべきものであるとなした。これに對し十八日エチオピヤからイタリーの主張を駁擊せるノートの提出があり、末段に左の如く記載されてあつた。『イタリー政府はワルワル事件を仲裁裁判に附する必要なしと主張するから、エチオピヤ政府は聯盟に對し取敢えず次の點を明かにする。(一)ワルワル衝突事件に關し、最初に攻擊を開始せるものはイタリー軍である、ワルワル衝突の三日後イタリー部隊は更にオガーデン州の內地殊にアドーおよびゲログビを襲擊した(二)ワルワルはエチオピヤ領であつて、伊軍隊のワルワルに占據せるは不法である。』論爭の中心は、これをもつてワルワルが伊領なりや、エチオピヤ領なりや、從つてワルワルに伊國兵營の存するは正當なりや否やといふことに集中された。

一九〇八年五月十六日伊領ソマリランドとエチオピヤとの國境劃定に關する條約が締結された。これによると兩國政府は現地について可成的速かに國境を劃定すべき義務あることになつてゐる。しかるにワルワル事件發生の當時まで右の劃定が行はれてゐない、伊はその間にワルワルを占領したのである。十二月二十四日の通牒において伊はワルワルの歸屬について問題の起るのもつまり國境が不明なためである。從つて伊は何時でも國境劃定に應ずる用意はあるが、その前にエチオピヤ政府は、先づワルワル事件について賠償を支拂ふべきであるとて、左の如き要求をなした。『イタリー政府は一九〇八年の條約締結以來、伊領ソマリランド、エチオピヤ間の國境劃定に應ずるの用意があつた。しかして一九一〇年伊エ委員會はドロ地帶の國境だけは定めたが、エチオピヤ政府の故障によりて同事業は間もなく中絕となつた。されば今日まで國境劃定の完成されないのは、エチオピヤ政府の責任である。イタリーは現在でも劃定作業の再開に毫も異議はない。但し國境劃定に着手する前にエチオピヤ政府は、先づワル

(二)一酸化炭素又は青酸の吸收罐の破過點指示劑　一酸化炭素及青酸は無色、無臭又は殆ど無臭にして其の吸收罐の破過點即ち「ガス」の飽和點を指示すること必要なるも未だ適當なる指示劑なきを以て之が研究を望む。

(三)攝氏零下四〇度以下の溫度に於て使用し得る防曇劑　從來の防曇劑は「グリセリン」其の他の多價「アルコール」類、植物性粘液質物、「レジン」、糖類、蠟、苦汁、「アルカリ」鹽等を配合したるものにして常溫に於ては相當有效なるも攝氏零下四〇度以下の溫度に於ては效果なきを以て一層の研究を望む。

(四)空氣の濾過層　煙の如き微粒子を含む空氣の濾過層としては從來動植物纖維を處理し又は之に活性炭素其の他の吸着劑を混和したるもの等あるも未だ不十分なるを以て更に通氣抵抗小にして效果顯著なるものを望む。

(五)「リグナム・バイテ」代用品　「リグナム・バイテ」は國產全くなきを以て之が代用品を製すること極めて重要なり未だ何等の發明なく人造「レジン」等に依る人造木材等の研究も一方針なるべし。

(六)空氣除濕裝置　空氣除濕裝置としては從來鹽化「カルシウム」、「アドソール」等を使用したるもの、冷却に依る除濕裝置等あるも未だ不十分にして殊に船舶に於て使用するに適する輕量小型のものを望む。

(七)蒸溜に依らずして海水より淨水を採取する方法　海水より淨水を採取する方法としては從來專ら蒸溜法に依りたるも多額の經費を要するを以て他の方法に依ること必要なり之が研究を望む。

(八)防音防熱材料　防音防熱材料としては從來專ら纖維狀物質を使用したるも未だ不十分なるを以て輕量にして有效なるものを望む。

(九)石綿代用品　石綿は國產殆どなく之が代用品としては僅に鑛滓綿あるも未だ不十分なるを以て一層の研究を要望す。

(一〇)冷光燈　現在の燈光は其の熱に因る幾多の缺點あるを以て熱を伴はざる燈光は必要なるも適當なる光源なく僅に夜光塗料に用ふる發光體あるに過ぎずして冷光燈としては未だ實用に適せざるを以て之が研究を望む。

(一一)安價なる發煙劑　發煙劑としては從來錫、「チタン」等の鹽化物、燐又は亞鉛及炭化水素鹽化物を主劑とするもの等あるも相當高價なるを以て更に安價なるもの殊に亞鉛を用ひざるものを望む。

(一二)木材防火劑　木材防火劑としては從來硫酸「アルミニウム」、硼砂、硫酸「マグネシア」、「アンモニア」鹽類、燐酸鹽類、「ロジン」、石鹼等あるも未だ不十分なるを以て一層の研究を望む。

(一三)耐久消火劑　從來消火劑としては不燃性膜を形成するものとして硼砂、硫酸「アルミニウム」、明礬末、石鹼、「サポニン」含有物等又不燃性「ガス」を發生するものとして重炭酸鹽類、「アンモニア」鹽類等あるも此等は貯藏中に變質するを以て更に耐久力あるものを望む。

(一四)鑛業廢物利用法　鑛業廢物例へば熔鑛爐より排出する亞硫酸「ガス」、「ラメーソ」法に於ける芒硝等を利用するが如きは鑛業に於ける經費節減を圖る所以にして一段の研究を望む。

(一五)海藻類利用法　從來食料、糊料、肥料、工業品等に利用しつつあるも我國に於ては海藻類豐富なるを以て更に之が利用法の研究を望む。

(一六)耐濕一酸化炭素吸收劑　一酸化炭素吸收劑として從來專ら使用せらるる「マンガン」、銅等の酸化物の混合物は吸濕性大なるを以て吸濕性なくして一酸化炭素を吸收、吸着又は酸化等に依り捕捉し得る藥劑を希望す。

機械之部及化學之部はこれをもつて記述を了したから、次號より電氣の部を揭載して研究の資に供することにしやう。

ワル事件に關し謝罪賠償をなすべき義務がある。ワルワル事件はエチオピヤの攻撃に基くものであつて、エチオピヤの行爲は明かに伊エ條約の違反であり聯盟規約の侵犯である。』

十二月三十一日エチオピヤは電報をもつて、右の主張を反駁し、『エチオピヤ政府は一九三一年十二月十二日の通牒をもつて、なるべく速かに伊領ソマリランドとエチオピヤとの國境を一九〇八年條約に準據して劃定せんことを伊國政府に申入れた。しかるに右申入に對し伊國からは今日まで何等の回答にも接しないのである。今やイタリー政府が一九〇八年の條約により國境劃定に應ずる意思ある旨を表明せられたることはエチオピヤの多とするところであるが、賠償先決の要求には應じ難い。何となれば衝突事件の責任が何れにあるやの決定をみざる前に、賠償を支拂ふ如きは有り得ないことである。』

エチオピヤ政府はワルワルがエチオピヤ領であることを證明する一つの材料として、一九三五年、則ち本年一月十五日の覺書において、英國參謀本部の地圖第二千八百七十一號を引用した。同地圖によると、ワルワルは海岸より二百四十マイルの地點にある。條約に規定された伊領ソマリランドとエチオピアとの國境線から西へ六十マイルもエチオピヤ領内に入つてゐる。一八九七年九月三日メネリック王と伊國ネラチニ少佐との間に成立した協定によると、伊領ソマリランドとエチオピヤとの國境は海岸から百八十マイルの線と規定されてゐるのである。エチオピヤはこれ等の點を擧げてワルワルがエチオピヤ領たることに些の疑惑も存しないと主張した。

一方エチオピヤ政府は、その後聯盟宛電報をもつてエチオピヤは必ずしも賠償を支拂はないわけではない。責任の處在さへ明かになれば伊國の要求に應ずるに吝かなものでないといつて讓歩の意を示せるにもかゝはらず、伊は耳を傾けず公然としてエチオピヤ遠征の準備を進めて行つた。この形勢に不安を感じたエチオピヤは再び聯盟の助力を求め、聯盟規約第十一條第二項に基き、本年一月三日聯盟理事會に事情を訴へた。

しかるにローマ政府は理事會の問題となることを避け、ムッソリーニ首相は一月十日駐伊エチオピヤ公使を招致し、會談の結果伊側でワルワル事件を仲裁裁判に付托することを承諾し、その旨雙方より十九日付で事務總長に通告したから、十一日から開かれてゐた第八十四回聯盟理事會は左の決議なして、兩國直接交渉の結果を待つことになつた。

「聯盟理事會は伊エ兩國代表より聯盟事務總長に交付せられた書翰の趣旨を諒承した。同書翰によれば伊エ兩政府は和協の精神に充たされ、一九二八年の伊エ修好條約第五條に基き、現紛爭を平和的に解決するの用意あり、新事件の續發を防ぐに必要なるあらゆる手段を講ずることであるから、エチオピヤの申入に關する理事會の審議は次會までこれを延期する」。

伊エ間に直接交渉の再開されたことについては、英佛の裏面における斡旋も與つて力があり、それにはまたいろ〳〵の事情があつた。則ち當時對獨問題で手古摺つてゐた英佛は、エチオピヤ問題で聯盟がその上紛糾することを好まなかつたことが一つ、ストレーザ會議で得られた英佛伊の三國協調がこの事件で破綻を曝露するにいたるを恐れたことが一つ、一月七日のローマ協定で佛領ソマリランドの一部を讓歩してまで伊の歡心を買ふに急であつた佛は、エチオピヤにおける伊の活動を強いて阻止する肚のなかつたことが一つであつた。しかして英もまた當時は大體佛と同樣でアヂス・アベバ駐箚の英公使はエチオピヤに讓歩させることに努めたものである。この如き事情であつたから、伊もまた英佛は結局イタリーのエチオピヤ處分を默認するものと信じ直接交渉に入つてからも、ワルワル事件の解決に力を入れず、高壓的にエチオピヤを屈伏せしめんとした。伊太利が此の目的を達するために採用した手段の一つは、エチオピヤの内情を曝露してエチオピヤが聯盟國たるの資格なきことを内外に喧傳することであつた、その二は最後通牒を以てエチオピヤを威嚇し、國内に動員令を下したことであつた。しかして一月十六日ムッソリーニの殖相兼任と同時に伊領ソマリランドとエリトリヤとを合せて高級委員デボノ將軍の統轄下に置いたことも同じくこの目的に出たものである。

二月二十三日伊は出征軍の海上輸送を開始した、しかして兩國の直接交渉はアヂス・アベバ駐箚伊國公使が仲裁裁判による國境劃定に先ち中立地帶を設定すべしとの要求を提出し、エ國は頑強にこれを拒絶せるため、復び行詰りとなつた。

最近官廳刊行圖書抄報

◎昭和十一年潮汐表　上卷　海軍水路部
日本郵船會社發賣（東京、丸ノ内二丁目）　一圓三〇錢（送料一〇錢）
◎國民精神文化類輯第七輯
自由主義の批判　文部省國民精神文化研究所
同研究所發賣（東京、品川區上大崎長者丸）　一五錢（送料共）
◎哲學科研究年報　第二輯　臺北帝國大學
巖松堂書店發賣（東京、神田區神保町）　二圓二〇錢（送料一二錢）
◎北滿鐵道讓渡交渉關係發表集（續編）　外務省
◎中小河川改良事業と其の效果　内務省
◎津浪災害豫防林（防潮林）造成に關する技術的考察　農林省
◎地方に散在する工業化した町村に關する調査　商工省
◎昭和七・八年度電信電話線路ニ關スル年度末報告集計　遞信省
◎第一回東洋觀光會議議事錄竝附屬書　鐵道省
◎昭和九年度産金奬勵の實績大要　朝鮮總督府
◎南支那及南洋調査第二二二輯
南支那及南洋調査書目錄　臺灣總督府
◎關東州治概要　關東局關東州廳
◎管内概況　樺太廳敷香支廳
◎昭和九年警視廳防疫年鑑　警視廳
◎北海道商工事情　第一五號　北海道廳
◎昭和九年度農産物檢查成績報告　東京府
◎神奈川縣社會教育概要　神奈川縣
◎家具のヅアン　兵庫縣林業試驗場
◎苧麻の栽培加工　長崎縣農事試驗場
◎學校經營の研究　群馬縣女子師範學校
◎産繭取引合理化奬勵成績　愛知縣
◎靜岡縣の畜産　昭和九年　靜岡縣
◎漁業組合制度の概要　滋賀縣
◎水防資料　岐阜縣

なほ官廳刊行圖書の全部およびその内容等については印刷局發賣の「官廳刊行圖書目錄」に登載してある。

◆前週の官報に◆

	日
◎輸出活動寫眞フイルム取締規則（内務省令）	二一
◎九月中の外國貿易概表（彙報）	二一
◎九月分の外國貿易國別額（同）	二二
◎朝鮮總督府遞信官署官制中改正（勅令）	二三
◎柑橘輸出許可規則中改正竝に同規則により船舶指定（商工・農林省令、同告示）	二三
◎九月の十三都市小賣物價概況（彙報）	二三
◎菊花拜觀差許（同）	二四
◎昭和九年度畜牛結核病檢查成績（同）	二四
◎地方待遇職員令中改正（勅令）	二六
◎十月十五日現在預金部狀況（彙報）	二六
◎八月の全國絹織物および人造絹織物産額概況（同）	二六

第2649号　付録